

厚真町議会第5次厚真町総合計画策定 に係る調査特別委員会資料

(令和8年2月12日)

【件名】

「第5次厚真町総合計画（素案）及び意見募集の開始」について

まちづくり推進課

第5次厚真町総合計画（素案）

令和8年 月



第5次厚真町総合計画（素案）目次

第1編 総論	2
第1章 はじめに	3
第2章 これまでの歴史とまちづくりの変遷	4
第3章 計画の位置づけ・期間・対象	8
第4章 計画のスタイル	9
第5章 策定の考え方と方法	10
第6章 評価手法	11
第7章 まちの課題認識	14
第2編 基本構想	20
第1章 基本構想とは	21
第2章 10年後の将来像	21
第3章 基本目標と施策体系	22
第3編 基本計画	26
第1章 基本計画の概要	27
第2章 基本計画の見方 施策ロジックモデルの読み解き方	28
第3章 基本計画（ロジックモデル集）	30
第4章 18施策の結果指標と社会的インパクト一覧	66
第4編 付録	76
第1章 厚真町の人口の見通し	77
第2章 土地利用ビジョン	79
第3章 総合計画策定のあゆみ	81
第4章 総合計画策定メンバー	83

第1編 総論

第1編 総論

第1章 はじめに

北海道の大地に抱かれた厚真町。広がる田園風景と豊かな自然の中で、私たちは代々受け継がれてきた文化や産業を大切にしながら、未来へと歩みを進めてきました。

平成30年(2018年)の北海道胆振東部地震は、町に大きな爪痕を残しましたが、復興への懸命な努力の中で、地域の絆の大切さと災害に強いまちづくりの必要性を深く認識しました。第4次総合計画に基づき、人口減少という課題に真正面から取り組んだ結果、震災前の平成28年(2016年)から平成30年(2018年)、そして令和4年(2022年)から令和5年(2023年)にかけて「社会増」を達成^{※1}し、急速な人口減少の緩和に一定の成果を挙げました。また、合計特殊出生率も平成30年(2018年)から令和4年(2022年)の5年間平均で1.39^{※2}となり、全国・北海道平均を上回る水準となりました。

しかし、人口は令和32年(2050年)に2,931人まで減少するとの予測もあります^{※3}。人口減少が町の活力喪失に直結しないよう、持続可能なまちのあり方を考える時代が到来しています。一方で、DXやGXの推進、新庁舎をはじめとする文化交流施設や上厚真ゼロカーボンビレッジの整備など、新たな可能性も広がっています。世代を超えた多様な交流が生まれ、まちの賑わいが再び広がる未来が、すぐそこまで来ています。

本計画は、従来の計画とは異なるアプローチを採用しています。アンケートやヒアリング、ワークショップを通じて、町民の皆さんの声を集め、今のまちが抱えている課題を丁寧に整理しました。そのうえで、「どのような取組を行い、どのような成果につなげていくのか」をわかりやすく整理した「ロジックモデル」を示し、成果を確認できる具体的な目安(指標)を設定しています。こうした積み重ねをもとに、将来のまちの目標や基本的な方向性をまとめた、実行につながる計画としています。

日本全体で人口減少が進む中、私たちは、幾多の試練を乗り越え、この町を拓いてきた先人たちの想いを受け継ぎながら、DX、GX、SDGsといった新しい時代の流れを取り入れていきます。目指すのは、ただ人口を増やすことではありません。厚真町のポテンシャルを引き出し、町民が幸せを実感できる魅力あふれるまちをつくること。そうすれば、自然と人が集まり、住み続けたい、帰りたくなるまちが生まれます。このまちづくりを、町民一丸となって推進します。

※1：総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数より

※2：厚労省、人口動態、保健所・市町村別統計より

※3：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2023年推計)」より

第2章 これまでの歴史とまちづくりの変遷

一万年以上続く、人々の営みとダイナミックな交易の歴史

厚真町の歴史は、約 1 万 4,500 年前の旧石器時代にまでさかのぼります。厚真川の流域では、長い年月にわたって人々の暮らしが営まれてきました。縄文時代以降の遺跡からは、富良野や十勝地方など北海道内陸部と行き来があったことを示す多くの出土品が見つかりま

す。さらに、10 世紀ごろから交易が盛んになると、ロシア極東地域や朝鮮半島、博多や京都、常滑、鎌倉など各地の産物が、東北地方やサハリンを経由して厚真にももたらされていたことが、発掘調査によって明らかになりました。こうした広い地域とのつながりは、全国からも注目されています。

このように厚真町は、古くから厚真川が育んだ豊かな自然と、交流が生まれやすい立地に恵まれた地域でした。その環境の中で、先住民族であるアイヌの人々の豊かな生活文化が育まれ、受け継がれてきました。

林業の町 厚真の誕生

1870 年・明治 3 年に新潟県人青木与八が浜厚真に定住し、明治 20 年・今から約 140 年前ころから富山県や石川県、岩手県など本州からの和人の移住が本格化します。

厚真川流域に広がっていた原野や森林は、人々の手によって少しずつ水田や畑へと開かれてきました。用水路の整備や土づくりの工夫などに、地域の人々が力を合わせて取り組み、その積み重ねによって、農業の町としての厚真町の基盤が築かれてきました。

夕張山地南部に位置する厚真の原生林を資源として、製材所や炭焼き窯が町内各所につくられ、明治 30 年・1897 年に苫小牧村から厚真村が独立し、行政単位としての厚真が誕生します。

その後も急速な発展を遂げ、これらの生産・流通・地域経済の拠点として、現在の厚真町市街地が形成されてきました。

昭和の躍進的発展「苫東開発」

現在の厚真町の発展は、厚真町・苫小牧市・安平町にまたがる「苫小牧東部工業地帯」の開発を大きなきっかけとして進んできました。1980 年（昭和 55 年）に北海道電力苫東厚真火力発電所 1 号機の運転が始まり、現在では北海道最大規模の火力発電所となっています。さらに、国内最大級の石油備蓄基地の整備や、日本海航路の定期フェリーの就航などが進み、厚真町は北海道のエネルギー供給や全国につながる物流の拠点として、重要な役割を担っています。

また、北海道の空の玄関口である新千歳空港から 1 時間以内という立地にも恵まれており、産業・物流・交流の面で大きな優位性を持っています。

これらの条件を生かし、厚真町は豊かな自然と調和しながら、さらなる発展につながる高いポテンシャルを備えた町と言えます。

まちづくりの変遷

第1期

厚真の新しいまちづくり計画
昭和48年（1973年）～

“すぐれた文化生活の確保と豊かな生産
を目指して”

苫小牧東部大規模工業基地開発計画などの発表を契機に、町初のまちづくり計画が策定されました。

隣人愛に富んだ静かな暮らしの伝統を守り、高水準の文化生活と環境保全を実現し、生活と生産の場を適正に配置した機能的な地域社会の形成を図りました。

公害のない生産性の高い産業振興により、豊かな生活と生産の両立を目指しました。

第2期

厚真町新総合計画
平成8年（1996年）～平成17年（2005年）

“交流さそう、緑とゆとりにあふれた
「大いなる田園」の町”

「交流をさそう、緑とゆとりにあふれた大いなる田園の町」を基本テーマに、第2次となる厚真町新総合計画が策定されました。

水害のないまちづくり、基幹産業である農業をはじめとする諸産業の振興、生活環境の整備、教育文化の振興、福祉の充実を図るとともに、苫小牧東部開発新計画との整合性を保ちながら、弾力的かつ積極的なまちづくりを進めました。

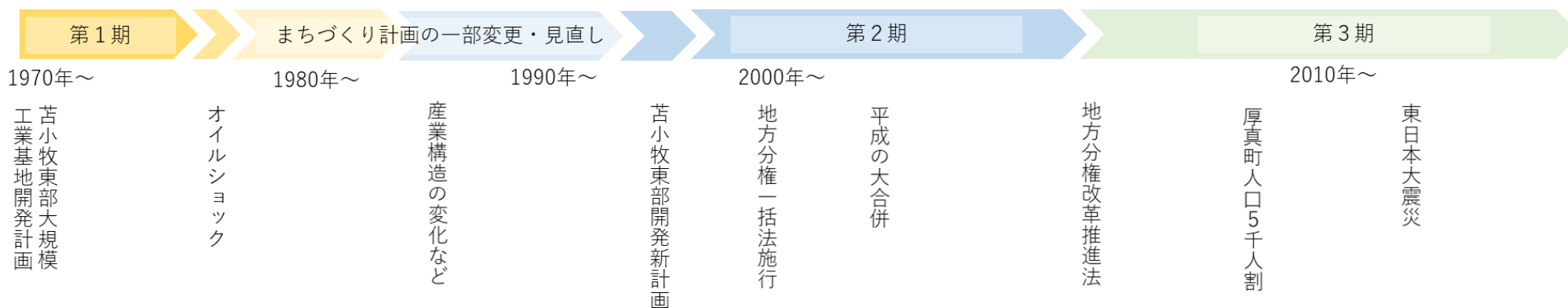
第3期

第3次厚真町総合計画
平成18年（2006年）～平成27年（2015年）

“いのち満ちる農（みのり）里あつま、
大いなる田園の町”

全町民の英知と力を結集し、協働の仕組みづくりを進め、活力にあふれ自立する“ふるさとあつま”を創造するというコンセプトのもと、自律と協働のまちづくりを推進する計画が策定されました。

従来より積極的・戦略的にまちづくりを進め、町の活性化を図るとともに、長期的視点に立って優先度が高く町民生活の安定向上に有効な施策・事業を展開しました。



第4期

第4次厚真町総合計画
平成28年（2016年）～令和7年（2025年）

“あつまる、つながる、まとまる、
大いなる田園の町、あつま”

少子高齢化が進行し、産業全体の後継者不足・人材不足など地域経済の発展や活力ある地域社会の形成などに課題が生じてるなか、厚真町がもつ限らない可能性を信じ、人を育て・人を残し、先達から受け継いだ「豊かな森と海、田園の輝き」を次世代に引き継ぐため、山積する課題に積極果敢に新しいまちづくりに挑戦してきました。

第4.5期

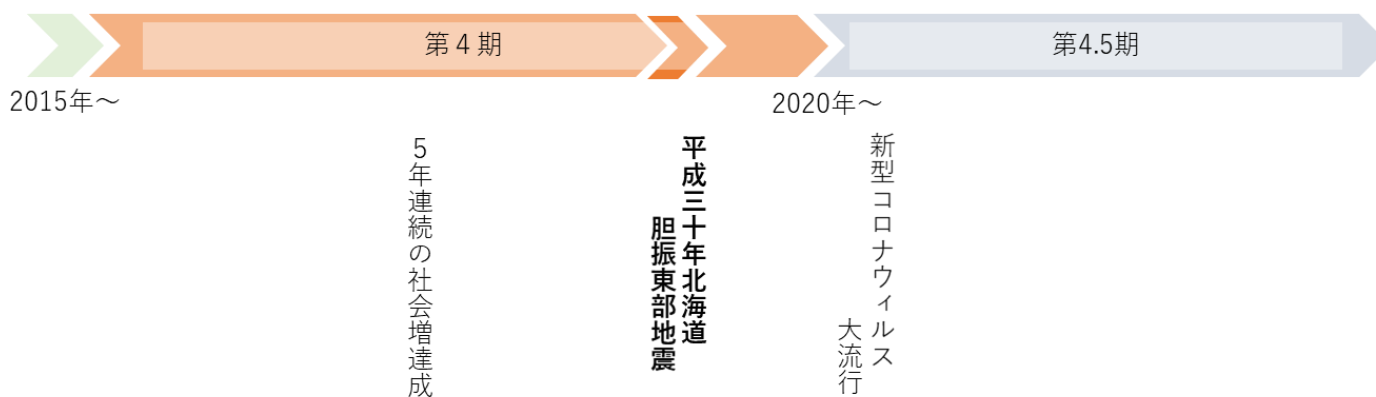
第4次厚真町総合計画 改訂版
平成28年（2016年）～令和7年（2025年）

“あつまる、つながる、まとまる、
大いなる田園の町、あつま”

第4次の総合計画の期間中、平成30年北海道胆振東部地震により未曾有の被害を受けました。このため、復興計画や人口減少問題に取り組むための総合戦略を盛り込んだ、第4次厚真町総合計画の改訂作業をおこないました。改訂版では、震災からの復旧・復興、地方創生、防災・減災の取り組みを一体的に推進し、しなやかで持続的発展が可能なまちづくりを目指してきました。

第5期

次の新たな10年へ



第3章 計画の位置づけ・期間・対象

3-1 計画の位置づけ

本計画は、町が策定する計画のうち、最も基本となる計画であって、行政や町民、関係人口など、厚真町に関わる様々な主体が共創してまちづくりを進めるための基本的な方向性を示す羅針盤とします。

特定分野における町の政策における基本的な方向等を明らかにする計画（以下、「分野別計画」という。）は、総合計画が示す政策の基本的な方向に沿って策定し、推進することとします。

3-2 計画期間

令和8年度～令和17年度（2026～2035年度）の10年間

3-3 対象区域

町全域

3-4 対象主体

地域住民

広域連携（胆振管内・北海道）

民間企業

連携大学

NPO等

本計画は、これらの多様な主体との協働を前提とします。

第4章 計画のスタイル

4-1 計画の構成

本計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3層構造で構成します。

4-2 基本構想（10年間）

計画的かつ戦略的にまちづくりを行うための基本的指針で、10年間の長期的な構想を示します。

期間：令和8年度～令和17年度（2026～2035年度）

4-3 基本計画（前期・後期各5年間）

基本構想に基づき、達成すべき目標や、その道筋を示した中期的な計画です。前期・後期のそれぞれ5年間で構成します。

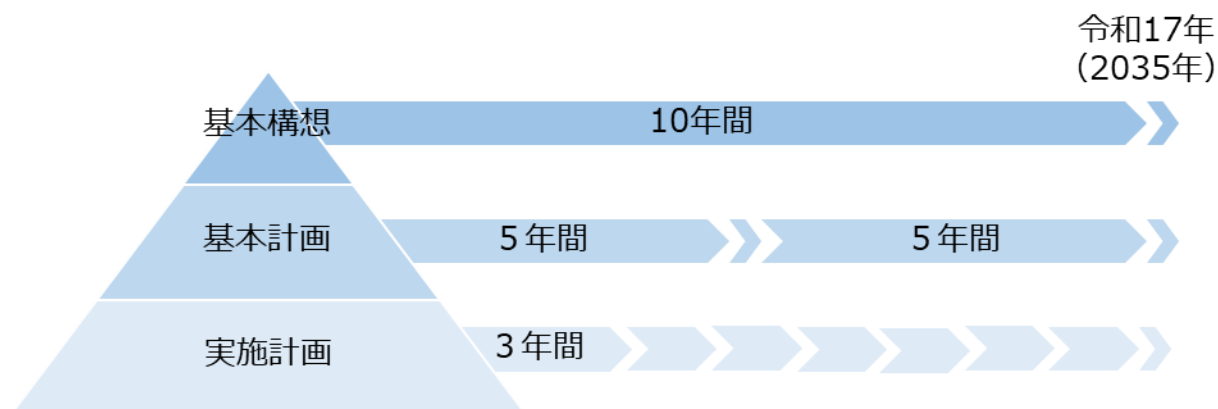
前期：令和8年度～令和12年度（2026～2030年度）

後期：令和13年度～令和17年度（2031～2035年度）

4-4 実施計画（3年間）

基本計画で定めた数値目標や成果指標等を達成するための具体的な事業や実施期間を定めた、3年間の短期計画です。

毎年度ローリング方式により見直しを行います。



第5章 策定の考え方と方法

本計画では、現状を正しく把握し、何から取り組むべきかを明確にするため、段階を踏んで計画づくりを進めました。

まず、まちが抱えている課題を整理し、課題構造が見える形にしました。次に、地域幸福度調査を通じて、町民の暮らしや満足度、感じている課題を把握しました。

その結果をもとに、取組から成果までのつながりを整理する「ロジックモデル」を構築し、実行につながる計画としてまとめています。

5-1 課題構造の可視化

本計画策定にあたり、職員ワークショップを通じて、まちが抱える課題を19の分野に整理し、課題同士のつながりを可視化した**課題構造マップ**を作成することにより、課題構造を可視化しました。

→ 課題構造マップとは

まちの課題同士がどのように影響し合っているかを、矢印でつないで示した図です。

例えば、「地域交通の不便」という課題があると、それが「外出機会の減少」につながり、さらに「交流の減少」や「買い物の困難」へと波及していきます。このように、一つの課題が別の課題を引き起こす連鎖が見える化することで、どこに力を入れれば複数の課題を同時に改善できるかが分かります。

この「効きやすい場所」をレバレッジポイント(効きどころ)と呼び、レバレッジポイントに優先的に取り組むことで、限られた資源を効果的に使い、まち全体に良い変化を広げることができます。

5-2 地域幸福度調査

町では令和6年(2024年)、デジタル庁の**地域幸福度(Well-Being)指標**を活用し、住民の主観的な幸福感と客観的な生活環境データを組み合わせた調査を実施しました(有効回答404件)。

→ 地域幸福度(Well-Being)とは

地域幸福度(Well-Being)とは、住民一人ひとりが「心身ともに健康で、自分らしく生きられている」と感じられる状態を指します。単に経済的な豊かさだけでなく、健康、教育、つながり、環境、安心・安全など、暮らしの様々な側面を総合的にとらえる考え方です。

デジタル庁では、全国の自治体が共通の指標で地域幸福度を測れるよう、地域幸福度(Well-Being)指標を整備しています。これにより、住民の実感(主観)と統計データ(客観)の両面から、まちの状態を把握することができます。

→ 地域幸福度調査とは

地域幸福度調査では、主観データ(町民の実感)と客観データ(統計の実態)の両方を測ります。

主観データ(アンケート)：「幸せですか?」「暮らしに満足していますか?」など、町民が感じている満足度や安心感を数値化します。

客観データ(統計)：人口、医療施設数、商業施設へのアクセス、雇用状況など、実際の数値を使います。

この二つを重ね合わせることで、「設備は整っているのに満足度が低い」場合は使い勝手やアクセスの改善が必要、「満足度は高いのに利用が少ない」場合は周知不足、といった具体的な対応策が見えてきます。

5-3 ロジックモデルの構築(やること→出るもの→良くなること)

本計画では、各施策について**ロジックモデル**という設計図を作成しています。

→ ロジックモデルとは

ロジックモデルとは、施策ごとに、

取組(やること)→直接的結果(目に見える産出)→社会的インパクト(望ましい変化：短期・中期・長期)

の順番で並べた設計図です。

例えば

- ・ **取組：**研修の開催、施設の整備、情報の周知、相談窓口の設置
- ・ **直接的結果：**開催回数、参加者数、配布数、連携件数など、すぐ数えられるもの
- ・ **社会的インパクト：**取組で直接的に左右することができない、地域や人の変化

このように、行事や補助を「やった」で終わらせず、暮らしの変化(成果)までたどり着く道筋を最初から決めることで、本当に効果のある施策を実施できます。

直接的結果については、その実施状況を測る「結果指標」を設定しています。社会的インパクトについては、初期成果(2～4年)、中期成果(5～8年)、長期成果(9～10年)の3段階で整理し、各施策が目指す望ましい変化を明示しています。

第6章 評価手法

6-1 基本的な考え方

本計画では、よりよい成果につながる行政運営を行うため、ロジックモデルに基づいた評価の仕組みを取り入れます。施策ごとに、「ど

のような取組を行い、どのような成果につながるのか」という流れを明確にし、計画・実行・点検・改善を繰り返す PDCA サイクルによって、継続的な見直しと改善を進めていきます。

各施策の進捗状況は、取組の実施状況を示す「直接的結果」と、ロジックモデルに示した「社会的インパクト」の実現状況を確認しながら把握します。直接的結果については結果指標により測定し、社会的インパクトについては、各施策が目指す望ましい変化の実現状況を多角的な視点から確認します。

これにより、限られた資源をより効果的に使いながら、町民一人ひとりの暮らしの質の向上につなげていきます。

6-2 評価と改善のサイクル

本計画の評価は、毎年度実施し、必要に応じて施策や事業の見直しを行います。また、中間年（令和 12 年度）には計画全体の進捗状況を総合的に検証し、社会情勢の変化等を踏まえた見直しを行います。

評価結果は町民に分かりやすく公表し、説明責任を果たすとともに、次年度以降の施策の改善につなげていきます。

6-2-1 Plan（計画） | 実施計画の策定と予算編成

- 実施計画の策定
- 予算編成

6-2-2 Do（実行） | 事業の執行

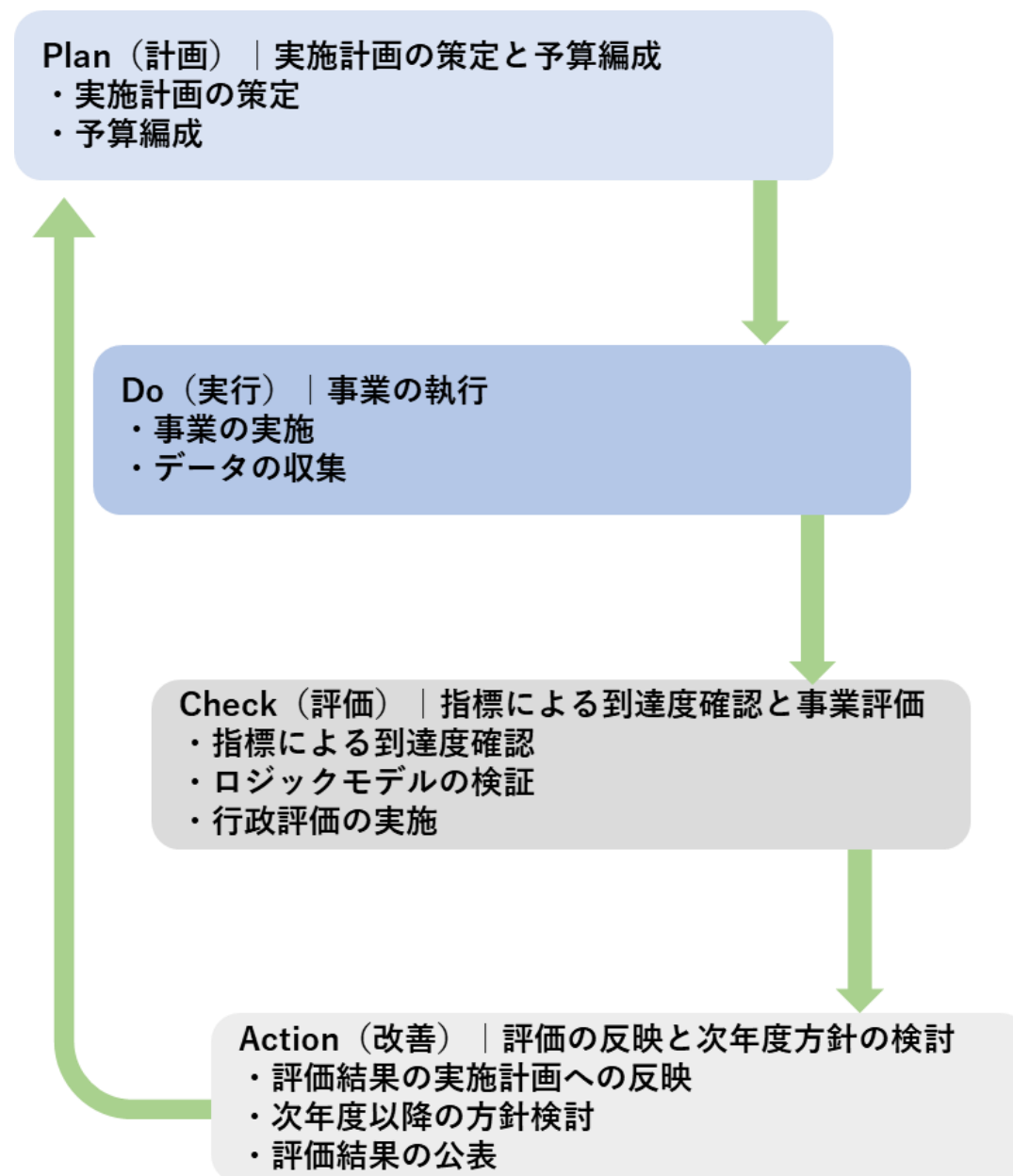
- 事業の実施
- データの収集

6-2-3 Check（評価） | 指標による到達度確認と事業評価

- 指標による到達度確認
- ロジックモデルの検証
- 行政評価の実施

6－2－4 Action（改善） | 評価の反映と次年度方針の検討

- 評価結果の実施計画への反映
- 次年度以降の方針検討
- 評価結果の公表

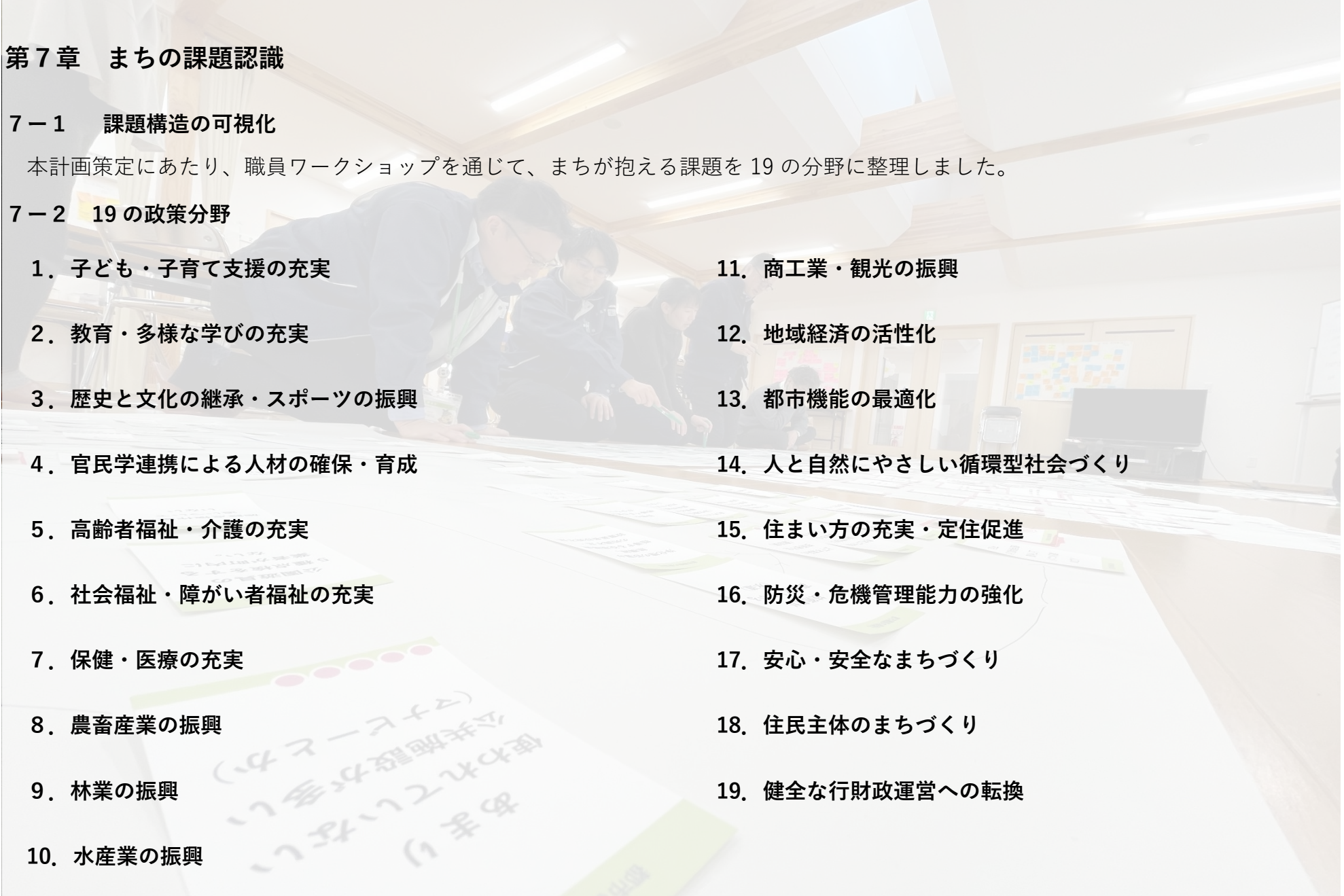


第7章 まちの課題認識

7-1 課題構造の可視化

本計画策定にあたり、職員ワークショップを通じて、まちが抱える課題を19の分野に整理しました。

7-2 19の政策分野

- 
1. 子ども・子育て支援の充実
 2. 教育・多様な学びの充実
 3. 歴史と文化の継承・スポーツの振興
 4. 官民学連携による人材の確保・育成
 5. 高齢者福祉・介護の充実
 6. 社会福祉・障がい者福祉の充実
 7. 保健・医療の充実
 8. 農畜産業の振興
 9. 林業の振興
 10. 水産業の振興
 11. 商工業・観光の振興
 12. 地域経済の活性化
 13. 都市機能の最適化
 14. 人と自然にやさしい循環型社会づくり
 15. 住まい方の充実・定住促進
 16. 防災・危機管理能力の強化
 17. 安心・安全なまちづくり
 18. 住民主体のまちづくり
 19. 健全な行財政運営への転換

7-3 課題構造の可視化によって明らかになった、厚真町の課題

厚真町では、人口減少や少子高齢化の進行により、担い手不足や産業・経済の変化が重なり、さまざまな分野で課題が広がっています。

子育て・教育分野では、保護者の孤立や移動のしにくさが、子どもたちの学びや体験の機会を限られたものにしてしています。**歴史・文化・スポーツ分野**では、担い手の減少が、多世代交流の機会減少につながっています。**人材育成分野**では、新たな担い手の受け入れ態勢の脆弱さと、新しいことに挑戦することへの心理的なハードルにより、取組が停滞しています。**高齢者・障がい福祉分野**では、介護人材の不足や地域のつながりの弱まりが、孤立を深める要因となっています。**保健・医療分野**では、医療従事者の不足や受診のしにくさが、病気の重症化リスクを高めています。

また、一次産業では、**農畜産業・林業・水産業**のいずれにおいても、厳しい経営環境や後継者不足が大きな課題となっています。**商工業・観光分野**では、町内での消費を促す魅力づくりや情報発信が十分でなく、消費が町外へ流出しています。**地域経済の活性化**においては、公的支援への期待が高まる一方で、民間同士が連携する機会が少なく、自立した経済の循環が生まれにくい状況です。**都市機能**の分野では、インフラの老朽化に加え、財源や人材の不足が維持管理を難しくしています。**循環型社会づくり**では、環境への意識を保つことの難しさやコストを重視する考え方が、新しい技術の導入を遅らせています。**住まい・定住促進**では、空き家が十分に活用されていないことや、住環境の魅力低下が定住の妨げとなっています。

防災分野では、震災の記憶の風化や高齢化の進行により、自助や共助の力が弱まりつつあります。**安心・安全なまちづくり**では、交通事故のリスクや防犯機能の低下が、日常生活の安全性に影響を与えています。**住民主体のまちづくり**においては、公的支援への依存が高まる一方で、自治会活動の担い手不足や参加意義の見直しが求められており、地域の合意形成が難しくなっています。**行財政運営**では、これまでの組織慣習や部署間の連携不足が、将来を見据えた重点的な投資を妨げており、職員の業務負担の増加がデジタル化の進展を遅らせています。

このように、「地域コミュニティの希薄化」や「新たな挑戦への心理的ハードル」といった分野を超えた共通の課題が、デジタル化の推進や新規参入、支え合いの仕組みづくりを阻む大きな要因となっています。各分野の課題が互いに影響し合う中で、行政サービスだけに頼る仕組みには限界が見え始めており、地域全体の持続可能性が問われています。

7-4 地域幸福度調査から見た厚真町の特徴

令和6年(2024年)に実施した地域幸福度調査(有効回答404件)から、厚真町の強みと課題が明らかになりました。

7-4-1 町の強み(主観・客観ともに高い)

- ・ 地域とのつながり
- ・ 健康状態
- ・ 環境共生
- ・ 自然災害
- ・ 住宅環境

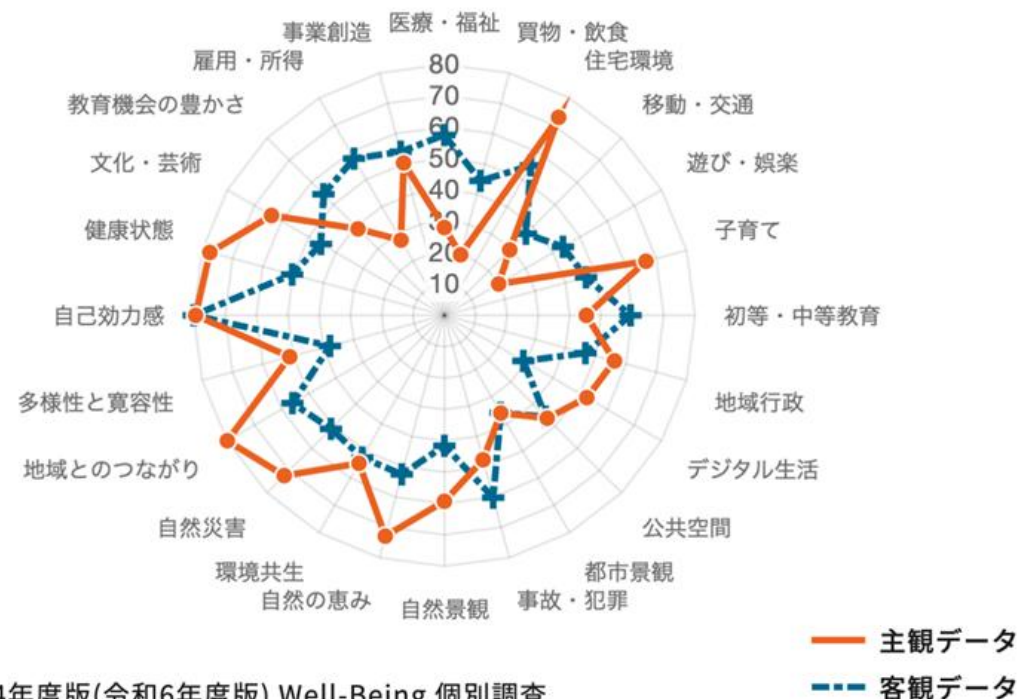
7-4-2 町の弱点(主観・客観ともに低い)

- ・ 公共空間
- ・ 都市景観
- ・ 移動交通
- ・ 買物・飲食
- ・ 遊び・娯楽

7-4-3 主観が客観より低い(実感が統計より悪い)

- ・ 医療福祉
- ・ 買物・飲食
- ・ 移動交通
- ・ 遊び・娯楽

カテゴリー別



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

7-5 ワークショップから得られた生活実感

令和6年(2024年)8月から9月にかけて、中高生、一般町民、女性を対象とした3回のワークショップを開催し、町民の生活実感を丁寧に聞き取りました。

7-5-1 教育機会の豊かさに関する課題

○ 中高生の声

「町内に塾が少なく地域外に出る必要性」「大人が学び続ける施設や機会の少なさ」「町主催ではない文化に関する学び場の少なさ」が挙げられました。また、高齢者が車で移動できなくなることで学びの場にアクセスできないという、移動交通とも関わる課題が明らかになりました。

○ 一般町民の声

「スポーツに関する学びの機会が少ない」「移動図書館を学校のみを対象に実施するのではなく、町民にも実施したらどうか」という意見があり、移動交通の課題がある町のなかで、学びの機会へのアクセスの豊かさをいかに向上させるかが議論されました。

7-5-2 医療・福祉に関する課題

○ 中高生・一般町民の声

「車がないため自由に行動できない」という移動交通に関わる課題が多く寄せられました。「専門的な医療の必要性」や「認知症への不安」の声も挙げられています。

健康状態に関する主観データは非常に良い一方で、客観データが低いことから、今後、高齢化がますます進むなかで主観数値も大幅な低下が予想されるため、医療・福祉については、移動の課題を解決することが極めて重要です。

7-5-3 買物・飲食に関する課題

○ 一般町民の声

「札幌や苫小牧などの地域外で買物をする」という声が多く挙げられました。また、大きな小売店ができることで個人商店への影響もあるため、「個人商店が宅配機能を持つことで移動交通の課題もあわせて解決しつつ、地域内での買物に対する満足度をあげていく」というアイデアも出されました。

7-5-4 多様性と寛容性に関する課題

○ 一般市民の声

「新たな家を借りる際に、つながりがあれば借りられるものの、地域外から入ってきた際に家探しに苦労をした」という声があがり、地域とのつながりが強い一方で、見知らぬ他者に対する寛容性の課題が確認できました。

7-5-5 雇用・所得に関する課題

○ 女性の声

データを女性のみに限定すると全体で見た場合の偏差値よりもさらに低下することから、町内の女性は特に「雇用・所得」に関する課題を抱えていることが推測できます。ワークショップでも、「数時間だけ農作業の手伝いをするなど、短時間の雇用におけるマッチングが機能すること」など、隙間時間を活かした多様な働き方の必要性に関する意見が寄せられました。

7-5-6 デジタル生活に関する課題

○ 女性の声

子どもの送迎や祖父母の介護などを担う中心的な役割を、地域の女性が担っているという声が多く寄せられました。その結果、自分のために使える時間が限られ、「人生の待機時間」が長くなっていると感じている人が少なくありません。

自由に使える時間が少ない状況では、自ら情報を探しに行ったり、新しい行動を起こしたりすることが難しくなります。このことから、必要な情報が十分に届いていない可能性があることが分かりました。今後は、デジタル技術を活用した分かりやすい情報発信や、生活する一人ひとりに確実に情報が届くような工夫が求められます。

7-5-7 移動・交通の課題(全世代共通)

中高生ワークショップ、一般市民ワークショップ、女性限定ワークショップのいずれにおいても、「移動・交通」に関する課題が寄せられています。移動・交通に関する課題は、若年世代からシニア世代まで全てにまたがる課題であり、塾の送迎から生活必需品の購入、病院への通院など多岐にわたる町のボトルネックであることが確認できています。

7-6 厚真町の強みと課題～データと対話から～

厚真町は、人口減少と少子高齢化を背景に、あらゆる分野で担い手不足と経済的な負担増が深刻化しています。職員ワークショップで明らかになった課題構造では、「人材や施設などのリソース不足」「経済的な負担の増加」「暮らし方や考え方の多様化により求められる支援が広がっていること」「地域での関係性の希薄化」「まちへの興味・関心・意識の低下」「移動手段の制約」「公的な支援への期待の高まり」などが、町全体の課題を深刻化させる構造的なボトルネックとなっています。

地域幸福度調査の結果から、地域とのつながりや健康状態、自然との共生といった点は、厚真町の強みであることが確認されました。一方で、移動交通や買物・飲食、公共空間、遊び・娯楽などについては、課題があることが明らかになりました。

特に、医療福祉、買物・飲食、移動交通、遊び・娯楽の分野では、統計データで示される状況よりも、住民の感じている不便さのほうが大きく、日々の暮らしの中で課題を実感している様子が浮き彫りになっています。

町民ワークショップでは、中高生、一般町民、女性のいずれからも「移動・交通の不便さ」が最も多く指摘されました。この課題は、学びの機会、医療・福祉、買物・飲食、働き方、情報へのアクセスなど、生活のあらゆる場面に影響を及ぼしており、全世代が共通して抱える大きな課題です。

これらの課題は互いに影響し合い、一つの分野の課題が他の分野にも波及する構造になっています。住民、事業者、行政が力を合わせ、施策どうしの連携と相乗効果を意識した総合的な取組が求められています。

第 2 編 基本構想

第2編 基本構想

第1章 基本構想とは

この章では、厚真町がこれからどの方向へ進んでいくのかを示す「地図」と、施策をどのような順序で進めていくのかを示す「道筋」を描いています。

18の施策について作成したロジックモデル（取組を進めるための設計図）を土台とし、課題構造マップから見えてきた、特に効果が高いポイント（レバレッジ）を起点に、計画を進めていきます。

具体的な事業の内容については、次に策定する基本計画で定めることとし、本章では、町がめざす将来像と大きな方針を共有します。

計画期間は令和8年度から17年度（2026～2035年度）までとし、2050年の姿を見据えた内容としています。

第2章 10年後の将来像

（案1）田園の風が誘う 挑戦と誇りを育むまち あつま

厚真町は、田園の広がりや海・山・川に恵まれた風土のもと、人と自然が寄り添う暮らしを育んできました。私たちは、この豊かな環境を次の世代へと引き継ぎながら、子どもから大人まで、一人ひとりが自分らしい歩みの中で、時には一歩踏み出す「挑戦」を重ねていけるまちをめざします。

ここに集い、ふだんの暮らしを営むこと自体が尊重され、小さな挑戦も、挑戦しない穏やかな日常も、どちらもまちの大切な財産として認め合うことで、「あつまだけで、いいまち。」と実感できる誇りを育んでいきます。こうした田園の風に誘われるような心地よさと、一人ひとりの挑戦と誇りがめぐるまちづくりを通じて、「田園の風が誘う 挑戦と誇りを育むまち あつま」の実現を目指します。

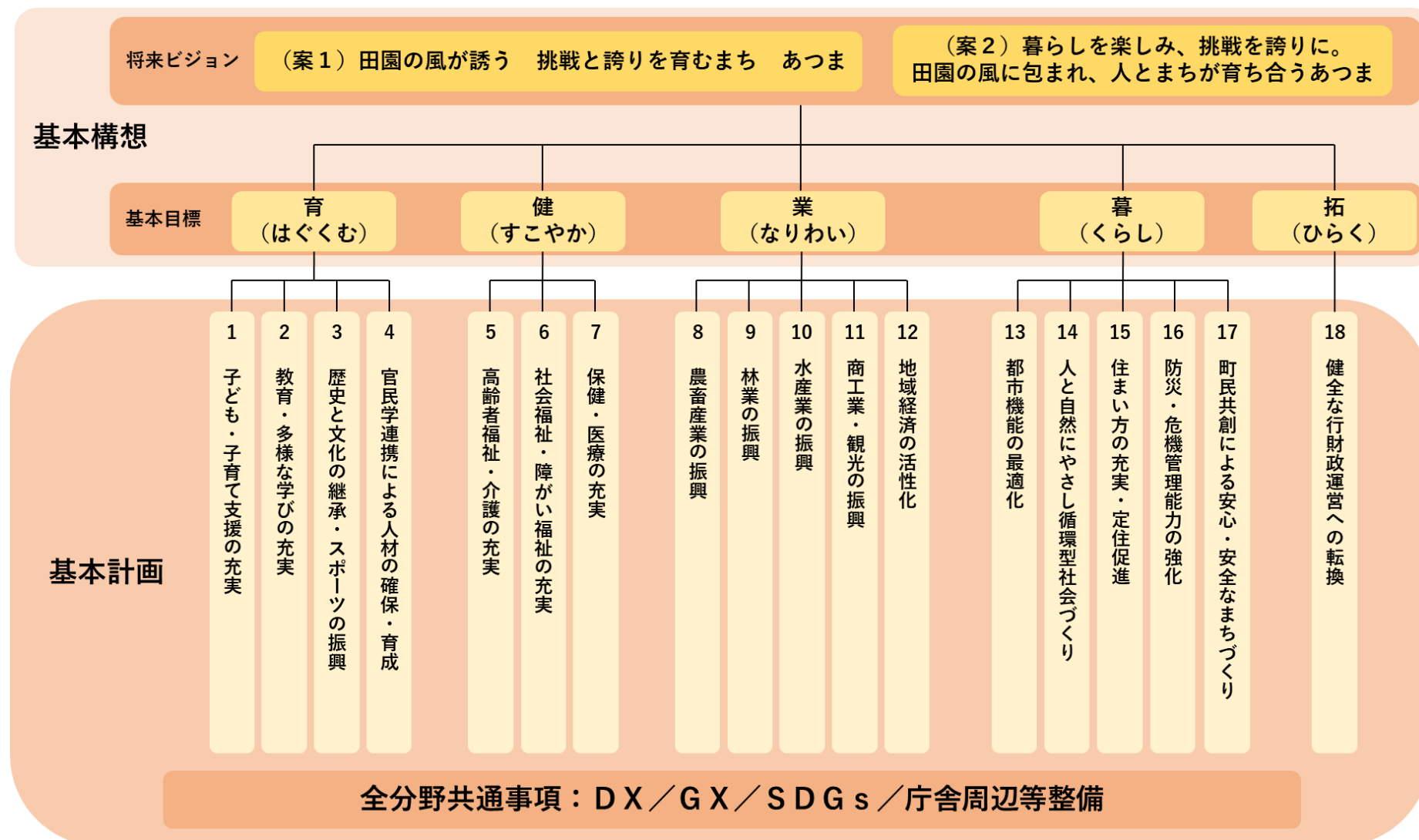
（案2）暮らしを楽しみ、挑戦を誇りに。田園の風に包まれ、人とまちが育ち合うあつま

厚真町は、田園の風に包まれた落ち着いた暮らしの中で、仕事や子育て、学びや地域活動など、それぞれの「ふだんの生活」を大切にしてきたまちです。私たちは、一人ひとりが自分のペースで暮らしを楽しみ、ときには新しいことに挑戦してみようと思えたとき、その一歩をまち全体で応援し、その挑戦を互いの誇りとして分かち合える関係を育てていきます。

挑戦する人だけが評価されるのではなく、静かに日常を支える人、地域にあたたく関わる人も含めて、多様な生き方が尊重されることで、人と人、人と地域が学び合い・支え合いながら、ともに成長していくまちをめざします。こうした暮らしの楽しさと、無理のない挑戦が両立する環境をととのえることで、「暮らしを楽しみ、挑戦を誇りに。田園の風に包まれ、人とまちが育ち合うあつま」の実現を目指します。

第3章 基本目標と施策体系

課題構造マップで整理した19の政策分野をもとに、施策の検討を進める過程で、親和性の高い「安心・安全なまちづくり」と「住民主体のまちづくり」を統合し、**18施策**に再編しました。これらを**5つの基本目標**に整理し、施策体系を構築しています。



3-1 育（はぐくむ）

・ねらい

子どもから大人まで、多様な学びの場と機会を確保し、地域への愛着と誇りを育みます。

・方針

質の高い教育・保育の提供、生涯学習の選択肢の保証、文化・スポーツ活動の充実、官民学連携による人材の確保・育成を進めます。

・到達像

経済的・精神的負担が軽減され、安心して子どもを育てられる状態。多様な学びと交流の機会が日常化し、地域に根ざした人材が育ち、活躍の場が広がる好循環が根づきます。

・施策

1. 子ども・子育て支援の充実
2. 教育・多様な学びの充実
3. 歴史と文化の継承・スポーツの振興
4. 官民学連携による人材の確保・育成

3-2 健（すこやか）

・ねらい

誰もが安心して暮らせる医療・福祉の基盤を整えます。

・方針

地域包括ケアシステムの充実、インクルーシブな社会の実現、必要な医療へのアクセス確保を進めます。

・到達像

地域の支えのもと、孤立することなく安心して暮らせる環境が整い、十分な支援と社会参加の機会が確保され、必要な医療を受けられる状態。心身ともに健やかな暮らしが続きます。

・施策

5. 高齢者福祉・介護の充実

- 6. 社会福祉・障がい福祉の充実
- 7. 保健・医療の充実

3-3 業（なりわい）

・ねらい

地域の産業基盤を強化し、多様な働き方と新たな事業を生み出します。

・方針

市場環境の変化に左右されない安定した経営の確立、持続可能な資源管理、地域資源を活用した販路開拓、域内経済循環の促進を進めます。

・到達像

担い手が安定的に確保・育成され、安定した経営環境のもとで、雇用を生み出し地域経済の発展に寄与できる状態。魅力ある雇用の選択肢が増え、地域に継続的な活力が循環します。

・施策

- 8. 農畜産業の振興
- 9. 林業の振興
- 10. 水産業の振興
- 11. 商工業・観光の振興
- 12. 地域経済の活性化

3-4 暮（くらし）

・ねらい

快適で便利な生活環境を整え、持続可能な暮らしを実現します。

・方針

インフラや公共施設の適切な維持管理、環境負荷の軽減、魅力的な居住環境の整備、防災・危機管理体制の強化、町民共創によるまちづ

くりを進めます。

・到達像

適度な都市機能を享受しながら、環境負荷の軽減を目指した持続可能なライフスタイルを実践できる状態。魅力的な居住環境のもとで、安心して長く住みたいと感じられ、リスクへの備えが充実し、様々な主体とともに地域の課題解決に取り組める状態。静けさと賑わいが両立する持続可能な日常が実現します。

・施策

13. 都市機能の最適化
14. 人と自然にやさしい循環型社会づくり
15. 住まい方の充実・定住促進
16. 防災・危機管理能力の強化
17. 町民共創による安心・安全なまちづくり

3-5 拓（ひらく）

・ねらい

持続可能な財政運営を確立し、職員が誇りを持って働ける組織へ転換します。

・方針

効率的で効果的な施策・事業への束ね、先端技術の有効活用、組織ガバナンスの強化、職員の Well-Being 向上を進めます。

・到達像

持続可能な財政運営を確立し、効率的で効果的な施策・事業に束ねることができる状態。やりがいを持って、いきいきと働くことができ、心理的安全性が担保され、Well-Being が向上している状態。住民と行政との風通しが良い関係性のもと、効率的で透明性の高い行政が実現し、誇りを持てる「住みたい・帰りたくなる」まちが定着します。

・施策

18. 健全な行財政運営への転換

第3編 基本計画

第3編 基本計画

第1章 基本計画の概要

1-1 この基本計画の位置づけ

本計画は、基本構想に掲げる将来像の実現に向けて、具体的な施策の方向性と成果指標を明示するものです。全18施策について、取組内容から最終的な社会的インパクトまでの道筋を「ロジックモデル」として可視化し、成果志向の行政運営を推進します。

1-2 ロジックモデルと社会的インパクト

ロジックモデルとは、施策の取組（事業・活動）から社会的インパクト（地域における望ましい変化）までの因果関係を論理的に整理したものです。

各施策について、取組によって生み出される「**直接的結果**」と、その結果として地域や受益者に生じる「**社会的インパクト**」を明示しています。

直接的結果については、その実施状況を測る「**結果指標**」を設定しています。社会的インパクトについては、初期成果（2～4年）、中期成果（5～8年）、長期成果（9～10年）の3段階で整理し、各施策が目指す望ましい変化を明示しています。長期成果は、各施策が目指す「この施策が実現する未来」として表現しています。

これらを確認しながら施策の進捗状況を把握し、PDCAサイクルによる継続的な改善を図ります。

1-3 SDGs との関連について

本計画は、国連が定める「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献するため、各施策とSDGsの17のゴールとの関連を明示しています。厚真町は、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」持続可能なまちづくりを推進します。



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

第2章 基本計画の見方 | 施策ロジックモデルの読み解き方

2-1 見開きページの構成

本章では、厚真町の18の基本計画について、左ページに**施策の概要**、右ページに**ロジックモデル図**を配置し、基本計画の全体像と成果までの道筋を可視化しています。

2-2 左ページ | 施策の概要

■この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

施策が最終的に目指す社会的インパクト（長期的な理想の姿）を示しています。

■施策要旨

施策の目的と主な取組内容を180～200字程度で簡潔に説明しています。

■受益者

この施策によって便益を受ける対象（町民、事業者、高齢者など）を示しています。

■担当部署

施策を推進する町の担当課を示しています。

■直接的結果と結果指標

施策の取組によって直接生み出される成果と、その測定指標を示しています。

【表の見方】

例：

ロジックモデルの取組で生み出される直接的な結果	直接的結果 資格取得者の増加	結果指標 保育士資格取得者数	直接的結果を測る具体的な指標 (例：参加者数、実施件数など)
-------------------------	--------------------------	--------------------------	-----------------------------------

■社会的インパクト（初期・中期）

直接的結果によって生まれる受益者や地域の変化・成果を、初期成果（2～4年）と中期成果（5～8年）に分けて示しています。

【表の見方】

例：

初期・中期の区分	区分	社会的インパクト
	初期成果	子育てに必要な経済的負担が軽減

※結果指標の現状値・目標値については、次章「18 施策の結果指標と社会的インパクト一覧」で詳しく記載しています。

2-3 右ページ | ロジックモデル図

取組（事業・活動）から社会的インパクト（地域における望ましい変化）に至るまでの因果関係を、図で示しています。

■ロジックモデルの流れ

左側から、取組（事業・活動） → 直接的結果 → 社会的インパクト（地域における望ましい変化）の流れになっています。

- ・ **取組（事業・活動）**：町が実施する具体的な事業や活動
- ・ **直接的結果**：取組の直接的な結果
- ・ **社会的インパクト（初期成果）**：初期的（2～4年）に生じる社会や受益者の変化
- ・ **社会的インパクト（中期成果）**：中期的（5～8年）に生じる社会や受益者の変化
- ・ **社会的インパクト（長期成果）**：長期的（9～10年）に生じる社会や受益者の変化

■受益者の表示

社会的インパクトの各成果に、その成果を受ける対象（町民、事業者など）を記載しています。

2-4 指標の詳細について

各施策の結果指標の現状値と目標値、および社会的インパクトの一覧については、次章「18 施策の結果指標と社会的インパクト一覧」で詳しく記載しています。施策の進捗管理や評価の際には、両章を併せてご参照ください。

2-5 この章の活用方法

施策の全体像を把握したい場合：左ページの施策概要をご覧ください

施策の成果までの道筋を理解したい場合：右ページのロジックモデル図をご覧ください

具体的な数値目標を確認したい場合：次章「18 施策の結果指標と社会的インパクト一覧」をご覧ください

第3章 基本計画（ロジックモデル集）

3-1. 子ども・子育て支援の充実

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

地域ぐるみで安心して子どもを育てられるまちの実現

■ 施策要旨

子育て世帯の経済的・精神的な負担を軽減し、質の高い保育・教育サービスを提供します。多様な交流・体験機会の創出と切れ目ない相談支援体制の構築により、子どもの健やかな成長と保護者の笑顔を支えます。保育人材の確保・育成を進めるとともに、地域全体で子育てを支え合う仕組みづくりを推進し、子どもと保護者が安心してつながりを実感できるまちを目指します。

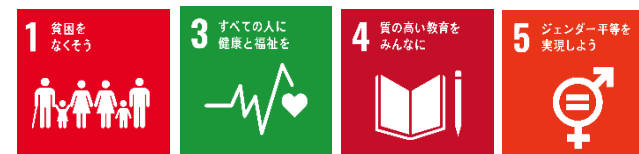
■ 受益者

子ども、保護者、保育人材

■ 結果指標

直接的結果	結果指標
資格取得者の増加	保育士資格取得者数
情報共有の拡大浸透	子育て情報発信回数 ①HP 更新回数 ②情報発信の回数
職場環境の向上	研修満足度/職員満足度 ①研修後のアンケート収集 ②離職率・休暇取得率・ストレスチェック職場指数
制度の活用者の増加	子育て支援に係る制度活用者数
主体的な遊び場の充実	利用者実績数（属性の把握） ①利用者実績数 ②利用参加者へのアンケート調査（プレーパーク）

関連する SDG s

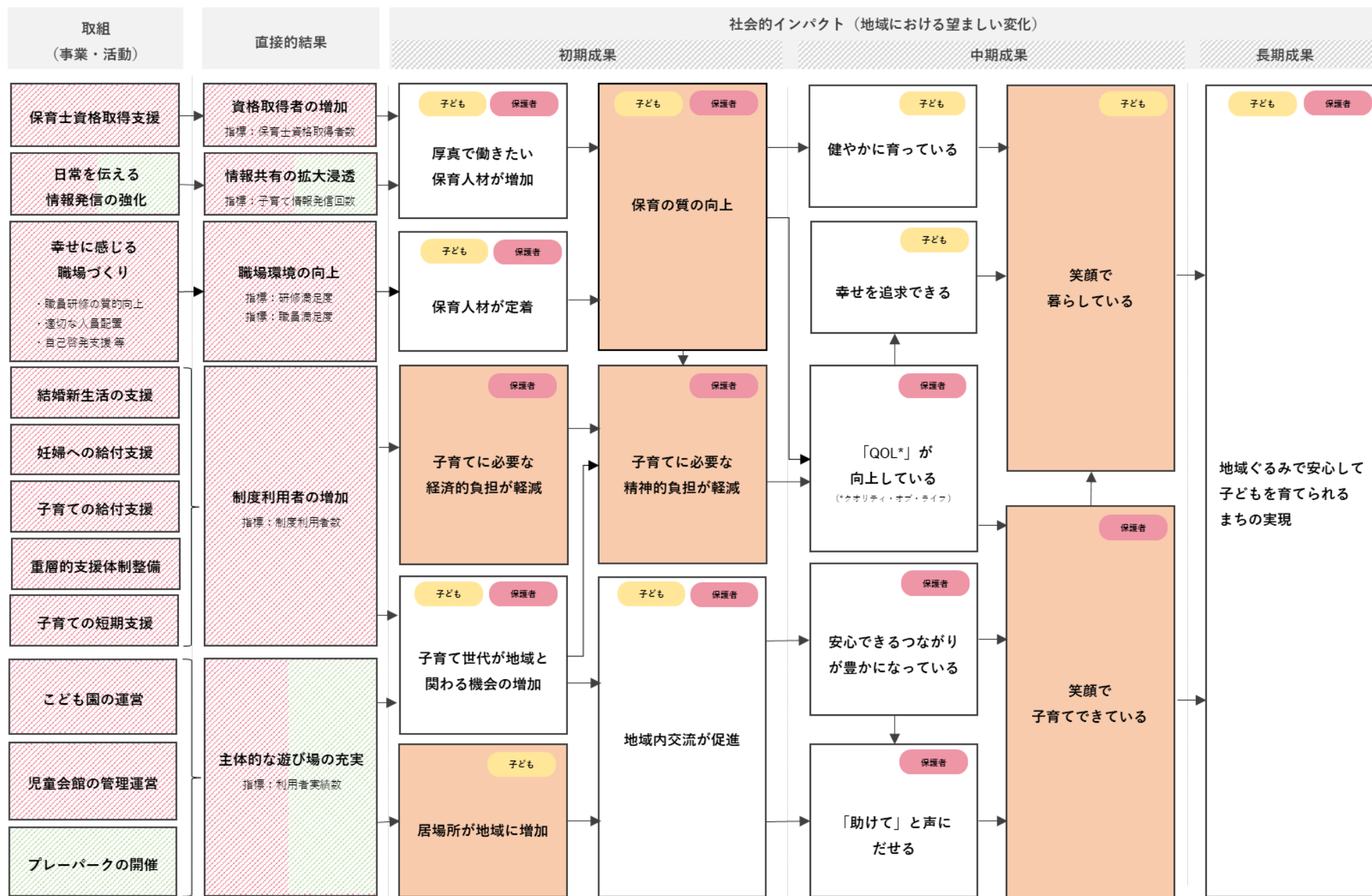


■ 担当部署

住民課、生涯学習課（教育委員会）

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	子育てに必要な経済的負担が軽減
初期成果	居場所が地域に増加
初期成果	保育の質の向上
初期成果	子育てに必要な精神的負担が軽減
中期成果	笑顔で暮らしている
中期成果	笑顔で子育てできている



3-2. 教育・多様な学びの充実

関連する SDG s



■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

誰もが学びの主人公となり、未来をともに生きていける地域の実現

■ 施策要旨

子どもから大人まで、主体的に学び、多様な価値観を受容できる環境を整備します。学校教育の質向上、ふるさと教育の推進、多様な学びの機会創出により、子どもの基礎学力と主体性を育みます。地域人材の活用や安心安全な学習環境の充実を通じて、誰もが学びの機会を見つけ、地域への誇りを持ちながら、未来をともに創る人材を育成し、学びの主人公となれる地域を目指します。

■ 受益者

子ども、大人

■ 結果指標

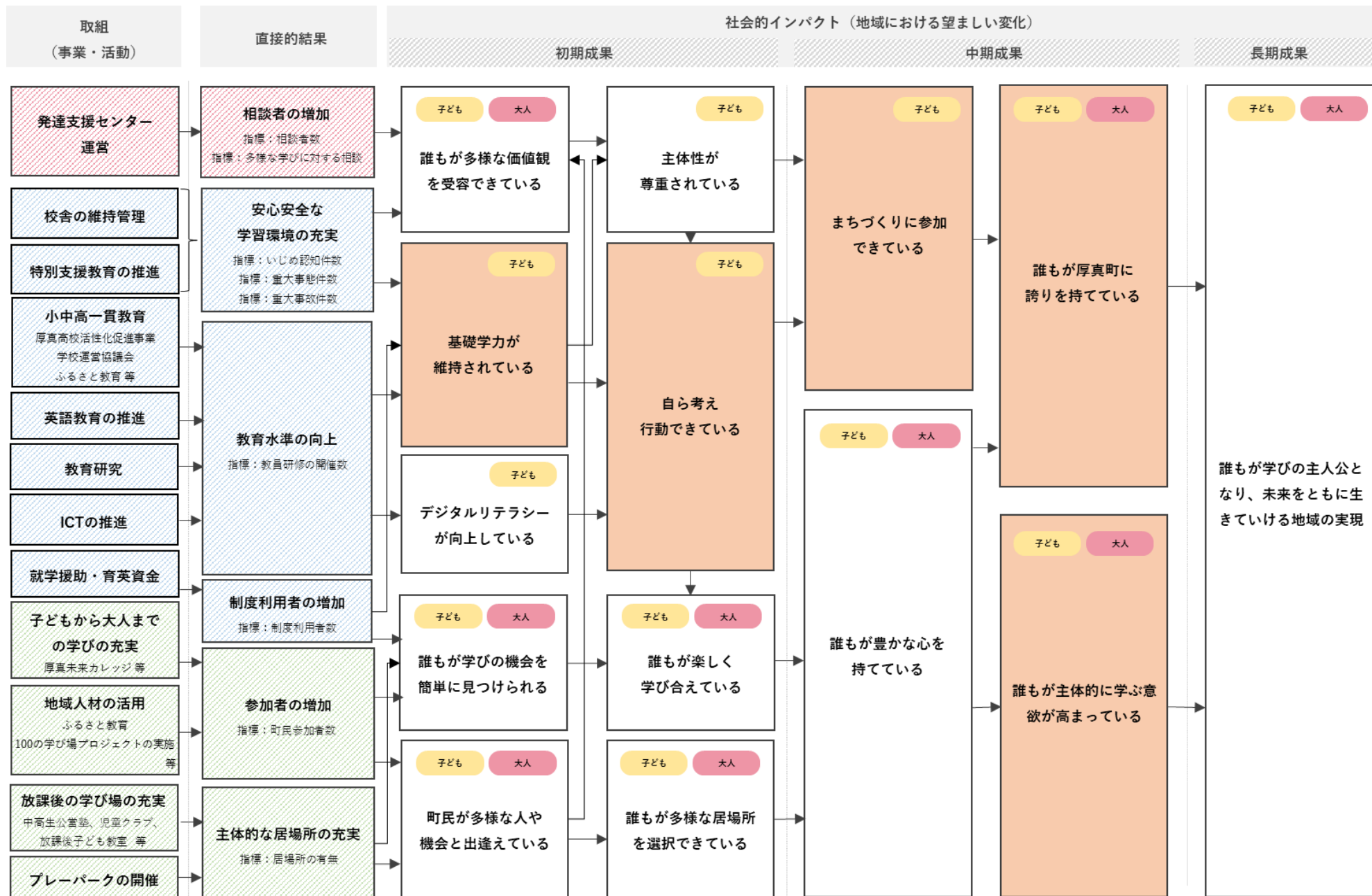
直接的結果	結果指標
相談者の増加	①発達支援センターへの相談者数 ②多様な学びに対する相談
安心安全な学習環境の充実	いじめ認知件数、重大事態件数、重大事故件数
教育水準の向上	教員研修の開催数
制度の活用者の増加	就学援助、育英資金に係る制度利用者数
参加者の増加	あつま未来カレッジ、ふるさと教育、あつひやく等の町民参加者数
主体的な居場所の充実	学校や家庭以外の居場所の有無

■ 担当部署

住民課、生涯学習課（教育委員会）

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	基礎学力が維持されている
初期成果	自ら考え行動できている
中期成果	まちづくりに参加できている
中期成果	厚真町に誇りを持っている
中期成果	主体的に学ぶ意欲が高まっている



3-3. 歴史と文化の継承・スポーツの振興

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

誰もが集い、つながり、楽しみ、いきがいを感じる暮らしの実現

■ 施策要旨

厚真町の歴史・文化の継承とスポーツ振興により、町民の心身の健康といきがいを育みます。文化財の公開・見学会、文化財ガイドの育成、総合型文化・スポーツクラブの設立を通じて、町民が地域の歴史・文化を学び、スポーツを楽しむ機会を創出します。町内外の人々がつながり、文化・スポーツを通じた交流を深めながら、誰もが集い、幸せを実感できる地域を目指します。

■ 受益者

町民、町外住民

■ 結果指標

直接的結果	結果指標
学校保健体育の充実	体力・運動能力調査結果
見学者・来場者の増加	町内・外参加者数 (軽舞遺跡調査整理事務所)
文化財ガイドの増加	文化財ガイドの数
クラブ参加者の増加	登録者数
施設利用の開始	整備率

関連する SDG s

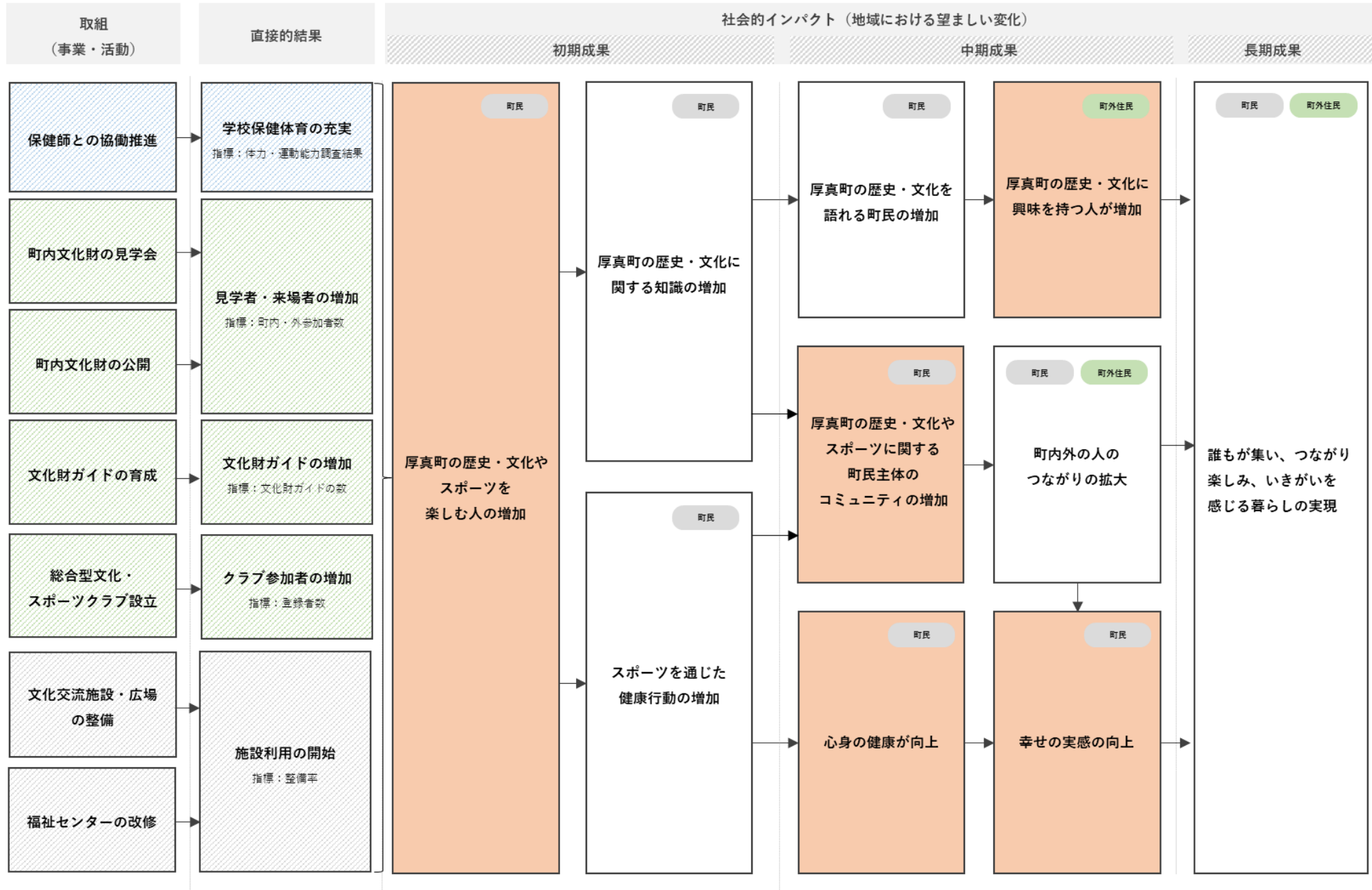


■ 担当部署

生涯学習課（教育委員会）、総務課

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	厚真町の歴史・文化やスポーツを楽しむ人の増加
中期成果	厚真町の歴史・文化やスポーツに関する町民主体のコミュニティの増加
中期成果	心身の健康が向上
中期成果	厚真の歴史・文化に興味を持つ人が増加
中期成果	幸せの実感の向上



3-4. 官民学連携による人材の確保・育成

関連する SDG s



■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

誰もが町内外の人の挑戦を応援できる地域の実現

■ 施策要旨

官民学が連携し、地域の持続的な発展を支える人材の確保・育成を推進します。町内事業者の経営基盤強化、多様な人材が活躍できる環境整備、実践的な学びの機会創出により、地域に根ざした人材を育てます。新しいチャレンジを応援する風土を醸成し、課題解決力を持つ人材が循環する仕組みをつくることで、誰もが町内外の人の挑戦を応援し、地域全体の活力向上を目指します。

■ 受益者

町内事業者、行政機関、町民、教育機関

■ 結果指標

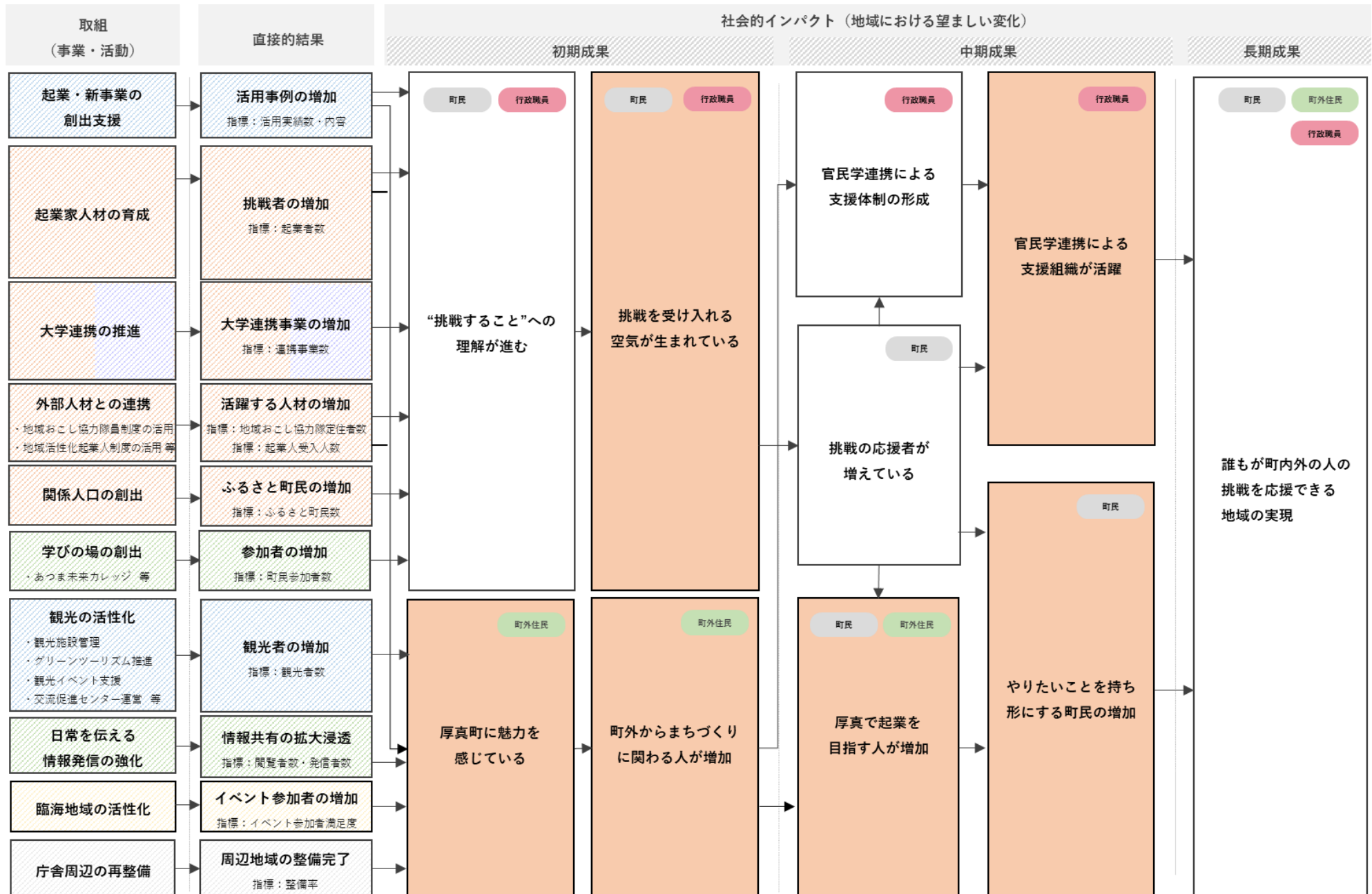
直接的結果	結果指標
活用事例の増加	活用実績数・内容
挑戦者の増加	起業者数
大学連携事業の増加	連携事業数
活躍する人材の増加	起業人受入人数
ふるさと町民の増加	ふるさと町民数
参加者の増加	厚真未来カレッジの町民参加者数
来街者の増加	観光者数
情報共有の拡大浸透	閲覧者数・発信者
イベント参加者の増加	イベント参加者満足度
周辺地域の整備完了	整備率

■ 担当部署

まちづくり推進課、産業経済課、生涯学習課（教育委員会）、総務課

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	厚真町に魅力を感じている
初期成果	挑戦を受け入れる空気が生まれている
初期成果	町外からまちづくりに関わる人が増加
中期成果	厚真で起業を目指す人が増加
中期成果	官民学連携による支援組織が活躍
中期成果	やりたいことを持ち、形にする町民の増加



3-5. 高齢者福祉・介護の充実

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

高齢者が安心して暮らせる地域の実現

■ 施策要旨

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境を整備します。認知症予防・支援、フレイル予防、社会参加の促進、介護サービスの充実により、高齢者の心身の健康と生きがいを支えます。地域住民の見守り・支え合いの促進と介護人材の確保・育成を通じて、持続可能な介護資源の維持・拡大を図り、高齢者が生きがいを持って安心して暮らせる地域を目指します。

■ 受益者

高齢者、町民全般、介護職員、介護施設

■ 結果指標

直接的結果	結果指標
制度利用者の増加	国保連合会給付に係る受給者数
参加者の増加	高齢者福祉・介護に係るイベント参加者数
相談者の増加	地域包括支援に係る相談者数
利用者の増加	高齢者福祉・介護に係るサービス・支援等利用者数
担い手の増加	ボランティア数

関連する SDG s

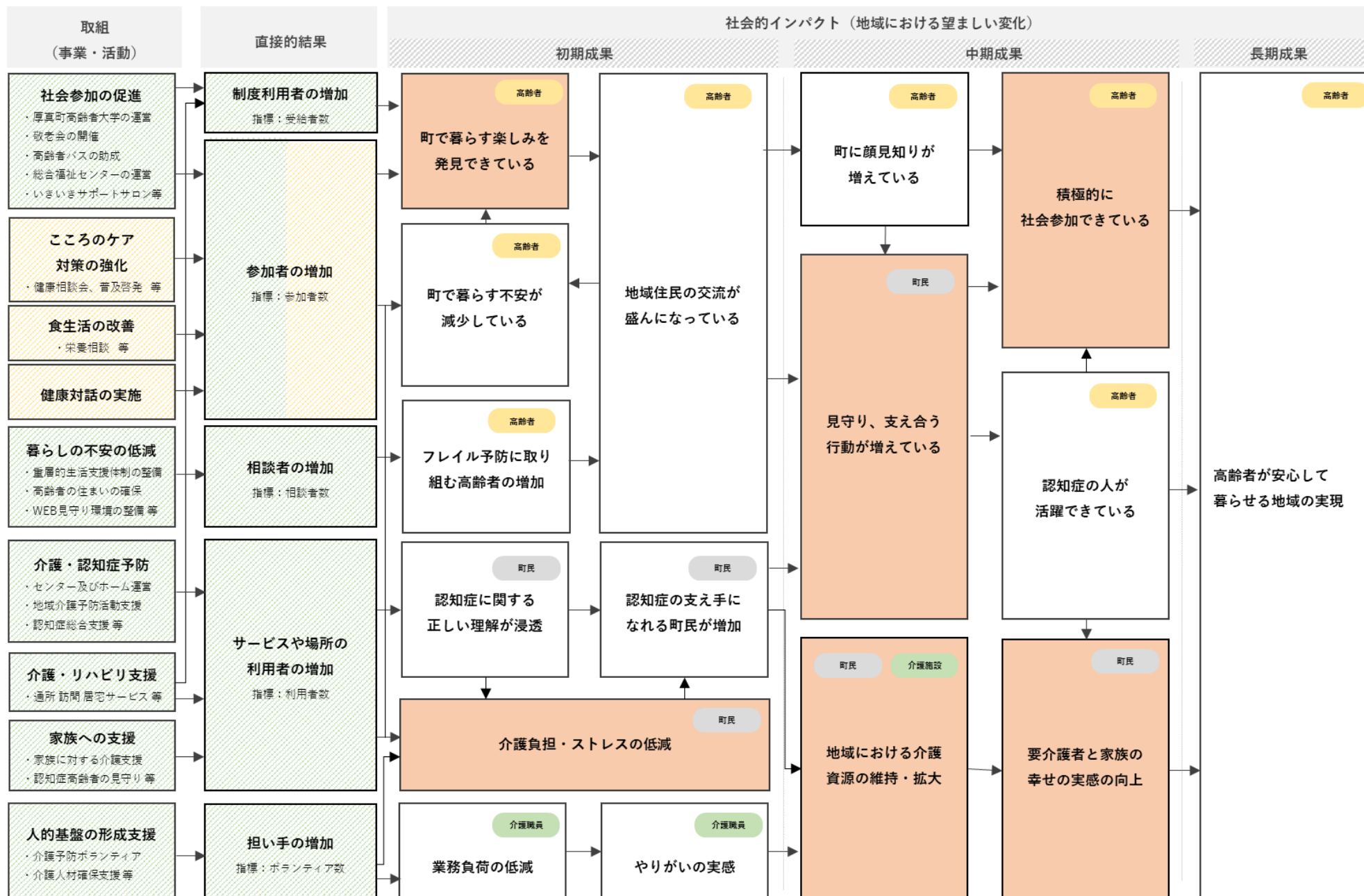


■ 担当部署

住民課

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	町で暮らす楽しみを発見できている
初期成果	介護負担・ストレスの低減
中期成果	見守り、支え合う行動が増えている
中期成果	介護資源の維持・拡大
中期成果	積極的に社会参加できている
中期成果	要介護者と家族の幸せの実感の向上



3-6. 社会福祉・障がい福祉の充実

関連する SDG s



■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

どんな障がい・特性があっても認め支え合う町の実現

■ 施策要旨

障がいや特性の有無に関わらず、誰もが自分らしく暮らし、地域社会に参画できる環境を整備します。障がいへの理解促進、特別支援教育の充実、バリアフリーの推進、相談支援体制の強化により、障がい者の自己効力感と地域への関与意欲を高めます。福祉人材の確保・育成を通じて持続可能な支援体制を構築し、どんな障がい・特性があっても認め支え合うまちを目指します。

■ 受益者

障がい者、福祉人材、町民全般、事業者

■ 結果指標

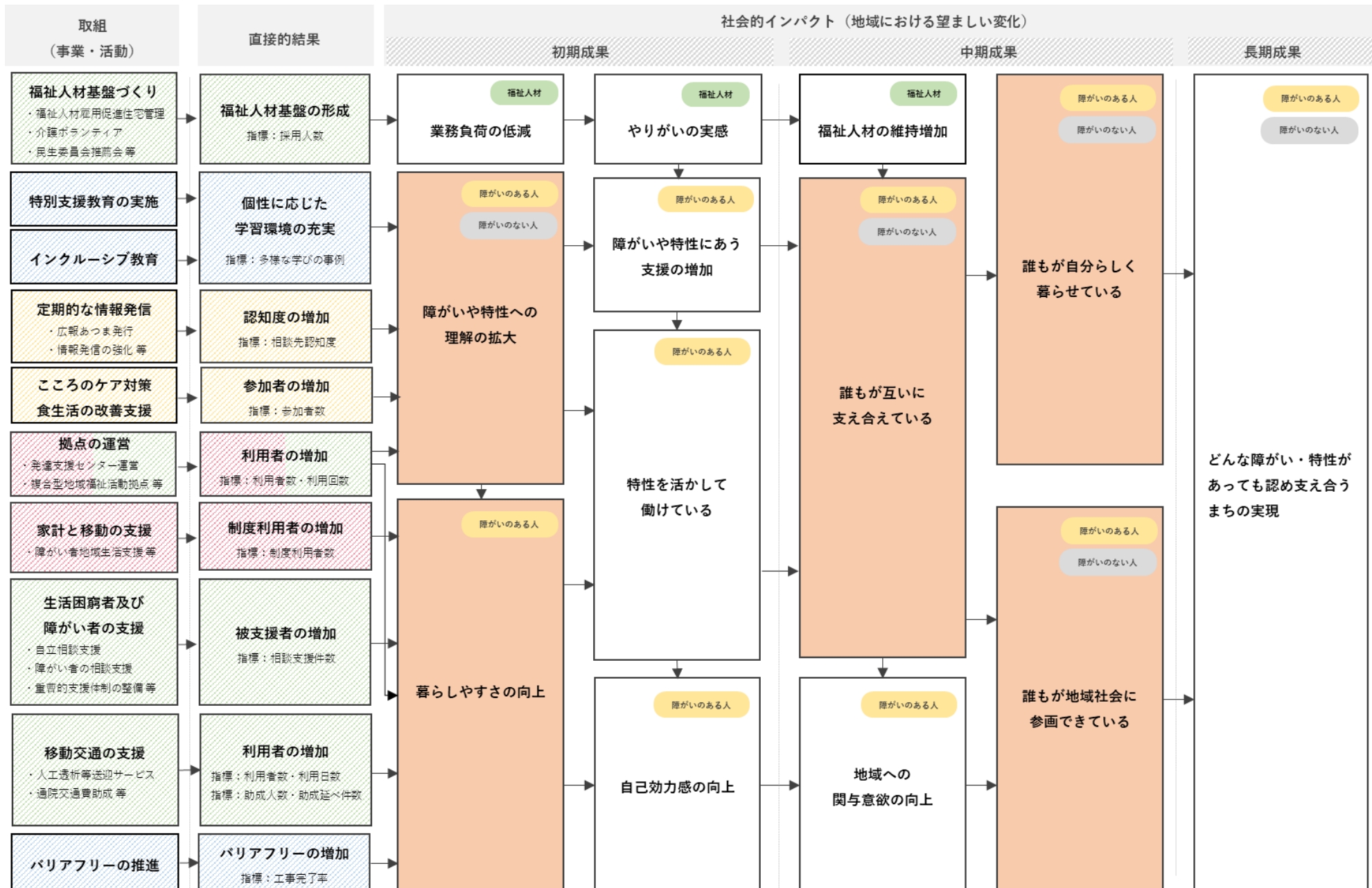
直接的結果	結果指標
福祉人材基盤の形成	採用人数
個性に応じた学習環境の充実	多様な学びの事例
認知度の増加	相談先認知度
参加者の増加	社会福祉・障がい福祉に係るイベントの参加者数
利用者の増加	①まちなか交流館事業の利用者数 ②発達支援センター事業の利用回数
制度利用者の増加	障がい者支援制度の利用者数
被支援者の増加	障がい者相談支援事業に係る相談支援件数
利用者の増加	①人工透析患者等送迎サービス事業利用者数・利用日数 ②通院交通費助成人数・助成延べ件数
バリアフリーの増加	工事完了率

■ 担当部署

住民課、生涯学習課（教育委員会）

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	障がいや特性に対する理解の拡大
初期成果	町内での暮らしやすさの向上
中期成果	誰もが互いに支え合っている
中期成果	誰もが自分らしく暮らせている
中期成果	誰もが地域社会に参画できている



3-7. 保健・医療の充実

関連する SDG s



■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

健やかな心のふるさとづくりを通じた健康長寿のまちの実現

■ 施策要旨

町民の心身の健康維持・増進と地域医療基盤の安定を目指します。心の健康、食習慣、身体に関する正しい知識の普及と健診・検診受診の継続促進により、健康行動の増加と病気の重症化抑止を図ります。医療従事者の確保、職場環境の向上、地域医療機関の経営安定により、持続可能な地域医療体制を構築し、健やかな心のふるさとづくりを通じた健康長寿のまちを目指します。

■ 受益者

町民、医療機関、地域

■ 結果指標

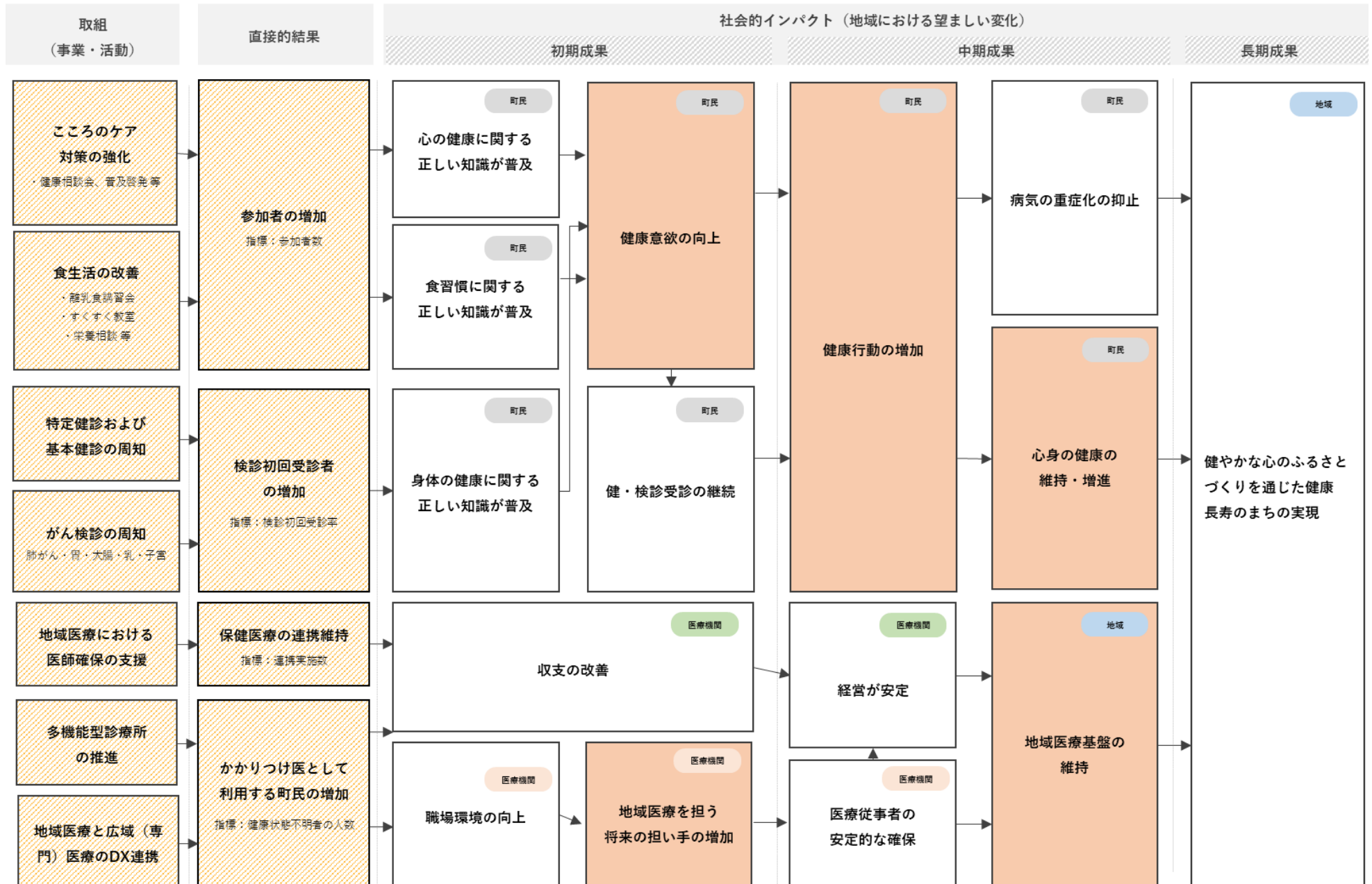
直接的結果	結果指標
参加者の増加	夏季・冬季栄養教室、ゲートキーパー・こころの講演会参加者数
検診初回受診者 の増加	検診初回受診率
保健医療の連携維持	連携実施数
かかりつけ医として 利用する町民の増加	健康状態不明者の人数

■ 担当部署

住民課

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	健康意欲の向上
初期成果	地域医療を担う将来の担い手の増加
中期成果	健康行動の増加
中期成果	心身の健康の維持・増進
中期成果	地域医療基盤の維持



3-8. 農畜産業の振興

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

農畜産業者の魅力ある経営の実現

■ 施策要旨

厚真町の基幹産業である農畜産業の持続的な発展を推進します。新規就農者・後継者の育成、スマート農業の推進、土壌診断による生産性向上、鳥獣害対策により、多様な人材が参入し、意欲的に挑戦できる環境を整備します。乳質・乳量の向上や市場取引価格の向上を通じて経営を安定化させ、厚真産農産物のファンを増やし、農村コミュニティが活気に満ちた魅力ある経営の実現を目指します。

■ 受益者

事業者、町民

■ 結果指標

直接的結果	結果指標
就農相談件数の増加	相談件数
農家の後継者の増加	親元で働く従事者数
意欲的な挑戦が継続	支援件数
農機導入の拡大	導入率
捕獲頭数の拡大	エゾシカ捕獲頭数
農地集積の向上	農地集積率
優良な個体の確保	確保件数

関連する SDG s



■ 担当部署

産業経済課、農業委員会事務局

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	新規就農者の増加
初期成果	生産効率の向上
中期成果	農畜産業の魅力の向上
中期成果	農畜産経営の安定化
中期成果	農村コミュニティの活気の拡大

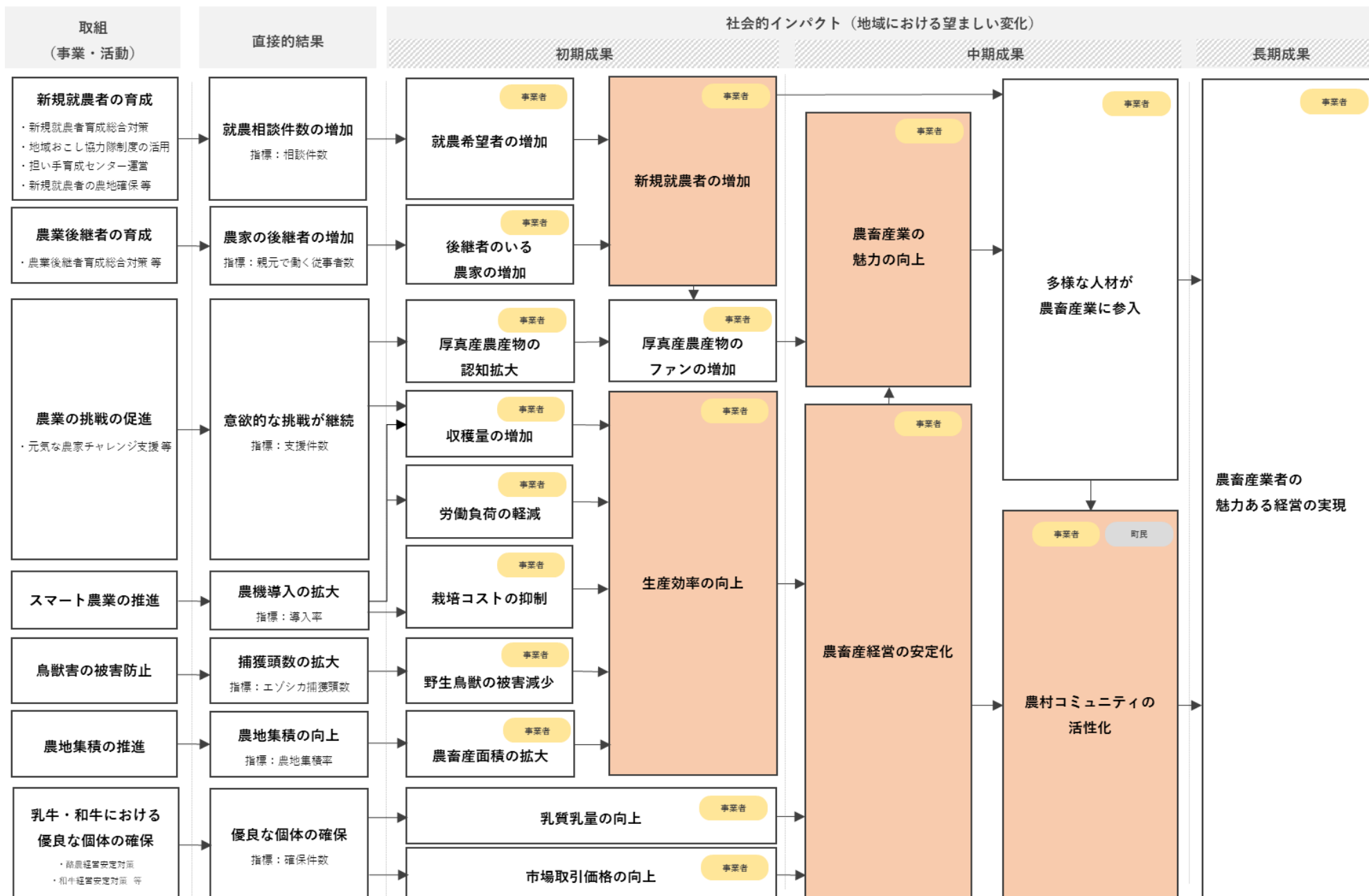
8 | 農畜産業の振興

事業者

町民

農業G

農業委員会



3-9. 林業の振興

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

森林の多面的機能の回復と持続可能な林業の実現

■ 施策要旨

被災森林の再生、林業のスマート化・ICT化、厚真産材のブランド化、担い手確保を推進します。山林の適切な維持管理、鳥獣被害の減少、木材価値と需要の増加により、林業者の収益向上を図ります。森林の多面的機能を回復させ、町民が安心して自然と共存できる環境を整備するとともに、持続可能な林業経営を通じて地域の森林資源を次世代へ継承します。

■ 受益者

林業者、山林所有者、町民

■ 結果指標

直接的結果	結果指標
イベント（植樹祭）参加者の増加	参加者数
木材・林業者新規就業者数の増加	従事者数
町産材の流通量増加	流通量
加工品の増加	新規加工品事例
新技術の導入	導入事例
機械・デジタル化の導入拡大	①ICT化・省力化の導入 ②デジタル化率 （経営強化促進補助金（ICT化）の実績）
有害鳥獣の適正化	ヒグマ事故数

関連する SDG s



■ 担当部署

産業経済課、まちづくり推進課

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	厚真産材がブランド化
初期成果	山林の調査整備の効率化
初期～中期成果	鳥獣被害の減少
中期成果	収益が向上
中期成果	担い手の増加
中期成果	被災森林の再生

9 | 林業の振興

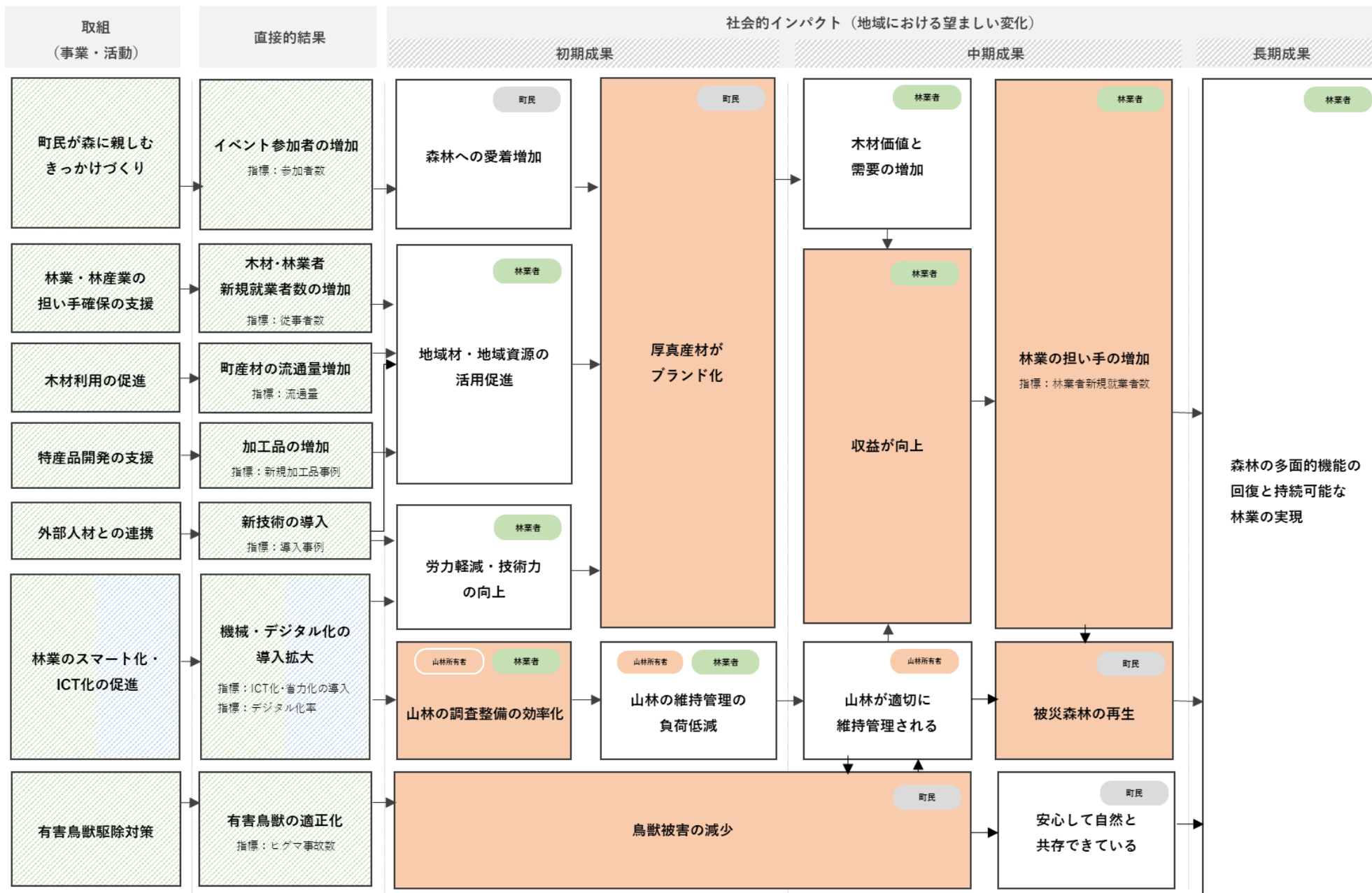
林業者

町民

山林所有者

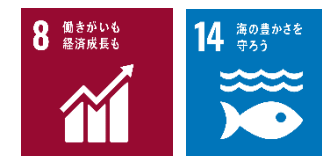
林業・森林再生G

経済G



3-10. 水産業の振興

関連する SDG s



■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

持続可能で高付加価値な漁業の実現

■ 施策要旨

水産資源の適正管理、漁業後継者の育成、資金供給の実施により、漁業人口の増加と漁業者の収入安定を図ります。水産品のブランド化、漁獲量の安定・増加、漁獲経営の革新を通じて、水産品が高値で取引される環境を整備します。持続可能な資源管理と高付加価値化を両立させ、厚真の水産業が次世代に継承される魅力ある産業として発展することを目指します。

■ 受益者

漁業者

■ 結果指標

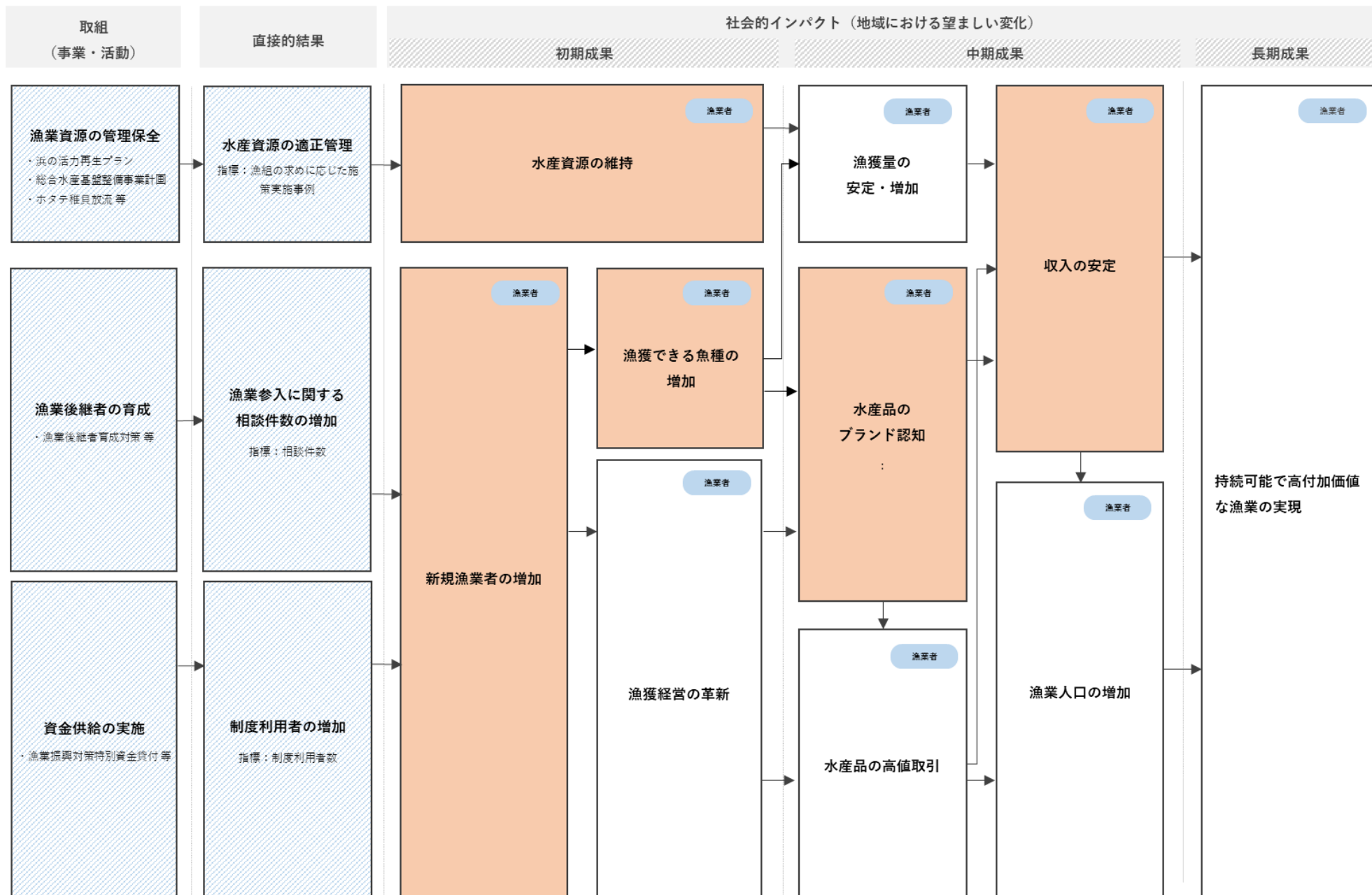
直接的結果	結果指標
水産資源の適正管理	漁組の求めに応じた施策実施事例（定性）
漁業参入に関する 相談件数の増加	相談件数
制度の利用者の増加	漁業振興対策特別貸付金利用者数

■ 担当部署

産業経済課

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	水産資源が維持される
初期成果	新たな漁業者が増える
初期成果	漁業できる魚種が増える
中期成果	水産品がブランドとして認知される
中期成果	漁業者の収入が安定している



3-11. 商工業・観光の振興

関連する SDG s



■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

地域資源を活かした新たな価値の創出による活気ある町の実現

■ 施策要旨

事業承継支援、起業・新事業創出支援、経営支援、観光の活性化により、魅力的な商品・サービス・場所を増やします。町内経済の循環促進、観光客の増加、地域の魅力発信を通じて、商工業者の売上拡大と地域への再投資を促進します。地域資源を活かした新たな価値創出により、不動産の流動性を高め、活気あふれるまちの実現を目指します。

■ 受益者

事業者、地域、町民

■ 結果指標

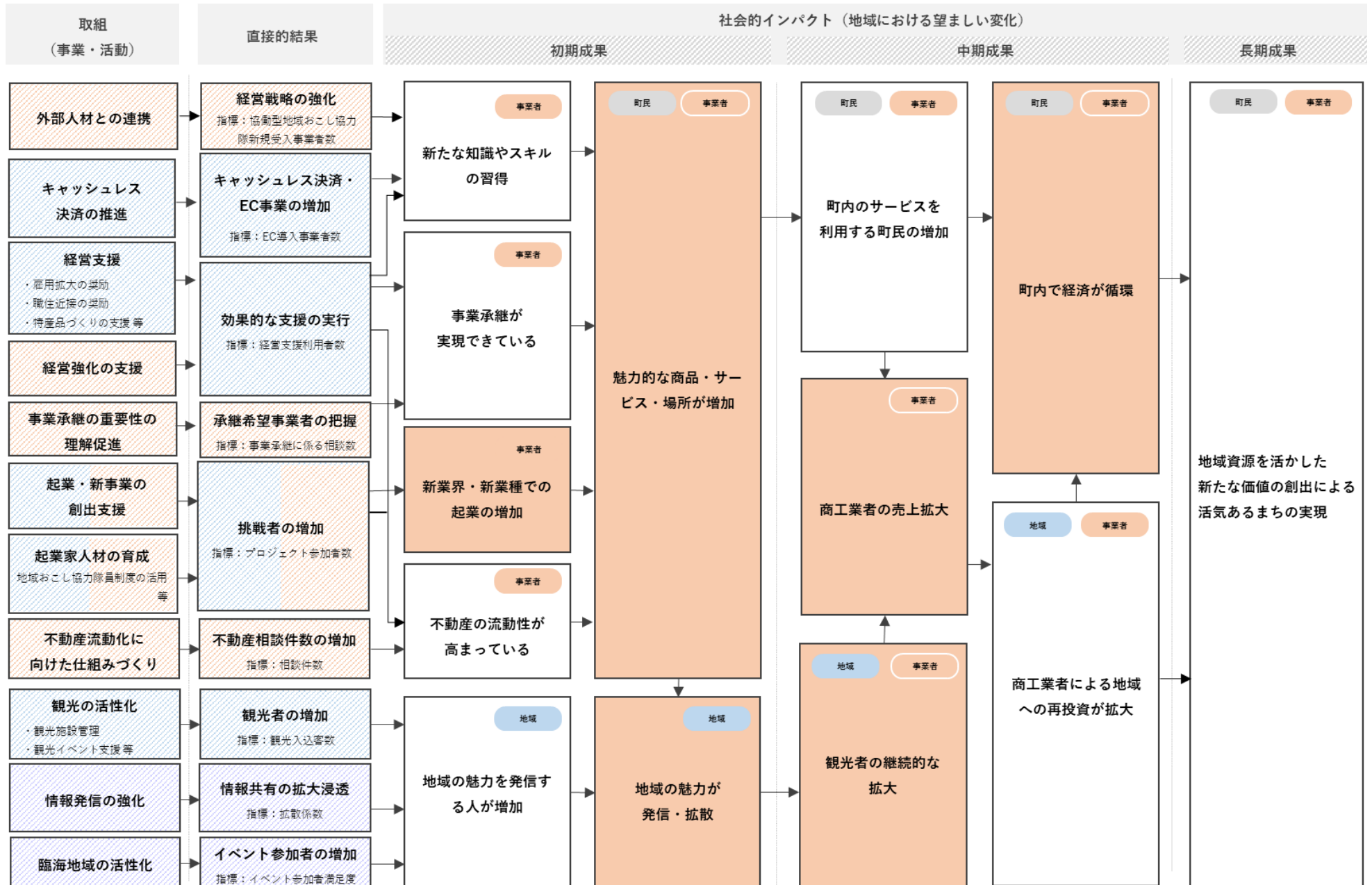
直接的結果	結果指標
経営戦略の強化	協働型地域おこし協力隊新規受入事業者数
キャッシュレス決済・EC 事業の増加	EC 導入事業者数
効果的な 支援の実行	経営支援利用者数
承継希望事業者の把握	事業承継に係る相談数
挑戦者の増加	プロジェクト参加者数 ①起業化支援事業補助金の実績 ②起業家人材育成支援事業の総参加者数
不動産相談件数の増加	相談件数
観光者の増加	観光入込客数
情報共有の拡大浸透	拡散係数
イベント参加者の増加	イベント参加者満足度（魅力度+再訪意向）

■ 担当部署

まちづくり推進課、産業経済課

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	新業界・新業種での起業の増加
初期成果	魅力的な商品・サービス・場所が増加
初期成果	地域の魅力が発信・拡散
中期成果	商工業者の売上が拡大
中期成果	観光者の継続的な拡大
中期成果	町内における経済循環が拡大



3-12. 地域経済の活性化

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

豊かさを実感できる持続可能な地域経済の確立

■ 施策要旨

多様な事業者同士の交流促進、域外需要の取り込み、域内消費の拡大により、経済的豊かさの実感を高めます。新たな雇用機会の創出、魅力的な商品・サービス・場所の増加、高付加価値の新産業育成を通じて、事業者の事業性拡大と町のファン増加を図ります。地域経済の好循環を生み出し、豊かさを実感できる持続可能な地域経済の確立を目指します。

■ 受益者

事業者、町民

■ 結果指標

直接的結果	結果指標
活躍する人材の増加	協力隊定住者数
利用者の増加	オフィス利用率
施設利用の開始	整備率
官民連携の強化	官民連携事業者数
挑戦者の増加	起業者数
起業者の売上増加	起業者の売り上げ金額
地域で経営を続ける 事業者の増加	商工会会員数
カード利用者の増加	あつまるカード発行数
来街者の増加	来街者数
寄付の増加	企業版ふるさと納税件数

関連する SDG s

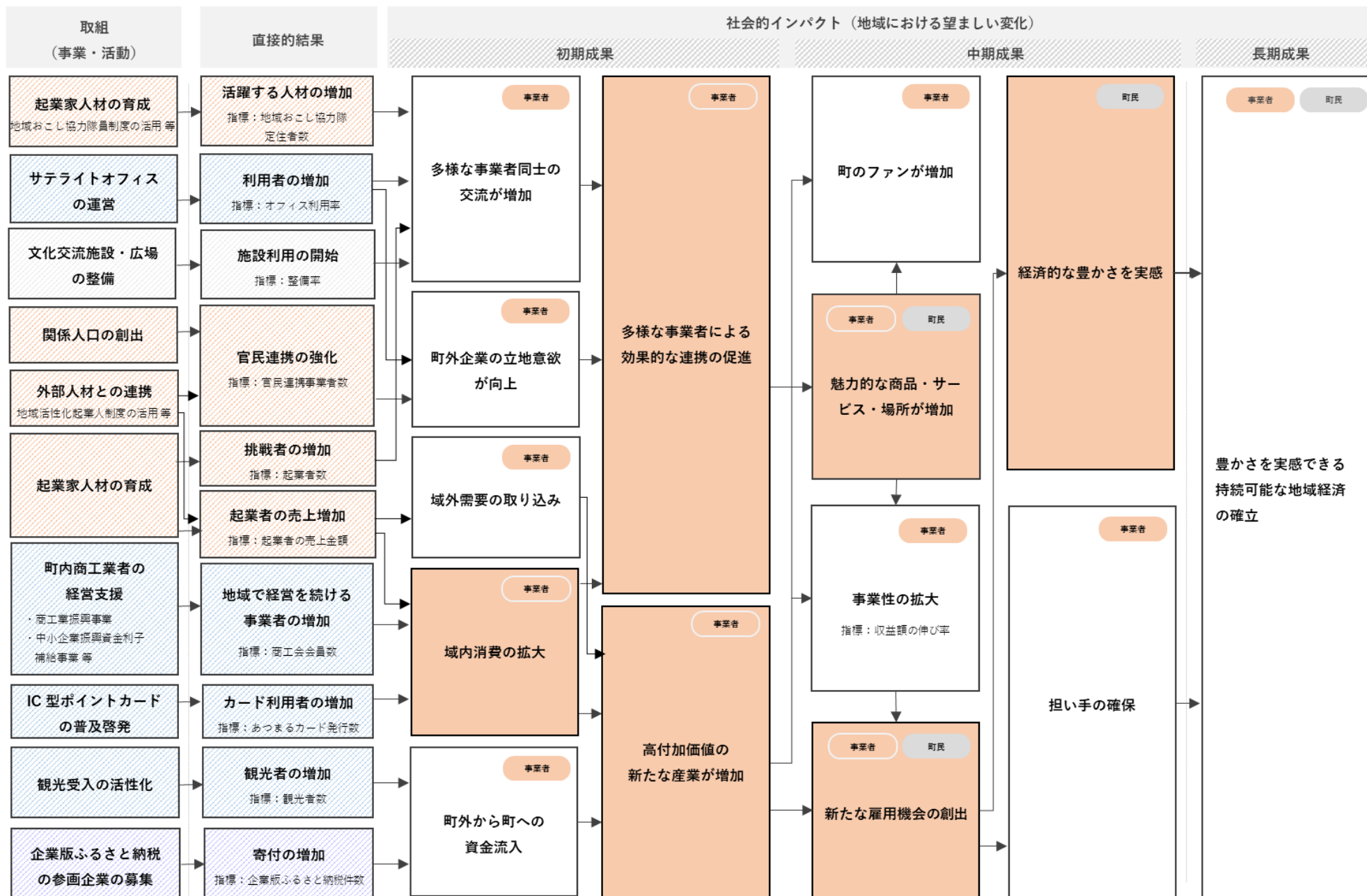


■ 担当部署

産業経済課、まちづくり推進課、総務課

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	地域内消費の拡大
初期成果	多様な事業者による効果的な連携の促進
初期成果	高付加価値の新たな産業が増加
中期成果	魅力的な商品・サービス・場所が増
中期成果	新たな雇用機会の創出
中期成果	経済的な豊かさを実感



3-13. 都市機能の最適化

関連する SDG s



■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

町民にとって安心・安全・快適で楽しい環境の実現

■ 施策要旨

公共施設の総合管理、公園管理、地域公共交通対策、DX の推進、ユニバーサルデザイン化により、快適な都市機能を提供します。技術職員の確保・育成、デジタル化の推進、公共施設・公共交通の最適化を通じて、持続可能で効率的なまちづくりを進めます。すべての町民が安心・安全・快適に暮らし、楽しめる環境を整備し、生活満足度の向上を目指します。

■ 受益者

町民、自治体

■ 担当部署

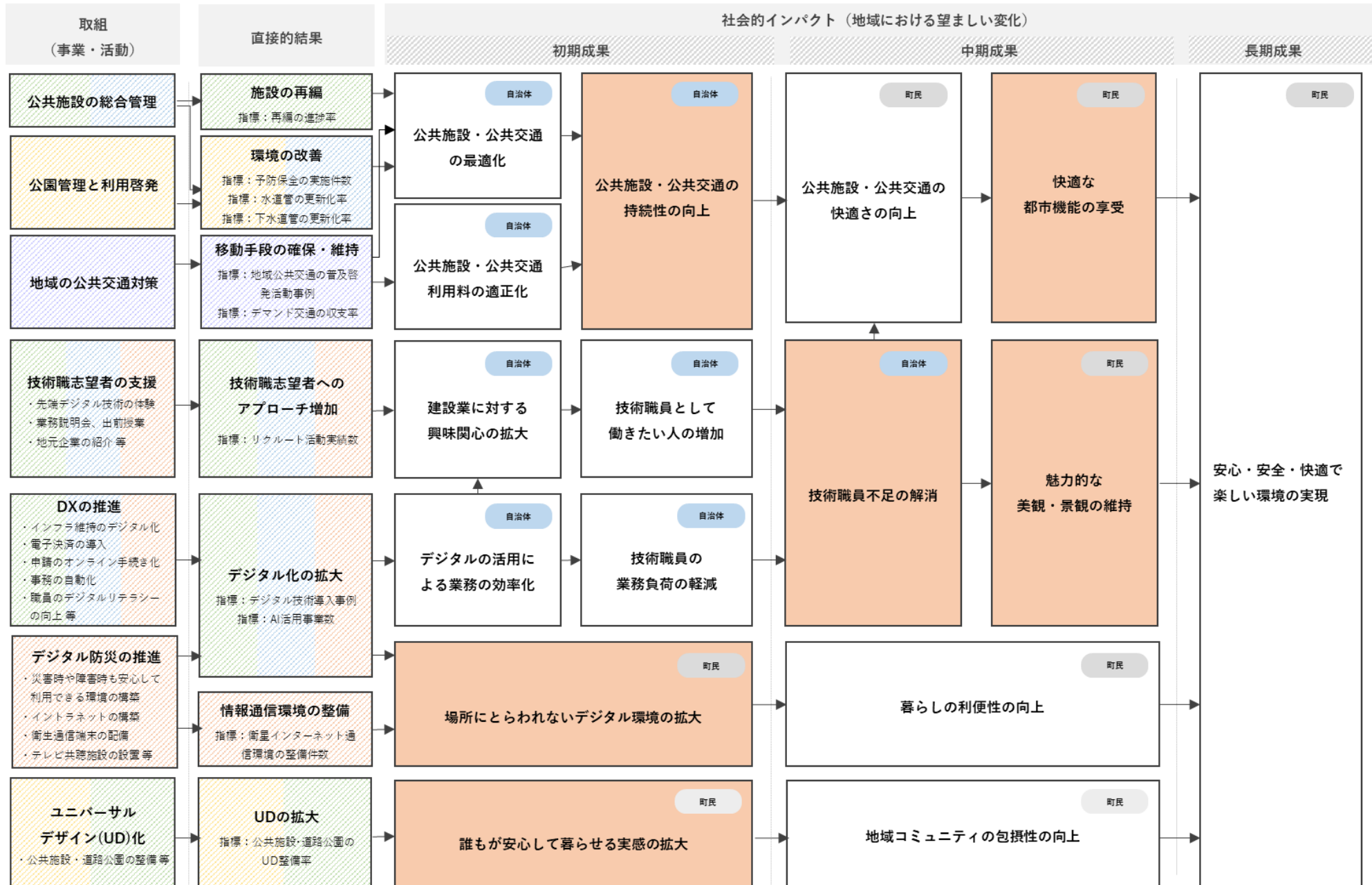
情報 建設課、総務課、まちづくり推進課

■ 結果指標

直接的結果	結果指標
施設の再編	再編の進捗率
環境の改善	予防保全の実施件数①公園毎の点検回数 ②草刈回数等
	簡易水道事業：水道管の更新化率 下水道事業：下水道管の更新化率
移動手段の確保・維持	地域公共交通の普及啓発活動事例 デマンド交通の収支率
技術職志望者へのアプローチ増加	リクルート活動実績数
デジタル化の拡大	①デジタル技術導入事例及び、委託先事業者の AI 活用事例 ②各種申請のオンライン申請導入 ③役場内のデジタル技術活用事例及び AI 活用事例数、及び、町内のデジタル技術活用や AI 活用に資する事業数
情報通信環境の整備	衛星インターネット通信環境の整備件数
UD の拡大	公共施設・道路公園の UD 整備率

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	公共施設・公共交通の持続性の向上
初期成果	場所にとらわれないデジタル環境の拡大
初期成果	誰もが安心して暮らせる実感の拡大
中期成果	技術職員不足の解消
中期成果	快適な都市機能の享受
中期成果	魅力的な美観・景観の維持



3-14. 人と自然にやさしい循環型社会づくり

関連する SDG s



■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

新たな価値を創造するまちに優しい持続可能な循環型社会の実現

■ 施策要旨

環境保全の啓発、ゼロカーボンの推進、堆肥化の促進、官民連携の推進により、自然を大切にする生活習慣を定着させます。自然資本を活かした商品・サービスの増加、循環型事業の創出、遊休建物の再利用促進を通じて、豊かな里山や生物の維持・回復を図ります。循環型の暮らしをまちの風景とし、新たな価値を創造する持続可能な社会の実現を目指します。

■ 受益者

町民

■ 担当部署

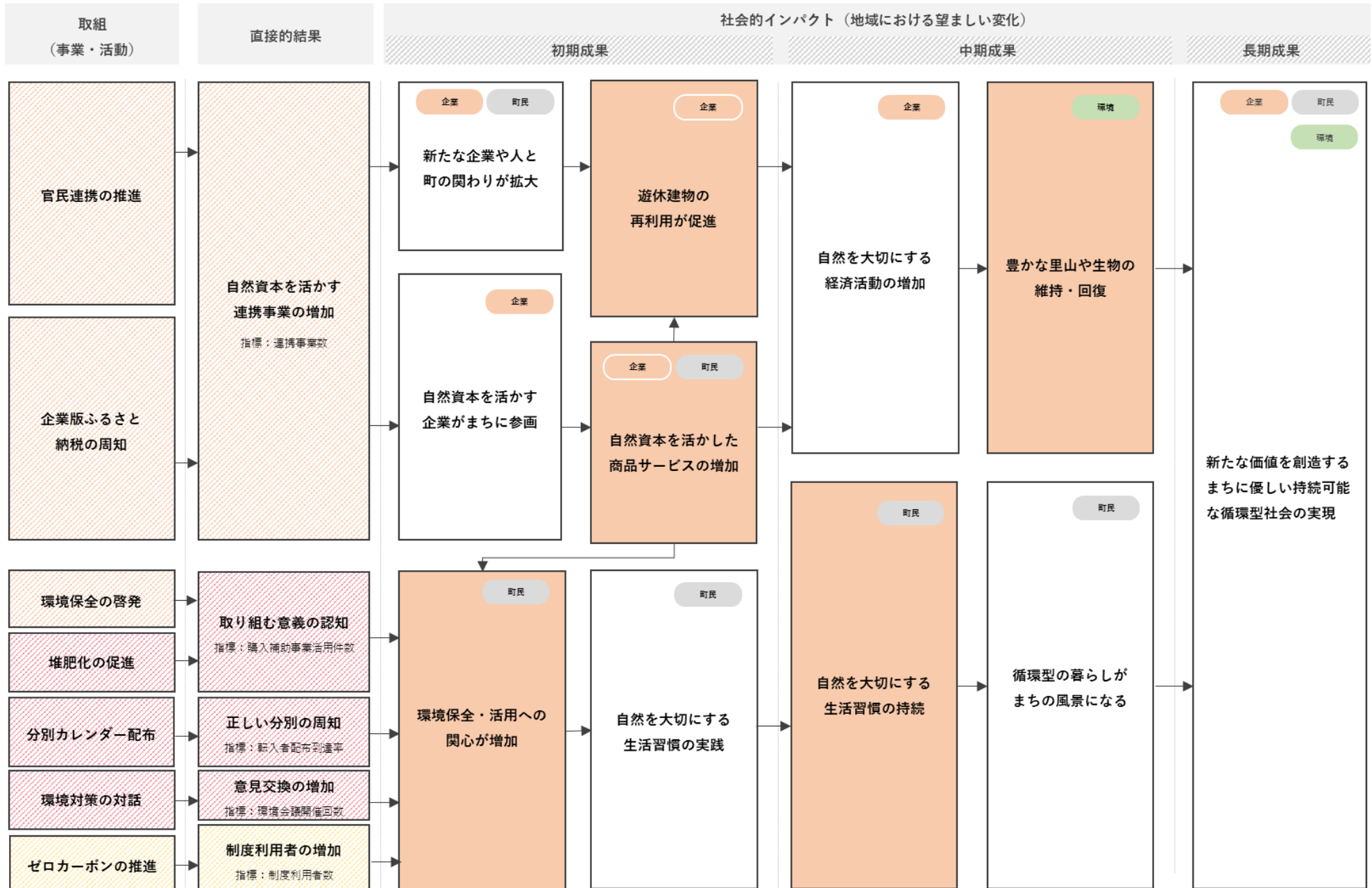
情報 まちづくり推進課、住民課

■ 結果指標

直接的結果	結果指標
自然資本を活かす連携事業の増加	連携事業数
取り組む意義の認知	購入補助事業活用件数
正しい分別の周知	転入者配布到達率
意見交換の増加	環境会議開催回数
制度利用者の増加	ゼロカーボン補助金利用者数

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	遊休建物の再利用が促進
初期成果	自然資本を活かした商品サービスの増加
初期成果	環境保全・活用への関心が増加
中期成果	自然を大切にする生活習慣の持続
中期成果	豊かな里山や生物の維持・回復



3-15. 住まい方の充実・定住促進

関連する SDG s



■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

誰もが満足できるきれいで楽しい住環境の実現

■ 施策要旨

公的賃貸住宅の再編と集約化、遊休空間の利活用促進、土地区画管理の適正化、住宅管理の適正化により、町民の暮らしやすさを向上させます。まちを楽しめるお店や施設の増加、多様なコミュニティの形成、建築・不動産の専門人材の確保を通じて、地域への居留意欲を高めます。誰もが満足できるきれいで楽しい住環境を整備し、定住人口の増加を目指します。

■ 受益者

町民

情報

■ 結果指標

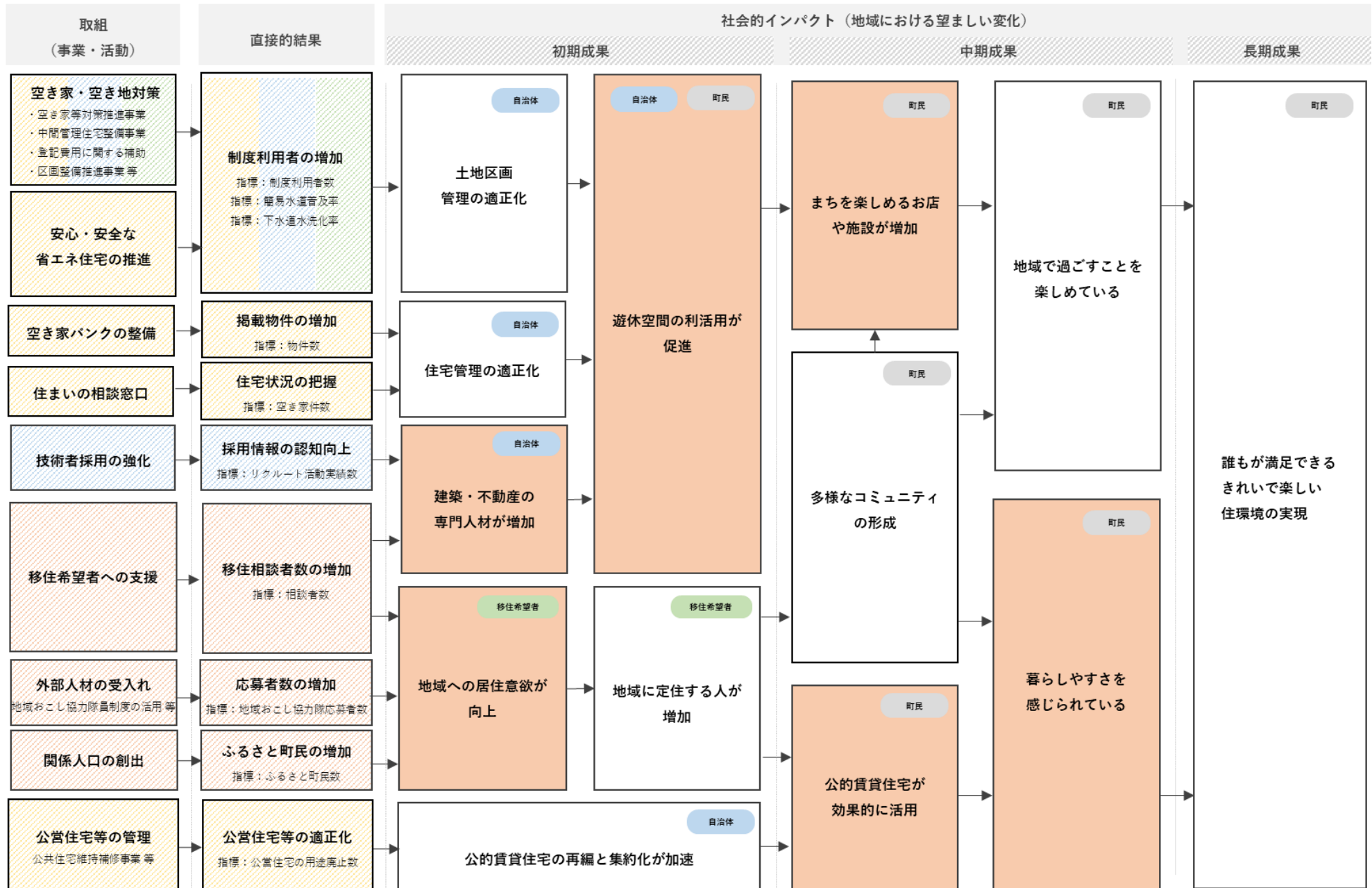
直接的結果	結果指標
制度利用者の増加	①利用者数 ②簡易水道事業：普及率 公共下水道事業・浄化槽事業：水洗化率
掲載物件の増加	物件数
住宅状況の把握	空き家件数
採用情報の認知向上	リクルート活動実績数
移住相談者数の増加	相談者数
応募者数の増加	地域おこし協力隊応募者数
ふるさと町民の増加	ふるさと町民数
公営住宅等の適正化	公営住宅の用途廃止数

■ 担当部署

建設課、まちづくり推進課

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	建築・不動産の専門人材が増加
初期成果	遊休空間の利活用が促進
初期成果	地域への居留意欲が向上
中期成果	まちを楽しめるお店や施設が増加
中期成果	公的賃貸住宅が効果的に活用
中期成果	町民が暮らしやすさを感じられている



3-16. 防災・危機管理能力の強化

関連する SDG s



■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

一人ひとりが安心できる「災害に強いまち・ひとづくり」の実現

■ 施策要旨

災害・危機管理計画の策定、防災備蓄品の整備、地域住民主導による防災力の強化、情報伝達力の強化、避難施設・経路の整備により、個人の防災力と地域力を向上させます。防災 DX の推進、防災組織の交流促進を通じて、住民の災害レジリエンスを高め、暮らしの再建や復旧・復興の迅速化を図り、一人ひとりが安心できる災害に強いまち・ひとづくりを目指します。

■ 受益者

町民、事業者、自治会

■ 担当部署

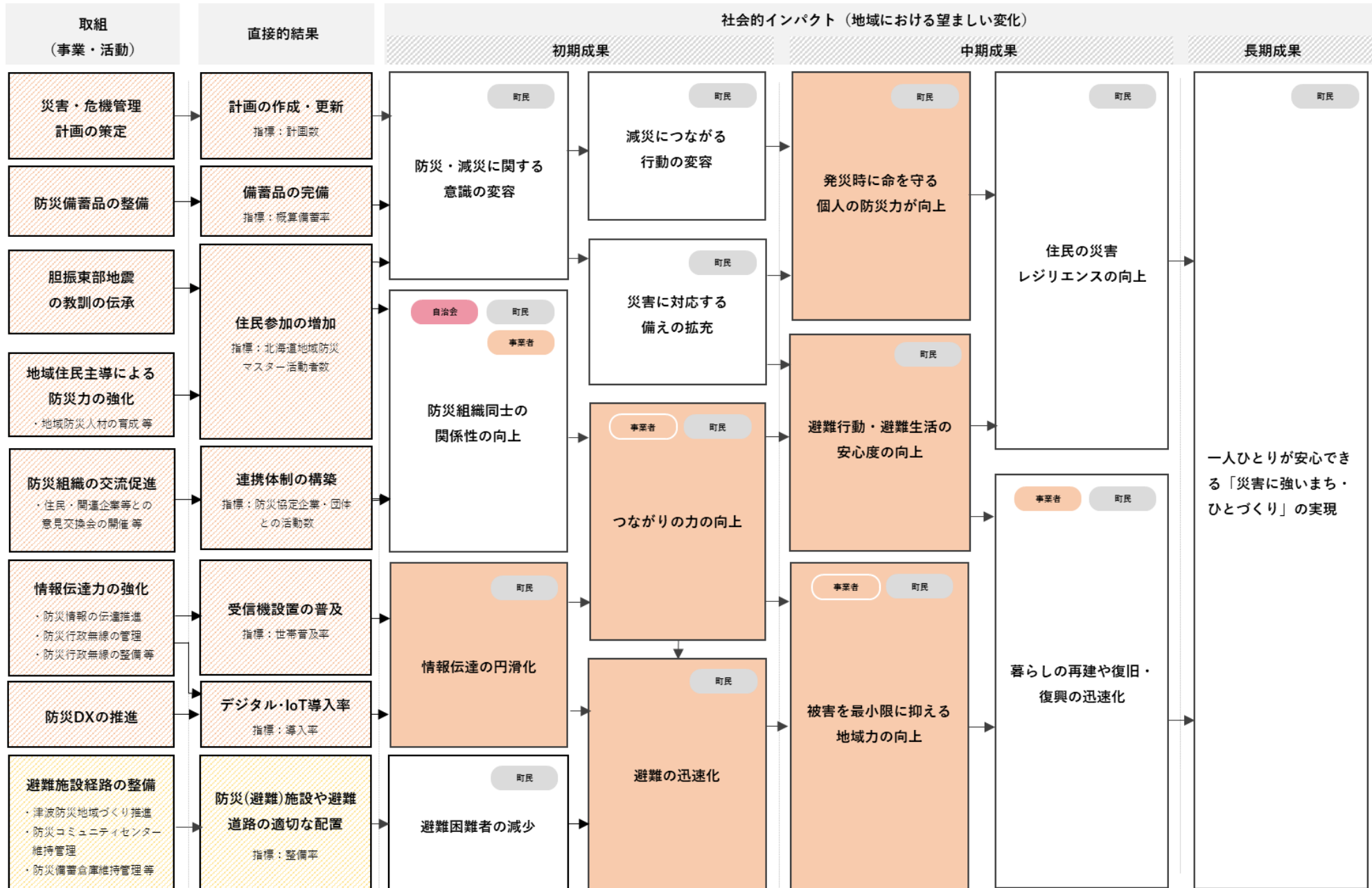
情報 総務課、建設課

■ 結果指標

直接的結果	結果指標
計画の作成・更新	計画数
備蓄品の完備	概算備蓄率
住民参加の増加	北海道地域防災マスター活動者数
連携体制の構築	防災協定企業・団体との活動数
受信機設置の普及	世帯普及率
デジタル・IoT 導入率	導入率
防災（避難）施設や避難道路の適切な配置	整備率

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	情報伝達の円滑化
初期成果	つながりの力の向上
初期成果	避難の迅速化
中期成果	発災時に命を守る個人の防災力が向上
中期成果	避難行動・避難生活の安心度の向上
中期成果	被害を最小限に抑える地域力の向上



3-17. 町民共創による安心・安全なまちづくり

関連する SDG s



■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

住民同士が自ら手を取り合い、助けあえる地域の実現

■ 施策要旨

自治会等の活動推進、住民活動の推進、ふるさと教育の推進、文化交流施設・広場の整備、学校運営協議会の運営により、地域住民同士のつながりを拡大します。地域課題解決の主体育成、共助意欲の向上、移動手段の確保を通じて、地域に暮らす人々の精神的豊かさとまちへの愛着を高めます。住民同士が自ら手を取り合い、助けあえる地域の実現を目指します。

■ 受益者

町民

■ 結果指標

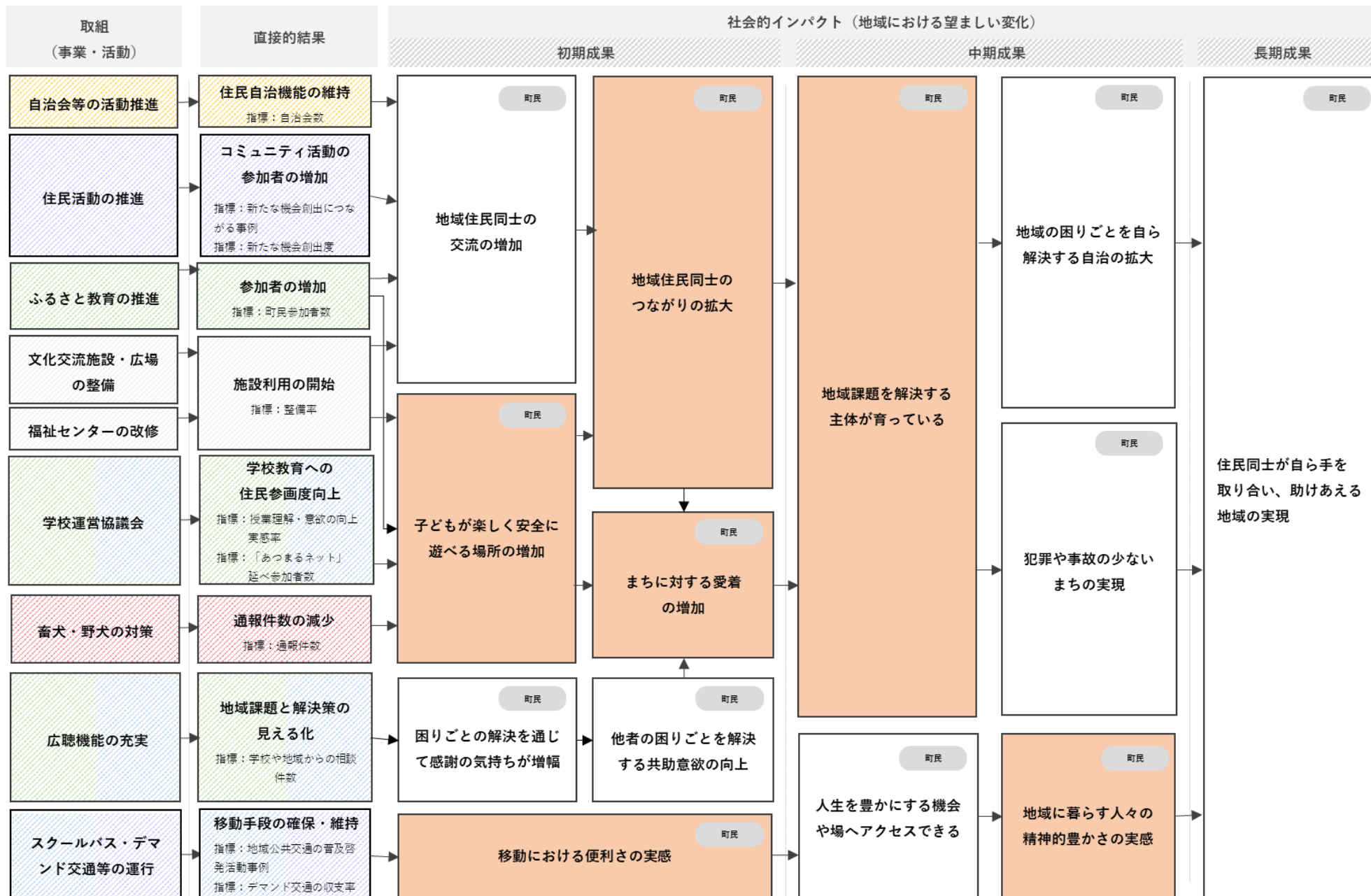
直接的結果	結果指標
住民自治機能の維持	自治会数
コミュニティ活動の参加者の増加	新たな機会創出につながる事例（定性）+新たな機会創出度
参加者の増加	厚真未来カレッジ参加者数
施設利用の開始	整備率
学校教育への住民参画度向上	地域学校協働本部「あつまるねっと」への延べ参加者数（社会教育）
通報件数の減少	畜犬・野犬に係る通報件数
地域課題と解決策の見える化	学校や地域からの相談件数
移動手段の確保・維持	地域公共交通の普及啓発活動事例（定性）+デマンド交通の収支率

■ 担当部署

情報 総務課、まちづくり推進課、住民課、生涯学習課（教育委員会）

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	子どもが楽しく安全に遊べる場所の増加
初期成果	地域住民同士のつながりの拡大
初期成果	まちに対する愛着の増加
初期成果	移動における便利さの実感
中期成果	地域課題を解決する主体が育っている
中期成果	地域に暮らす人々の精神的豊かさの実感



3-18. 健全な行財政運営への転換

関連する SDG s



■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

暮らしを守る事業と組織の健全運営の実現

■ 施策要旨

総合計画の策定・運用、定期的な情報発信、施策取組状況の開示、成長を促す人材育成、ふるさと納税の効果的な活用により、限られた資源で効果的な事業を推進します。職員の働きがい向上、業務量の適正化、経常収支比率の適切な維持を通じて、ヒト・モノ・カネ・情報の利活用を最大化し、暮らしを守る事業と組織の健全運営を実現します。

■ 受益者

自治体、職員

■ 結果指標

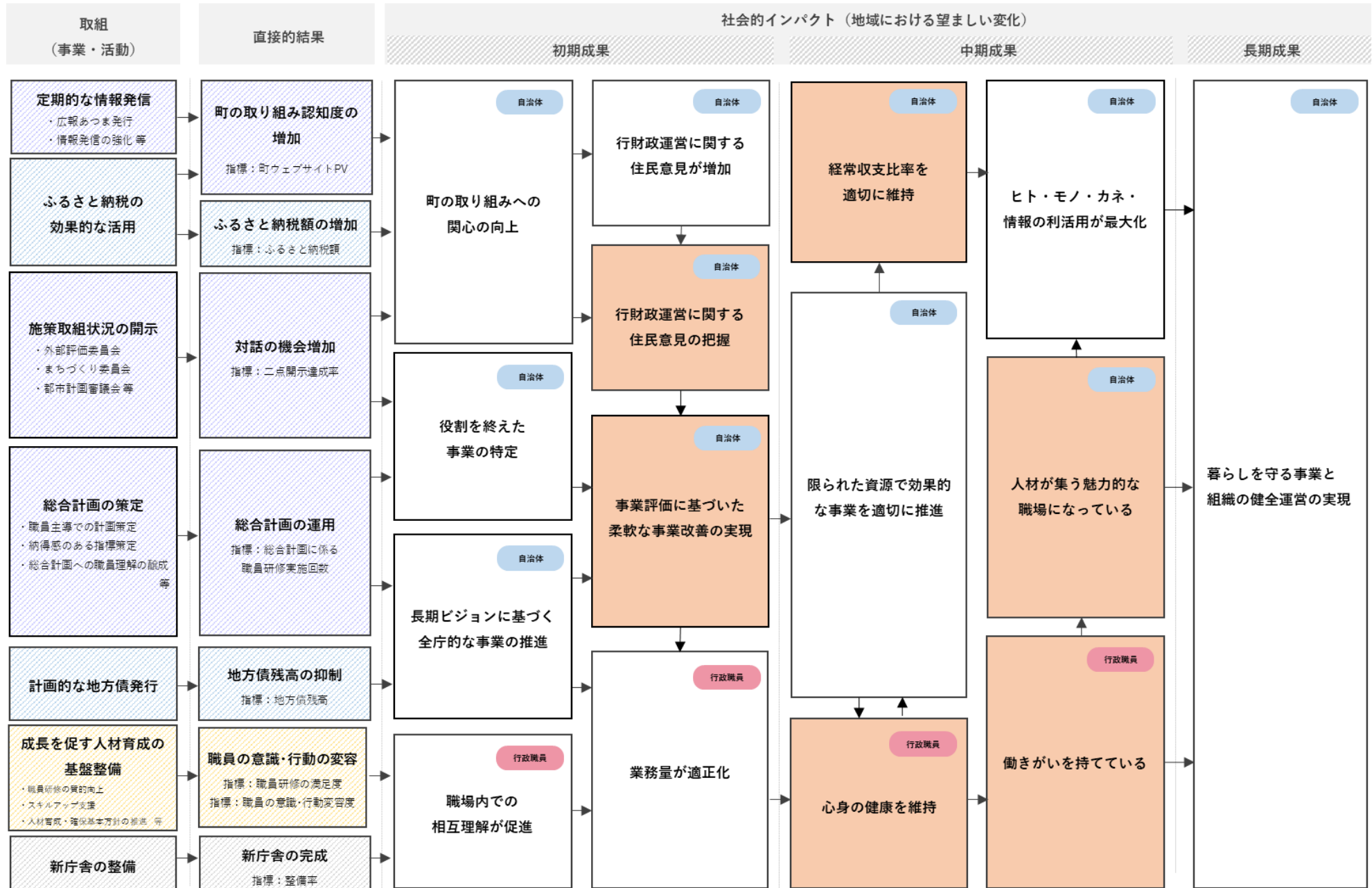
直接的結果	結果指標
町の取り組み認知度の増加	町ウェブサイト PV
ふるさと納税額の増加	ふるさと納税額
対話の機会増加	二点开示達成率
総合計画の運用	総合計画に係る職員研修実施回数
地方債残高の抑制	地方債残高
職員の意識・行動の変容	職員研修の満足度アンケート 職員の意識・行動変容度
新庁舎の完成	整備率

■ 担当部署

情報 総務課、まちづくり推進課

■ 社会的インパクト（初期・中期）

区分	社会的インパクト
初期成果	行財政運営に関する住民意見の把握
初期成果	事業評価に基づいた柔軟な事業改善の実現
中期成果	経常収支比率を適切に維持
中期成果	職員の心身の健康を維持
中期成果	人材が集う魅力的な職場になっている
中期成果	職員が働きがいを持っている



第4章 18 施策の結果指標と社会的インパクト一覧

ここでは、第3章の基本計画（ロジックモデル集）で記載されていたこの施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）と結果指標を一覧化しています。

4－1．子ども・子育て支援の充実

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

地域ぐるみで安心して子どもを育てられるまちの実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
資格取得者の増加	保育士資格取得者数	0	1人/年
情報共有の拡大浸透	子育て情報発信回数 ①HP 更新回数 ②情報発信の回数	—	①12回/年 ②月に1回
職場環境の向上	研修満足度/職員満足度 ①研修後のアンケート収集 ②離職率・休暇取得率・ストレスチェック職場指数	—	①参加者の80% ②離職率3%、休暇取得率70%以上、ストレスチェック高ストレス者判定10%
制度の活用者の増加	子育て支援に係る制度活用者数	対象世帯の8割	対象世帯の9割
主体的な遊び場の充実	利用者実績数（属性の把握） ①利用者実績数 ②利用参加者へのアンケート調査（プレーパーク）	①対象世帯の5割 ②人数のみの把握	①対象世帯の7割 ②8回/年

4－2．教育・多様な学びの充実

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

誰もが学びの主人公となり、未来をともに生きていける地域の実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
相談者の増加	①発達支援センターへの相談者数 ②多様な学びに対する相談	—	① 3 ② 430（町民の10%）

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
安心安全な学習環境の充実	いじめ認知件数、重大事態件数、重大事故件数	いじめ認知件数 46 件（小 27 中 19）（R 6） 重大事態件数 0 件 重大事故件数 0 件	0 又は少なくとも前年同水準以下
教育水準の向上	教員研修の開催数	—	年間 6 回（個人）
制度の活用者の増加	就学援助、育英資金に係る制度利用者数	制度を 1 回以上利用した児童生徒数（R 6） 小 26 人（11%） 中 17 人（14%）	児童生徒年 1 回以上の制度利用
参加者の増加	あつま未来カレッジ、ふるさと教育、あつひやく等の町民参加者数	29 人/1 回（R 7 平均値）	40 人/1 回

4－3．歴史と文化の継承・スポーツの振興

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

誰もが集い、つながり、楽しみ、いきがいを感じる暮らしの実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
学校保健体育の充実	体力・運動能力調査結果	男子は全国平均値以上 女子は全国平均値以下	全国平均値以上
見学者・来場者の増加	町内・外参加者数	900 人程度	1200 人/年
文化財ガイドの増加	文化財ガイドの数	5 人	10 人
クラブ参加者の増加	登録者数	—	小中学生 70%
施設利用の開始	整備率	0 %	100%

4－4．官民学連携による人材の確保・育成

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

誰もが町内外の人の挑戦を応援できる地域の実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
活用事例の増加	活用実績数・内容	起業化支援 7 件（R 6）	起業化支援 3 件
挑戦者の増加	起業者数	R 1 から R 6 の累計 27 件	5 年累計数 25 件
大学連携事業の増加	連携事業数	—	①1 人/年 ②5 年累計数 10 件

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
活躍する人材の増加	起業人受入人数	R 6 年委嘱者数 6 人（内新規委嘱者 2 人）	5 年累計数 20 人
ふるさと町民の増加	ふるさと町民数	—	5 年後 200 人
参加者の増加	町民参加者数	29 人/1 回（R 7 平均値）	40 人/1 回
来街者の増加	観光者数	150,885 人（R 6）	190,000 人
情報共有の拡大浸透	閲覧者数・発信者	1 回/週	1 回/週
イベント参加者の増加	イベント参加者満足度	—	ダブル同意率 75%
周辺地域の整備完了	整備率	0	100

4－5. 高齢者福祉・介護の充実

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

高齢者が安心して暮らせる地域の実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
制度利用者の増加	国保連合会給付に係る受給者数	265	270
参加者の増加	高齢者福祉・介護に係るイベント参加者数	①138 ②10	①300 ②現状値 5 % 増
相談者の増加	地域包括支援に係る相談者数	106	150
利用者の増加	高齢者福祉・介護に係るサービス・支援等利用者数	6710	6800
担い手の増加	ボランティア数	302	450

4－6. 社会福祉・障がい福祉の充実

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

どんな障がい・特性があっても認め支え合う町の実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
福祉人材基盤の形成	採用人数	年 12 人	年 10 人
個性に応じた学習環境の充実	多様な学びの事例	—	全国平均と同等を目指す
認知度の増加	相談先認知度	—	50%
参加者の増加	社会福祉・障がい福祉に係るイベントの参加者数	10	現状値 5 % 増
利用者の増加	①まちなか交流館事業の利用者数 ②発達支援センター事業の利用回数	①12 名：1,395 回 ②14 名：221 回	①14 名：1,682 回 ②16 名：375 回

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
制度利用者の増加	障がい者支援制度の利用者数	—	対象児の 8 割
被支援者の増加	障がい者相談支援事業に係る相談支援件数	136 件	271 件
利用者の増加	①人工透析患者等送迎サービス事業利用者数・利用日数 ②通院交通費助成人数・助成延べ件数	① 6 名：440 回 ②25 名：323 回	① 6 名：755 回 ②25 名：646 件
バリアフリーの増加	工事完了率	小学校完了	R8 全校バリアフリー化改修工事完了

4-7. 保健・医療の充実

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

健やかな心のふるさとづくりを通じた健康長寿のまちの実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
参加者の増加	夏季・冬季栄養教室、ゲートキーパー・こころの講演会参加者数	10	現状値 5 % 増
検診初回受診者 の増加	検診初回受診率	11%	現状値 3 % 増
保健医療の連携維持	連携実施数	64%	現状維持
かかりつけ医として 利用する 町民の増加	健康状態不明者の人数	15 人	13 人

4-8. 農畜産業の振興

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

農畜産業者の魅力ある経営の実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
就農相談件数の増加	相談件数	11 名（R6）	12 名/年
農家の後継者の増加	親元で働く従事者数	2 名（R7）	3 名/年
意欲的な挑戦が継続	支援件数	1 件（R7）	1 件/年
農機導入の拡大	導入率	60%（R6）	70%（中心的経営体の経営面積に対して）
捕獲頭数の拡大	エゾシカ捕獲頭数	1,399 頭（R6）	1,700 頭/年
農地集積の向上	農地集積率	90%	95%
優良な個体の確保	確保件数	70%	70%

4-9. 林業の振興

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

森林の多面的機能の回復と持続可能な林業の実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
イベント（植樹祭）参加者の増加	参加者数	200 人	現状維持
木材・林業者新規就業者数の増加	従事者数	17	20
町産材の流通量増加	流通量	—	2025 年度から 1.5 倍
加工品の増加	新規加工品事例	—	—（定性評価）
新技術の導入	導入事例	—	—（定性評価）
機械・デジタル化の導入拡大	①ICT 化・省力化の導入 ②デジタル化率（経営強化促進補助金（ICT 化）の実績）	①— ②1 件（R7）	①1 台 ②1 件／5 年
有害鳥獣の適正化	ヒグマ事故数	0 頭	現状維持

4-10. 水産業の振興

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

持続可能で高付加価値な漁業の実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
水産資源の適正管理	漁組の求めに応じた施策実施事例（定性）	—	—（定性評価）
漁業参入に関する 相談件数の増加	相談件数	1 件（令和 6 年度）	年間 1 件程度
制度の利用者の増加	漁業振興対策特別貸付金利用者数	貸付件数 8 件 金額 12,780 千円（R5）	年間 5 件

4-11. 商工業・観光の振興

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

地域資源を活かした新たな価値の創出による活気ある町の実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
経営戦略の強化	協働型地域おこし協力隊新規受入事業者数	—	単年 3 件

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
キャッシュレス決済・EC 事業の増加	EC 導入事業者数	1 件（EC 実績）（R 6）	年間 1 件
効果的な 支援の実行	経営支援利用者数	雇用 1 人職住 2 人経営強化 7 件（R 6）	年間 3 件
承継希望事業者の把握	事業承継に係る相談数	—	—
挑戦者の増加	プロジェクト参加者数 ①起業化支援事業補助金の実績 ②起業家人材育成支援事業の総参加者数	①7 件（R 6） ② —	①年間 3 件 ②単年延べ人数 60 人
不動産相談件数の増加	相談件数	—	単年新規相談数と単年掲載数合計 8 件
観光者の増加	観光入込客数	150,885 人（R6）	190,000 人
情報共有の拡大浸透	拡散係数（四半期の総シェア数 ÷ 四半期の総リーチ人数）×1000	0.3	14
イベント参加者の増加	イベント参加者満足度（魅力度+再訪意向）	—	ダブル同意率 75%

4－12. 地域経済の活性化

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

豊かさを実感できる持続可能な地域経済の確立

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
活躍する人材の増加	協力隊定住者数		70%
利用者の増加	オフィス利用率	86%（R 6）	80%
施設利用の開始	整備率	0	100
官民連携の強化	官民連携事業者数	7 件（R 6）	年間 5 件維持
挑戦者の増加	起業家数	R1 から R 6 の累計 27 件	5 年累計数 25 件
起業家の売上増加	起業家の売り上げ金額		スタートから 5 年後に 4 億円増加
地域で経営を続ける 事業者の増加	商工会会員数	153 事業者（R6 年度末）	170 事業者（目標年度）
カード利用者の増加	あつまるカード発行数	5,154 枚（R6 年度末）	年間新規 50 枚
来街者の増加	来街者数	150,885 人（R 6）	190,000 人
寄付の増加	企業版ふるさと納税件数	5 件	年平均 10 件

4-13. 都市機能の最適化

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

町民にとって安心・安全・快適で楽しい環境の実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
施設の再編	再編の進捗率	87 橋	集約化・撤去 1 橋
環境の改善	予防保全の実施件数①公園毎の点検回数 ②草刈回数等	①年 1 回 ②年 3 回程度	①年 1 回 ②年 4 回
	簡易水道事業：水道管の更新化率 下水道事業：下水道管の更新化率	簡易水道事業：水道管総延長 208km 下水道事業：下水道管総延長 19km	簡易水道事業：水道管 0.5%更新/年 下水道事業：下水道管 0.2%更新/年
移動手段の確保・維持	地域公共交通の普及啓発活動事例 デマンド交通の収支率	4.33%	定性的な事例の収集及び 4.0%の維持（4.0%を下回らない）
技術職志望者へのアプローチ増加	リクルート活動実績数	—	3 回/年
デジタル化の拡大	①デジタル技術導入事例及び、委託先事業者の AI 活用事例 ②各種申請のオンライン申請導入 ③役場内のデジタル技術活用事例及び AI 活用事例数、及び、町内のデジタル技術活用や AI 活用に資する事業数	①試験採用 2 事業 ②— ③—	① 5 件/10 年 ②80% ③ 2 件/年 計 20 件
情報通信環境の整備	衛星インターネット通信環境の整備件数	—	1 件/年 計 10 件
UD の拡大	公共施設・道路公園の UD 整備率	50%	バリアフリー化 70% 整備率 100%

4-14. 人と自然にやさしい循環型社会づくり

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

新たな価値を創造するまちに優しい持続可能な循環型社会の実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
自然資本を活かす連携事業の増加	連携事業数	—	5 年累計 8 件
取り組む意義の認知	購入補助事業活用件数	5 件	予算計上時の件数
正しい分別の周知	転入者配布到達率	100%	現状維持
意見交換の増加	環境会議開催回数	年 1 回	各会議年 1 回以上

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
制度利用者の増加	ゼロカーボン補助金利用者数	約 120 件	500 件 (R17 年度の累積目標件数)

4-15. 住まい方の充実・定住促進

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

誰もが満足できるきれいで楽しい住環境の実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
制度利用者の増加	①利用者数 ②簡易水道事業：普及率 公共下水道事業・浄化槽事業：水洗化率	①年間平均 2 件 ②簡易水道事業：95.44% 公共下水道事業：99.26% 浄化槽事業：78.54%	①年間 2 件 ②簡易水道事業：97% 公共下水道事業：99.4% 浄化槽事業：85%
掲載物件の増加	物件数	—	50 件
住宅状況の把握	空き家件数	162 件	120 件
採用情報の認知向上	リクルート活動実績数	—	町内で 1 人増/年
移住相談者数の増加	相談者数	約 15 件	単年 20 件
応募者数の増加	地域おこし協力隊応募者数	約 15 件	単年 20 件
ふるさと町民の増加	ふるさと町民数	14 人	200 人
公営住宅等の適正化	公営住宅の用途廃止数	22 戸	58 戸

4-16. 防災・危機管理能力の強化

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

一人ひとりが安心できる「災害に強いまち・ひとづくり」の実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
計画の作成・更新	計画数	—	100%
備蓄品の完備	概算備蓄率	55.5%	70%以上
住民参加の増加	北海道地域防災マスター活動者数	6 人 (R6)	40 人/年以上 ※概ね年 4 回開催
連携体制の構築	防災協定企業・団体との活動数	—	10 回/年以上
受信機設置の普及	世帯普及率	84.4%	90%以上
デジタル・IoT 導入率	導入率	—	1 件/年 計 10 件以上

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
防災（避難）施設や避難道路の適切な配置	整備率	—	100%

4-17. 町民共創による安心・安全なまちづくり

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

住民同士が自ら手を取り合い、助けあえる地域の実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
住民自治機能の維持	自治会数	34	34
コミュニティ活動の参加者の増加	新たな機会創出につながる事例（定性）+新たな機会創出度	—	満足 Top2 率: 88%以上 交流成立率: 65%以上 継続意向率: 82%以上 ダブル同意率: 55%以上
参加者の増加	厚真未来カレッジ参加者数	29 人/1 回	40 人/1 回
施設利用の開始	整備率	0	100
学校教育への住民参画度向上	地域学校協働本部「あつまるねっと」への延べ参加者数（社会教育）	563 人（R7）	500 人/年
通報件数の減少	畜犬・野犬に係る通報件数	—	10 件未満
地域課題と解決策の見える化	学校や地域からの相談件数	—	20 件/年
移動手段の確保・維持	地域公共交通の普及啓発活動事例（定性）+デマンド交通の収支率	4.33%	定性的な事例の収集 + 4.0%の維持（4.0%を下回らない）

4-18. 健全な行財政運営への転換

■ この施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）

暮らしを守る事業と組織の健全運営の実現

■ 結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
町の取り組み認知度の増加	町ウェブサイト PV	—	60%
ふるさと納税額の増加	ふるさと納税額	620,758 千円（R6 決算）	1,000,000 千円

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
対話の機会増加	二点開示達成率	—	100%
総合計画の運用	総合計画に係る職員研修実施回数	—	1 回／年
地方債残高の抑制	地方債残高	12,020,395 千円（R6 決算）	8,000,000 千円
職員の意識・行動の変容	職員研修の満足度アンケート 職員の意識・行動変容度	—	自分の行動や意識が変容したと自覚する職員の割合 30% 周囲の行動が変容したと感じる職員の割合 20% 自由記述欄に研修要望を記載する職員の割合 10%
新庁舎の完成	整備率	0%	100%

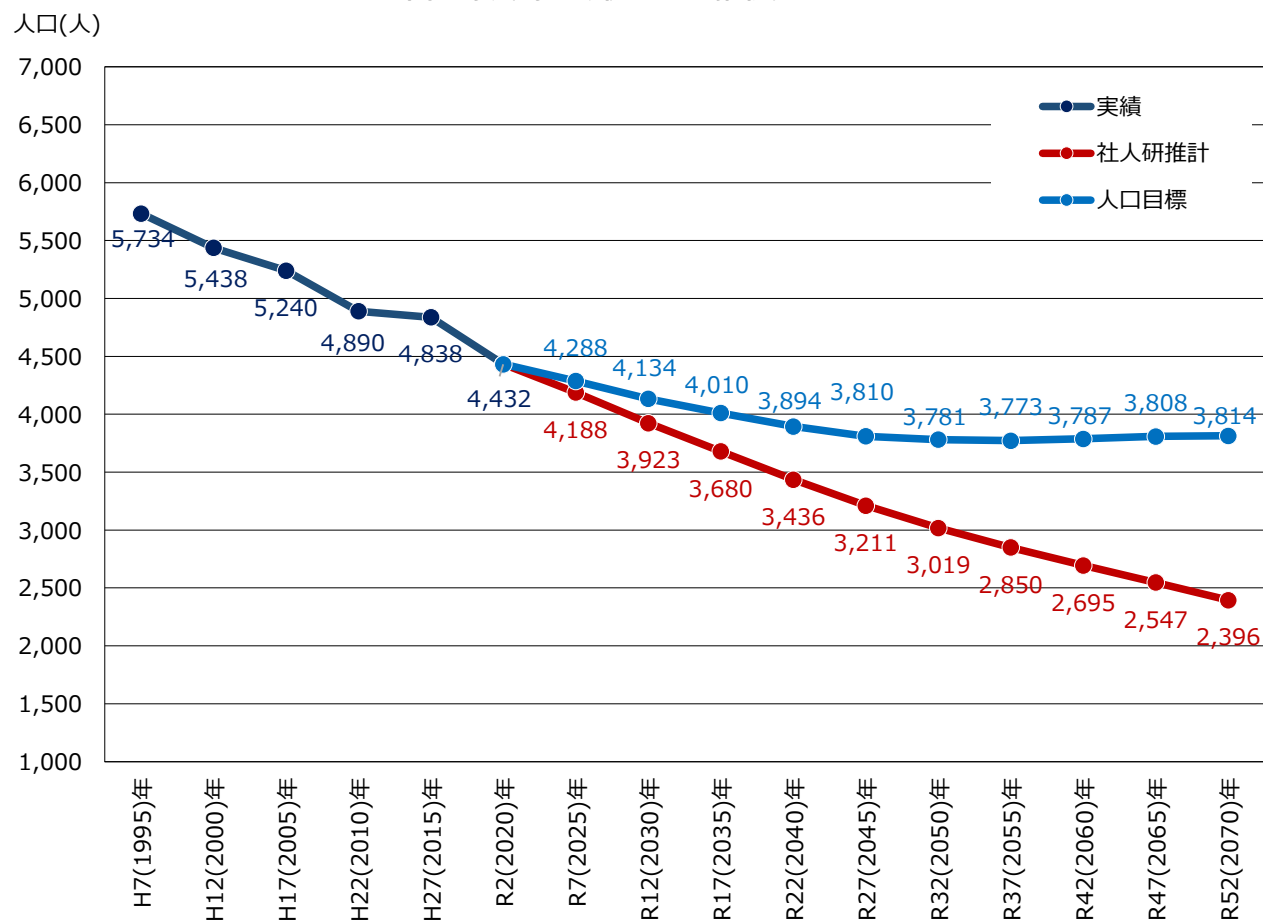
第4編 付 録

第4編 付 録

第1章 厚真町の人口の見通し

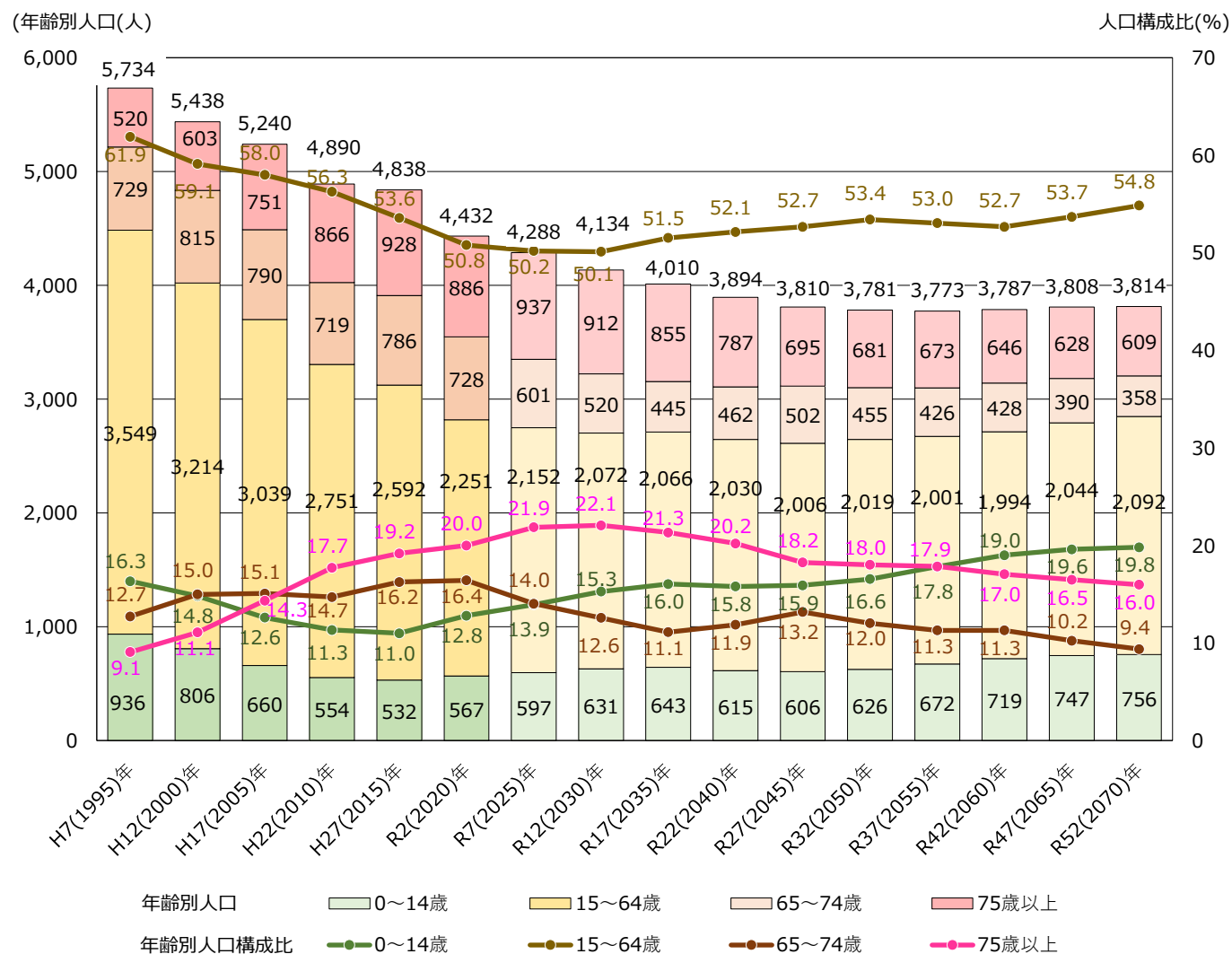
本計画の推進により、地域資源の活用、移住・定住促進、空き家活用、ローカルベンチャーやシェアオフィス等の環境整備を進めます。Uターン就業者や副業・二地域居住希望者の確保を促進し、**令和27年（2045年）以降、人口約3,800人**で安定的に推移することを目標とします。

図 厚真町の今後の人口推移見通し



これにより、合計特殊出生率の増加傾向の維持と、毎年5世帯の30代子育て世帯の転入により、令和12年(2030年)頃から生産年齢人口と年少人口が増加に転じます。人口は令和32～37年(2050～2055年)頃の約3,800人を底に微増し、以降は安定的に推移すると見込まれます。

図 厚真町の今後の人口構成の見通し



第2章 土地利用ビジョン

2-1 基本的な考え方

厚真町は、市街地が豊かな自然や農地に囲まれた特有の都市構造を持っています。この特性を活かし、町内全域を5つのゾーンに区分し、安全・安心で快適な都市構造の実現を目指します。

2-2 5つのゾーンによる土地利用

2-2-1 賑わいあふれる市街地

都市機能の集積と防災拠点機能の向上を図り、町民や移住・定住者、二地域居住者にとって魅力的な市街地を形成します。サテライトオフィスやゼロカーボンビレッジなど新たな分譲地整備を推進し、職住近接の市街地を実現します。

- ・住宅地：中心商業地周辺や幹線道路沿道に一般住宅地、豊沢・新町・本郷・上厚真地区に低層専用住宅地を配置
- ・商業業務地：厚真市街地内に生活利便施設、主要幹線道路沿道に沿道サービス施設を誘導
- ・工業業務地：豊沢地区の企業誘致を推進
- ・未利用地：市街地への居住誘導を図り、郊外部の無秩序な開発を抑制。大規模未利用地は新たな分譲地整備により活用

2-2-2 豊かな森林地域

都市計画区域北部の山間地・丘陵地域は、森林の再生と林業の復興を図ります。災害防止、環境保全、自然景観保全の場として位置づけ、厚幌ダム・厚真ダムを中心とした景観・観光の場、都市との交流の場として活用します。

2-2-3 輝く田園地域

都市計画区域中部から南部の水田を中心とした農村地域は、水と緑に恵まれた農村環境を形成します。農業振興地域整備計画に基づき優良な農地を保全し、水稻を中心とした生産性向上を図ります。グリーン・ツーリズムなどにより、町民の自然とのふれあいの場や都市住民との交流の場を創出します。

2-2-4 美しい臨海地域

浜厚真地区の海岸は、日高胆振沿岸海岸保全基本計画（北海道）による海岸の保全を図ります。

2-2-5 魅力ある工業地域

苫小牧東部地域は、苫小牧東部開発新計画や港湾計画に基づき、工業用地、物流機能、研究開発機能を配置します。

2-3 交流拠点機能の充実と創出

2-3-1 既存拠点

こぶしの湯あつま・あつまスタードーム周辺、役場周辺の機能複合化

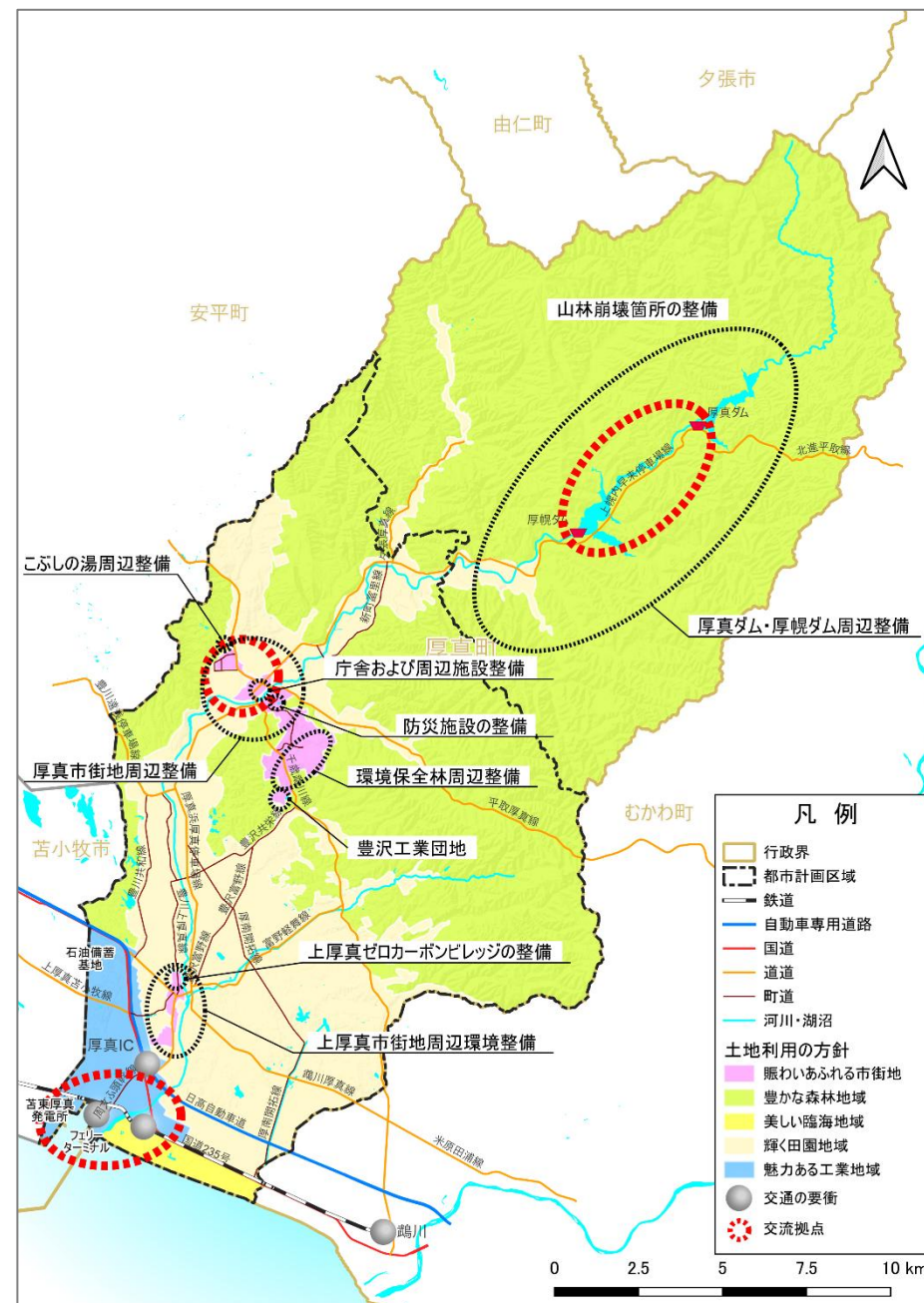
2-3-2 新たな拠点

厚真 IC、フェリーターミナル、浜厚真野原公園、浜厚真海浜公園周辺における地場産品の販売拡大と PR 機能の充実

2-4 市街化調整区域における地域振興

優良な農地と森林の適切な保全・管理、グリーン・ツーリズムなどによる魅力ある農村環境の創出、災害被災地域における集落再生と住まいの再建支援を実施します。

2-5 土地利用の基本方針図



第3章 総合計画策定のあゆみ

令和6年度（2024年度）

日	内容	対象	詳細
4月26日	第5次総合計画策定方針 ブレインストーミング	庁内職員	町の現状や課題、将来像の可視化・共有
8月6日～ 9日	あつま課題発掘会議（事前インタビュー） ～ 中高生が拓くまちづくり編～	町内の中学校・高校に通学する中高生、高校生	ワークショップの事前準備のために、中高生による保護者、高齢者へのインタビュー
8月16日	あつま課題発掘会議 ～ 中高生が拓くまちづくり編～	町内の中学校・高校に通学する中高生、高校生	事前インタビュー結果を基にした教育・福祉分野の課題整理ワークショップ
9月18日	あつま課題発掘会議 ～ まちづくりを担う人材編～	町内在住の一般町民など	まちの現状や課題について考えるワークショップ
9月19日	あつま課題発掘ワークショップ ～ 女性とキャリア編～	町内在住の女性	女性が起業やキャリアアップを目指すうえで感じる課題について話し合うワークショップ
9月20日	令和6年度第1回まちづくり委員会	まちづくり委員会	第5次厚真町総合計画の策定方針について
9月26日～ 10月24日	担当原課ヒアリング	庁内職員	事務局が各施策担当者に現状や課題についてヒアリング
10月7日	新総合計画策定に関する調査特別委員会	新総合計画策定に関する調査特別委員会	第5次厚真町総合計画策定方針（案）について
10月23日	第1回厚真町総合計画策定委員会	厚真町総合計画策定委員会	厚真町総合計画策定委員会設置要綱、第5次厚真町総合計画策定方針について
11月7日	令和6年度第1回厚真町総合計画策定プロジェクトチーム会議	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム	キックオフミーティング
11月20日～ 12月16日	厚真町総合計画及び都市計画マスタープランの見直しに向けた意向調査	15才以上の町内在住者から無作為に抽出した町民1,000人	地域幸福度（Well-Being）指標及び都市計画マスタープラン見直しに関するアンケート調査
12月24日～ 25日	令和6年度第2回厚真町総合計画策定プロジェクトチーム会議	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム	課題構造マップ作成に向けた事前説明会
1月8日～ 1月23日	庁内課題構造整理	庁内職員	担当原課ごとで課題構造マップ作成に向けた19施策の課題整理
2月6日	令和6年度第3回厚真町総合計画策定プロジェクトチーム会議	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム	厚北地域防災コミュニティセンターで19の施策分野の課題構造マップを作成するワークショップ

日	内容	対象	詳細
3月18日	令和6年度第2回まちづくり委員会	まちづくり委員会	第5次厚真町総合計画策定の進捗について

令和7年度

日	内容	対象	詳細
6月10日	令和7年度第1回まちづくり委員会	まちづくり委員会	第5次厚真町総合計画基本構想（案）について
6月17日	新総合計画策定に関する調査特別委員会	新総合計画策定に関する調査特別委員会	第5次厚真町総合計画基本構想（案）について
7月2日	「活用される総合計画策定研究会」（第1回）	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム、事務局	日本生産性本部主催の研究会
7月3日	令和7年度第1回厚真町総合計画策定プロジェクトチーム会議	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム	ロジックモデル作成のための事前説明
7月23日	「活用される総合計画策定研究会」（第2回）	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム、事務局	日本生産性本部主催の研究会
7月28日～29日	令和7年度第2回厚真町総合計画策定プロジェクトチーム会議	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム、関係職員	ロジックモデル作成のワークショップ
8月18日	「活用される総合計画策定研究会」（第3回）	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム、事務局	日本生産性本部主催の研究会（長野県小諸市への先進地現地視察）
9月30日	「活用される総合計画策定研究会」（第4回）	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム、事務局	日本生産性本部主催の研究会
1月7日	令和7年度第3回厚真町総合計画策定プロジェクトチーム会議	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム、関係職員	指標検討のための事前説明
1月22日	令和7年度第4回厚真町総合計画策定プロジェクトチーム会議	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム、関係職員	指標選定のためのワークショップ

※以降の取組については順次追記

第4章 総合計画策定メンバー

厚真町総合計画策定委員会委員

区分	役職	氏名
委員長	副町長	西野 和博
副委員長	教育長	遠藤 秀明
委員	地方創生担当理事	大坪 秀幸
委員	総務課長	佐藤 大輔
委員	まちづくり推進課長	宮下 桂
委員	住民課長	藤岡 隆志
委員	産業経済課長	木戸 達也
委員	建設課長	佐藤 義彦（～R7年6月） 田中 紀嘉（R7年10月～）
委員	生涯学習課長	阿部 雄史

事務局

所属	役職	氏名
まちづくり推進課	課長	宮下 桂
まちづくり推進課企画調整G	主幹	江川 允典
まちづくり推進課企画調整G	主査	矢代 直樹
まちづくり推進課企画調整G	主査	北川 桂
まちづくり推進課企画調整G	主事	菊地 崇斗

厚真町総合計画策定プロジェクトチーム

区分	所属	役職	氏名
チームリーダー	総務課 情報防災 G	参事	小山 敏史
チームメンバー	庁舎周辺等整備推進室	主任	池川 勲
副チームリーダー (R 6)	総務課 総務人事 G	主幹	丸山 泰弘 (R 6)
チームメンバー		主査	永澤 宏基 (R 7)
チームメンバー	総務課 財政 G	主査	大平 賢
チームメンバー	まちづくり推進課 政策推進 G	主査	小松 美香
副チームリーダー (R 7)	住民課 福祉 G	主幹	高橋 卓嗣
チームメンバー	住民課 町民生活 G	主任	木澤 真生
チームメンバー	住民課 健康推進 G	主任	杉山 効平
チームメンバー	住民課 子育て支援 G	主査	今野 果倫
チームメンバー	産業経済課 経済 G	主査	澤井 順英
チームメンバー	産業経済課 農業 G	主査	岡橋 篤志
チームメンバー	産業経済課 林業・ 森林再生推進 G	主事	三上 勇
チームメンバー	建設課 土木 G	主査	長谷川 翔吾
チームメンバー	建設課 上下水道 G	主事	飯岡 高基 (R 6)
		主査	中田 恭平 (R 7)
チームメンバー	建設課 都市施設 G	主任	上田 直輝
チームメンバー	会計室	主査	近藤 奈々子
チームメンバー	生涯学習課 学校教育 G	主査	日野 弥生
チームメンバー	生涯学習課 社会教育 G	主任	斉藤 烈

厚真町総合計画策定伴走支援

区分	氏名
厚真町地域活性化起業人	桑原 憂貴 (アンドパブリック株式会社 代表取締役)

あつま課題発掘会議

～中高生が拓くまちづくり編～

区分	氏名
中学生	押見 芽泉
中学生	日西 楓
中学生	安瀬 歩未
中学生	丸山 さくら
中学生	岩間 咲映
中学生	真野 光
中学生	館山 太雪
中学生	渡邊 聖涼
中学生	矢部 太郎
中学生	北川 侑
高校生	加藤 迅
高校生	蛸名 さくら
高校生	河原 悠月
高校生	兼本 洸埜

※令和6年度時点

あつま課題発掘会議

～まちづくり人材編～

氏名
畑山 貴英
山中 卓也
澤口 研太郎
丹羽 智大
荒谷 真美
水丸 和樹
大矢 仁
近藤 一郎
関西 正成
金丸 佳代
北村 剛也
土居 琴恵
松岡 美由紀
金谷 泰央
山口 和秀
神垣 明菜
古城 香
池川 勲
大垣貴弘

あつま課題発掘ワークショップ

～女性とキャリア編～

氏名
山下 翔子
深澤 章子
北川 瞳
板垣 茜子
斉藤 直美
矢代 友香
宮野 和美
金子 あぐみ
野地 妙子
鎌田 えりか
堀田 祐美子
檜村 美輝

厚真町第5次総合計画資料集（案）

令和8年 月



厚真町第5次総合計画資料集（案）目次

資料1 課題構造マップ	2
Section 1 課題構造マップとは	2
Section 2 課題構造マップを作成した19の政策分野	2
Section 3 課題構造マップ集	3
Section 4 作業風景	22
資料2 町民ワークショップ	24
Section 1 あつま課題発掘会議～中高生が拓くまちづくり編～	24
Section 2 あつま課題発掘会議～まちづくりを担う人材編～	27
Section 3 あつま課題発掘ワークショップ～女性とキャリア編～	28
資料3 住民アンケート	29
Section1 アンケート概要	29
Section 2 アンケート結果	29
Section 3 地域幸福度を軸とした厚真町の特徴	32
資料4 幸福度を高める因子の探求	35
Section 1 「あつま課題発掘会議～中高生が拓くまちづくり編～」で得られた生活の実感	36
Section 2 「あつま課題発掘会議～まちづくりを担う人材編～」 「あつま課題発掘ワークショップ～女性とキャリア編～」で得られた生活の実感	36

資料 1 課題構造マップ

本計画策定にあたり、職員ワークショップを通じて、まちが抱える課題を 19 の分野に整理し、課題同士のつながりを可視化した**課題構造マップ**を作成しました。

Section 1 課題構造マップとは

まちの課題同士がどのように影響し合っているかを、矢印でつないで示した図です。

例えば、「地域交通の不便」という課題があると、それが「外出機会の減少」につながり、さらに「交流の減少」や「買い物の困難」へと波及していきます。このように、一つの課題が別の課題を引き起こす連鎖が見える化することで、どこに力を入れれば複数の課題を同時に改善できるかが分かります。

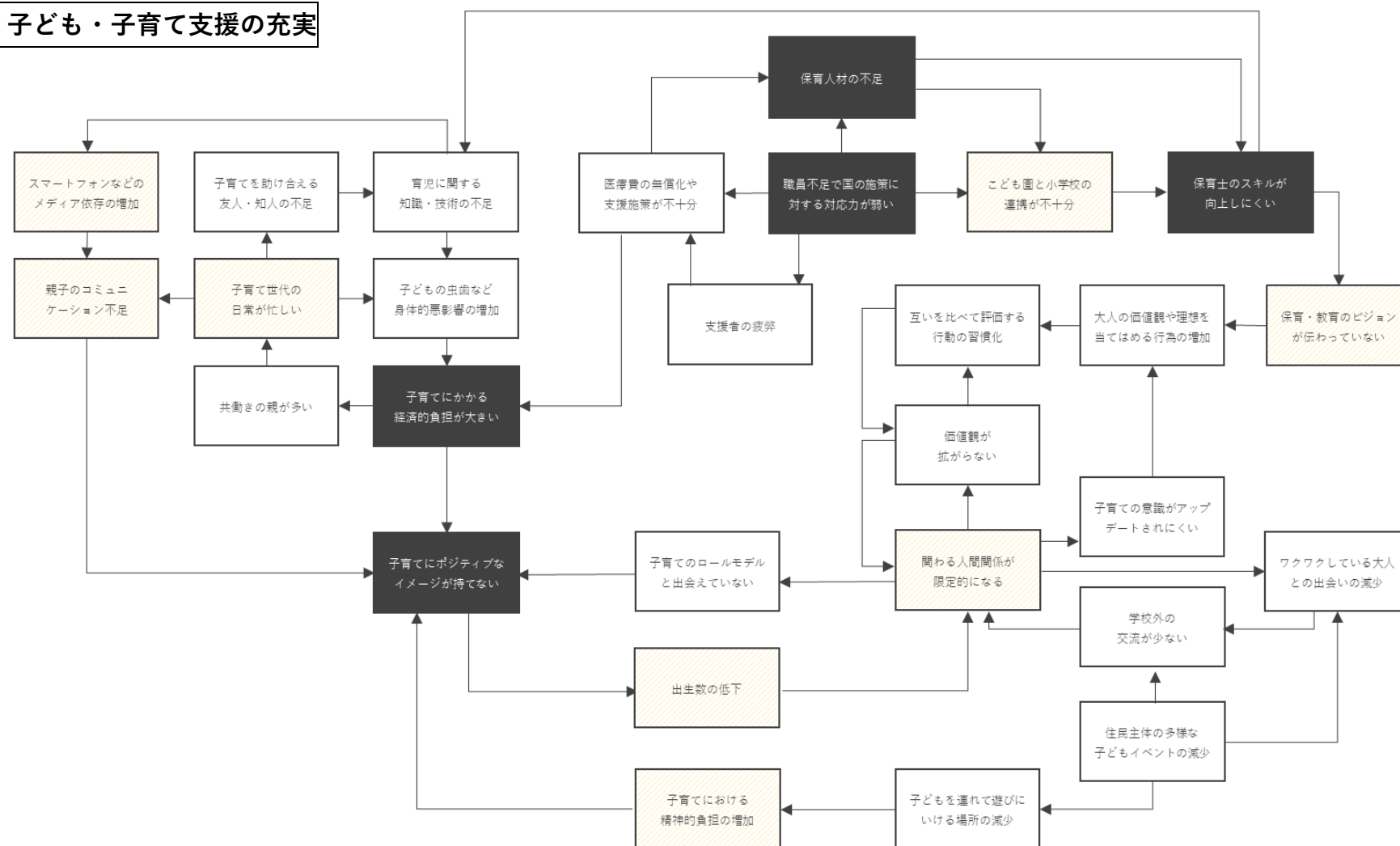
この「効きやすい場所」をレバレッジポイント(効きどころ)と呼び、課題構造マップでは**黒いボックス**で示しています。レバレッジポイントに優先的に取り組むことで、限られた資源を効果的に使い、まち全体に良い変化を広げることができます。また、**黄色いボックス**は、他の政策分野にも関連する課題を示しています。

Section 2 課題構造マップを作成した 19 の政策分野

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 子ども・子育て支援の充実 | 11. 商工業・観光の振興 |
| 2. 教育・多様な学びの充実 | 12. 地域経済の活性化 |
| 3. 歴史と文化の継承・スポーツの振興 | 13. 都市機能の最適化 |
| 4. 官民学連携による人材の確保・育成 | 14. 人と自然にやさしい循環型社会づくり |
| 5. 高齢者福祉・介護の充実 | 15. 住まい方の充実・定住促進 |
| 6. 社会福祉・障がい者福祉の充実 | 16. 防災・危機管理能力の強化 |
| 7. 保健・医療の充実 | 17. 安心・安全なまちづくり |
| 8. 農畜産業の振興 | 18. 住民主体のまちづくり |
| 9. 林業の振興 | 19. 健全な行財政運営への転換 |
| 10. 水産業の振興 | |

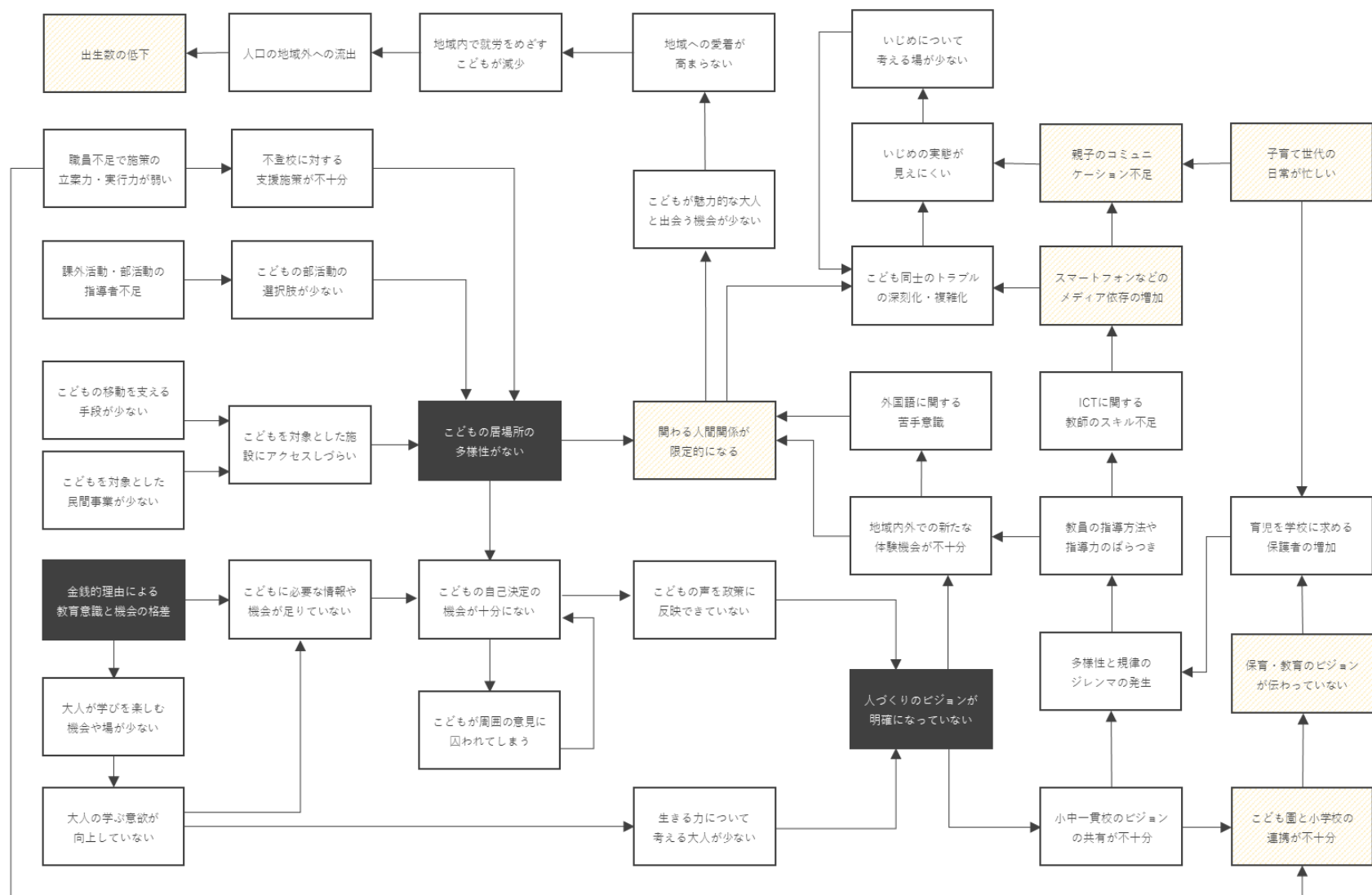
Section 3 課題構造マップ集

3-1. 子ども・子育て支援の充実



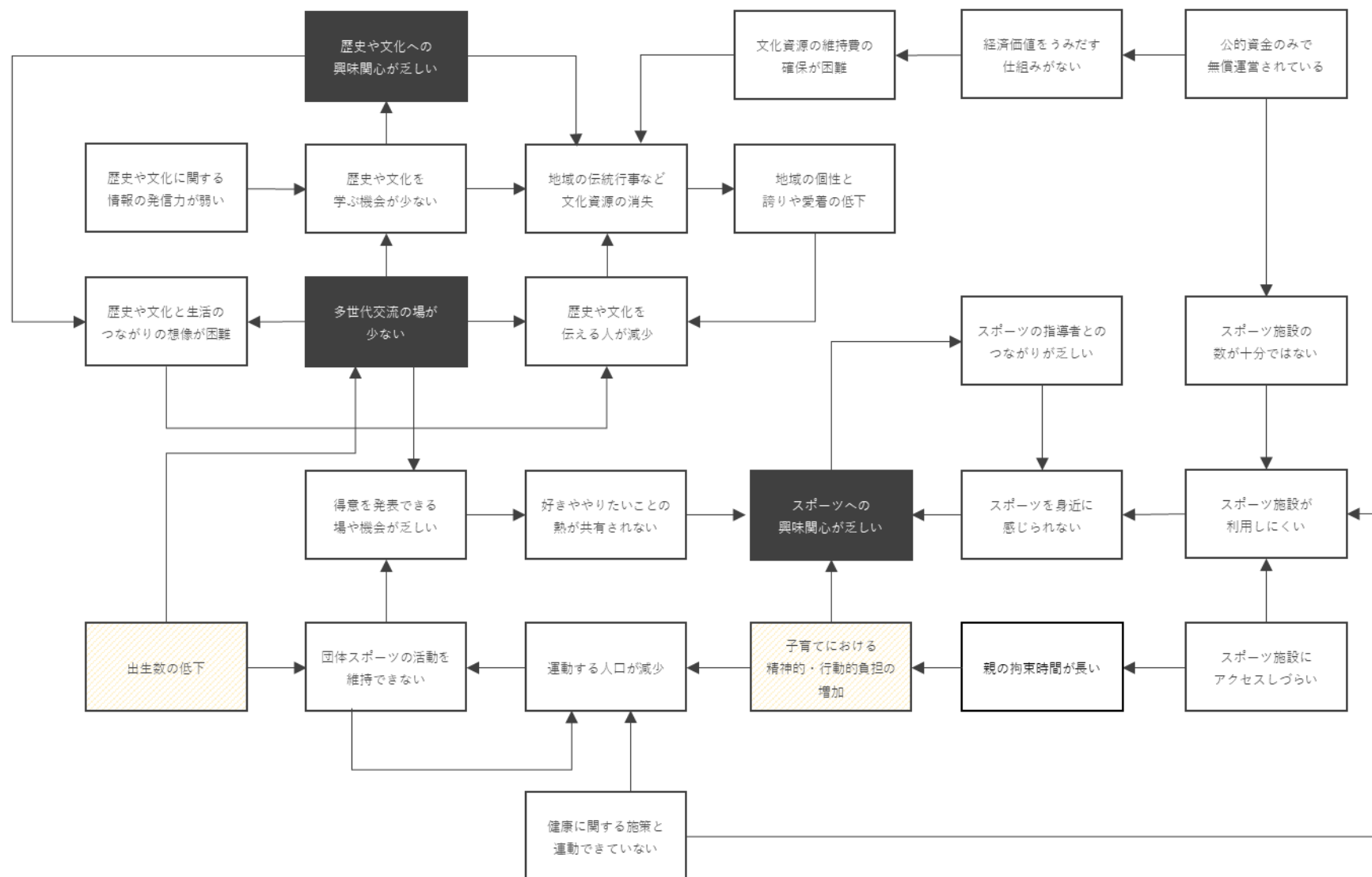
親世代の日常的な多忙さと孤立により、育児の知識共有や助け合いが困難な構造にあります。これが精神的負担を増大させ、親子間のコミュニケーション不足やメディア依存を招く要因となっています。保育人材の不足やビジョン共有の停滞が支援の質に影響し、地域全体で子育てに前向きな実感を持ちにくい状況が生まれています。

3-2. 教育・多様な学びの充実



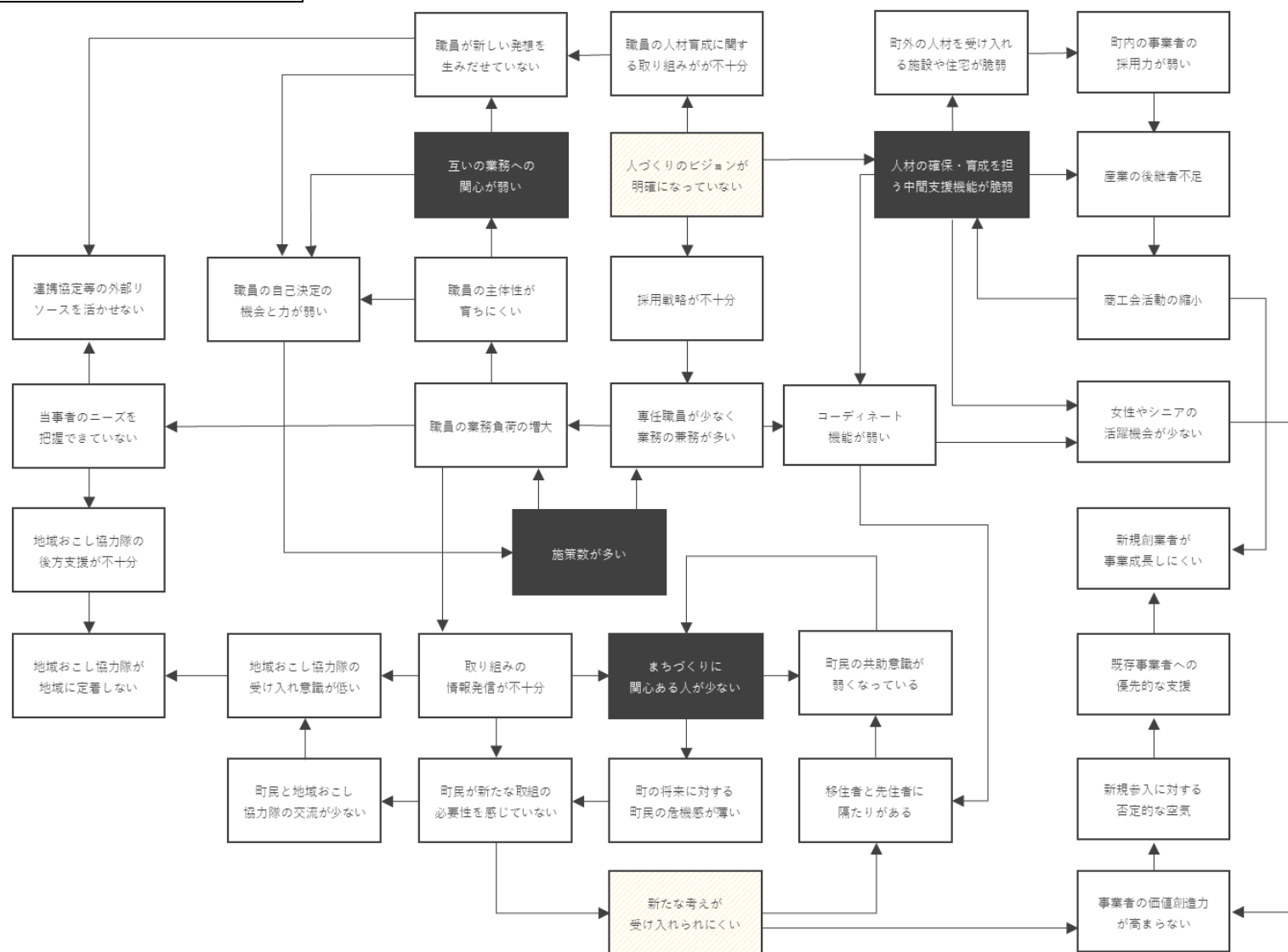
移動手段や施設のアクセス制約により、子どもの居場所や活動の選択肢が限定されています。指導者不足や不登校支援の課題に加え、大人側の学ぶ機会の不足が地域全体の人づくりに対する視座の共有を妨げています。これらの要因が重なり、子どもの自己決定の機会や地域への愛着形成が阻害される構造となっています。

3-3. 歴史と文化の継承・スポーツの振興



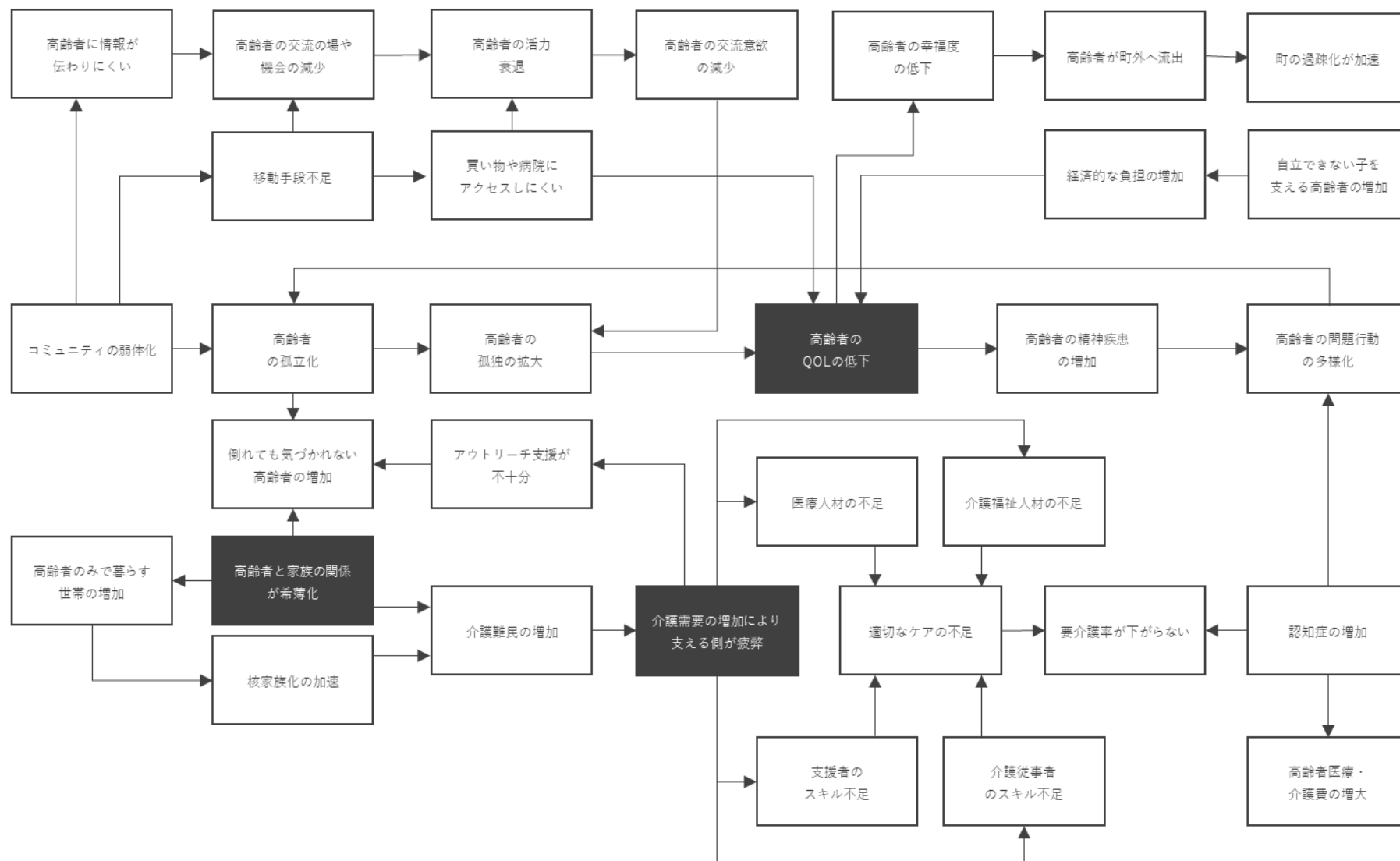
担い手の減少や施設の老朽化により、多世代交流や自己表現の場が縮小しています。活動継続に伴う保護者等の負担増が参加の障壁となり、地域の伝統文化や活気が次世代へ継承されにくい環境にあります。地域資源を価値に変換する仕組みの不足が、住民の誇りやスポーツ、地域への関心低下につながる要因となっています。

3-4. 官民学連携による人材の確保・育成



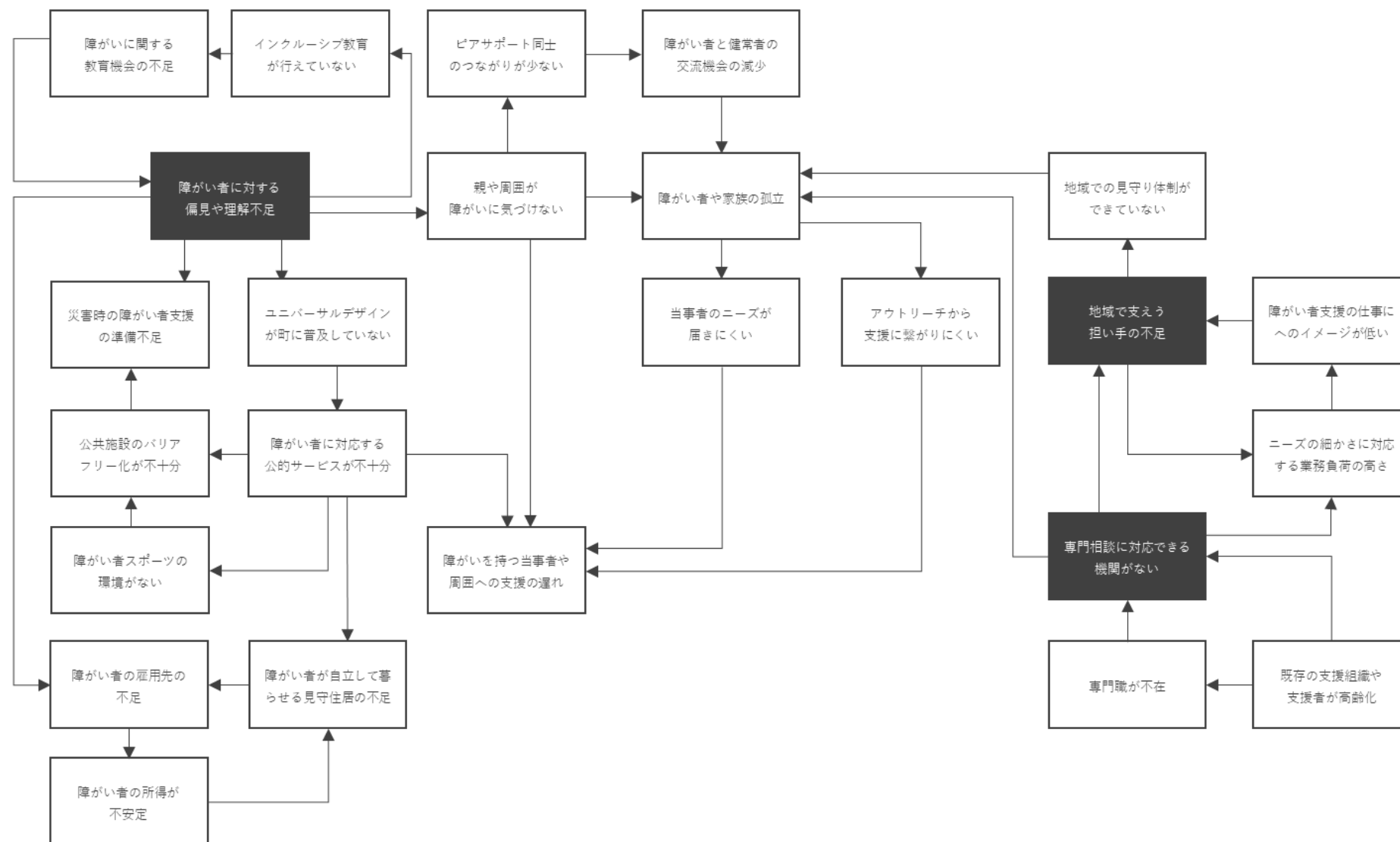
行政側の多忙や人づくりビジョンの未共有が、外部人材の受け入れ体制の脆弱さを招いています。住居不足や地域との交流機会の欠如により、志を持つ人材が定着しにくい構造にあります。変化に対する慎重な姿勢が新規参入の障壁となり、多様な人材が刺激し合いながら地域を活性化させる循環が停滞している状況です。

3-5. 高齢者福祉・介護の充実



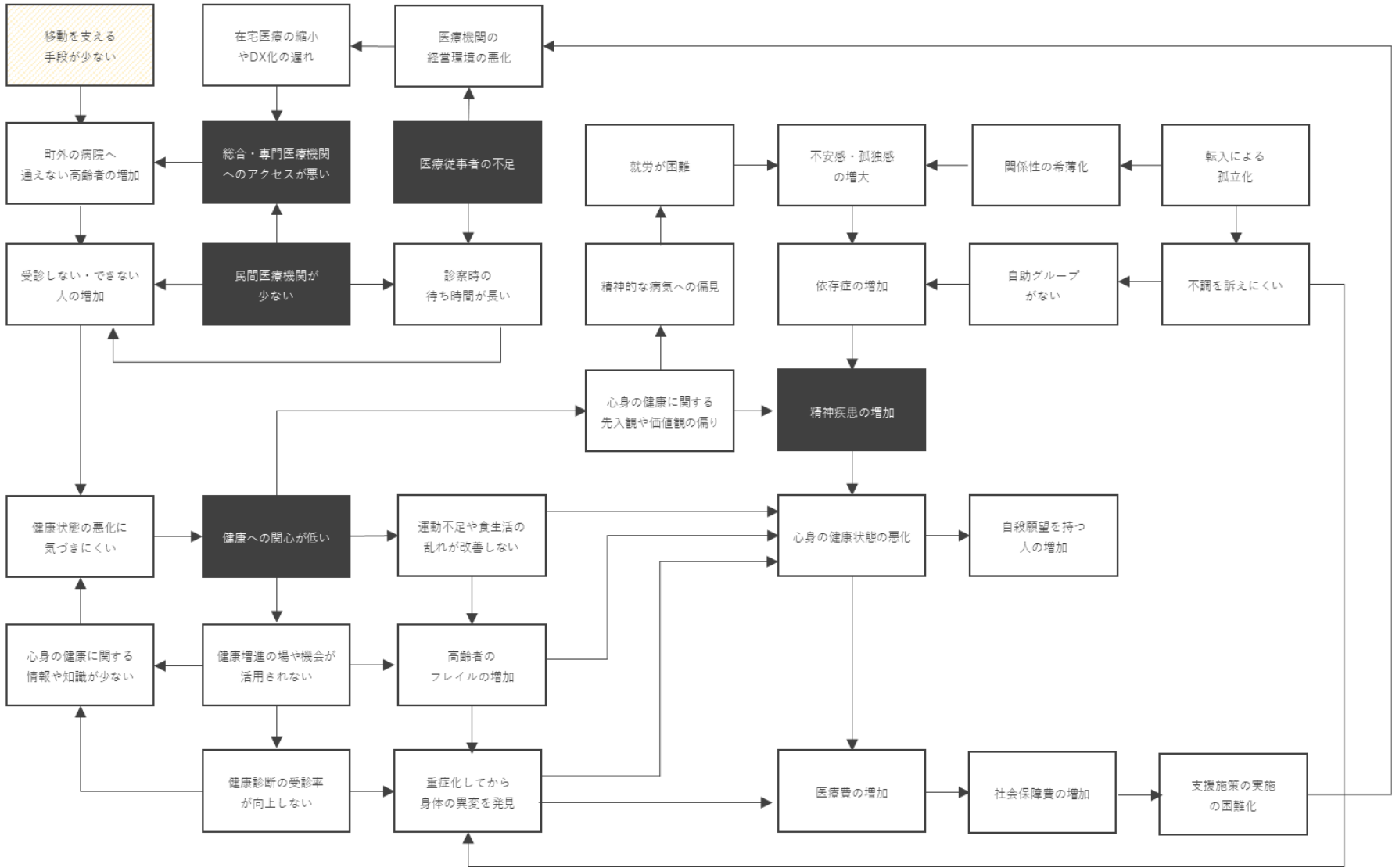
高齢化と核家族化の進行に対し、介護人材の不足と家族の介護負担増が深刻な課題となっています。移動手段の制約や地域コミュニティの希薄化は、高齢者の孤立や心身の機能低下を加速させる要因です。適切な支援が届きにくい構造が、認知症の増加や住民の将来不安、ひいては医療・介護需要のさらなる増大を招いています。

3-6. 社会福祉・障がい福祉の充実



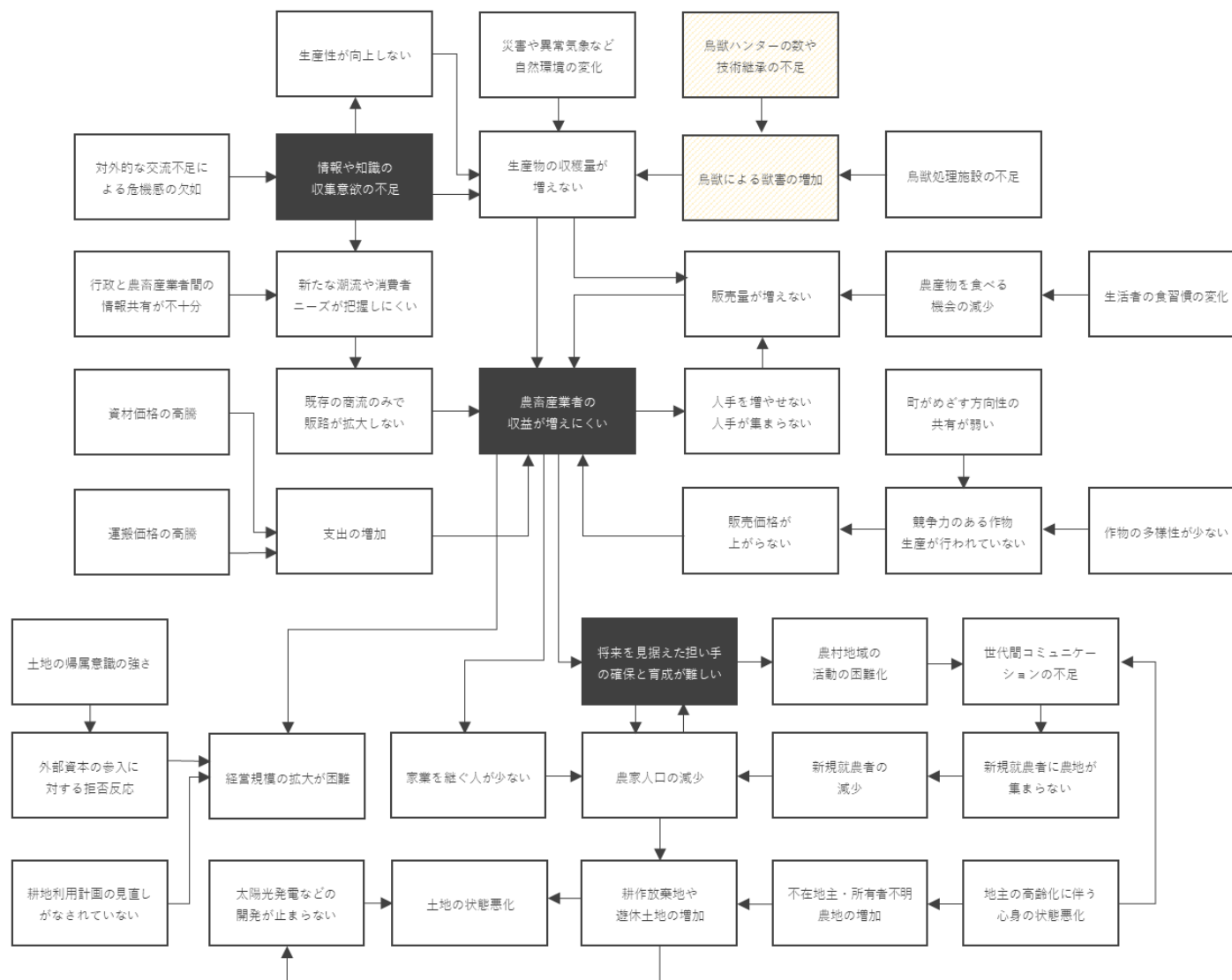
障がいや特性に対する理解不足が、教育や就労、住居確保の選択肢を狭める構造となっています。専門人材の不足やバリアフリー化の遅れに加え、当事者や家族が周囲に助けを求めにくい状況が孤立を深めています。制度の隙間に落ちるニーズに対応する仕組みが不十分であり、誰もが社会に参画できる環境が整いにくい状況です。

3-7. 保健・医療の充実



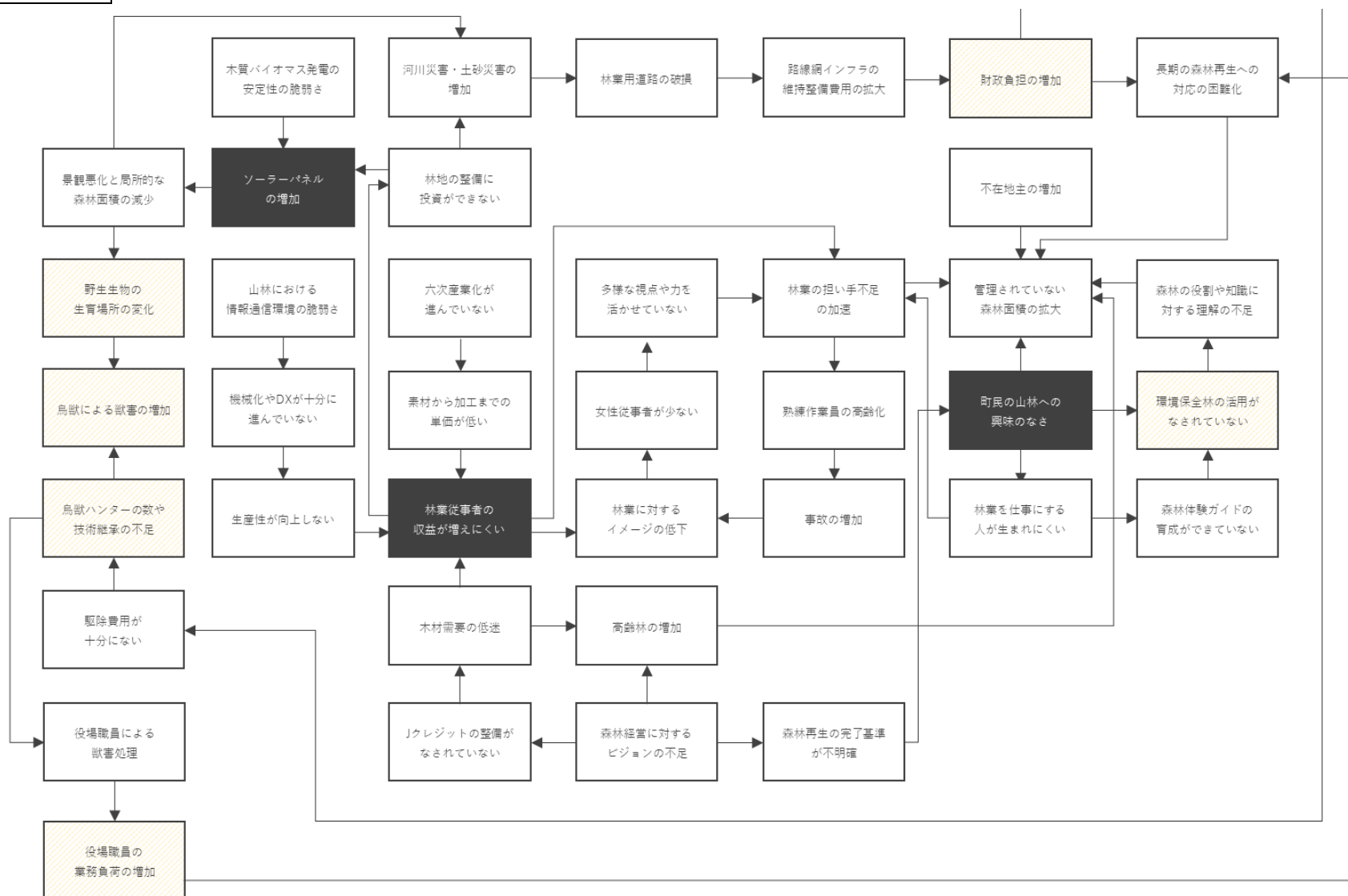
医療従事者の不足と、交通手段の制約による受診のハードルが、早期発見や適切な治療を妨げる要因となっています。住民の健康意識が向上しにくい背景には、運動や食生活などの生活環境の課題があります。心身の不調を相談できる場の不足が、生活習慣病の重症化や将来的な医療費増大を招く構造的な課題となっています。

3-8. 農畜産業の振興



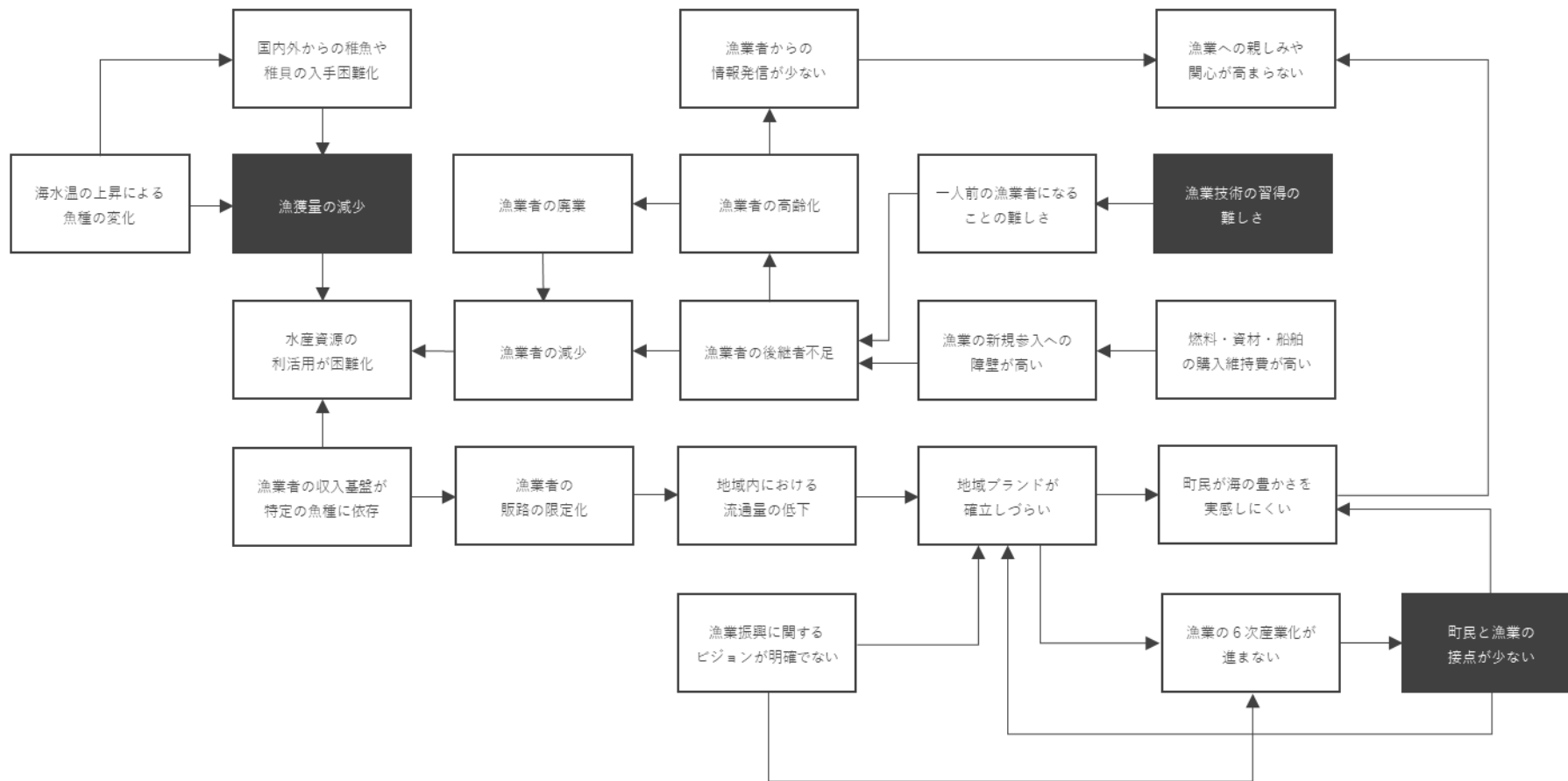
資材高騰や市場価格の停滞が経営を圧迫し、収益性の低下が後継者不足を加速させています。既存の枠組みに固執する傾向が、新たなニーズへの対応や情報発信の遅れを招いています。鳥獣被害や気候変動への対応コストも重なり、次世代が農業に魅力を感じにくい、持続的な経営継続が困難な環境にあります。

3-9. 林業の振興



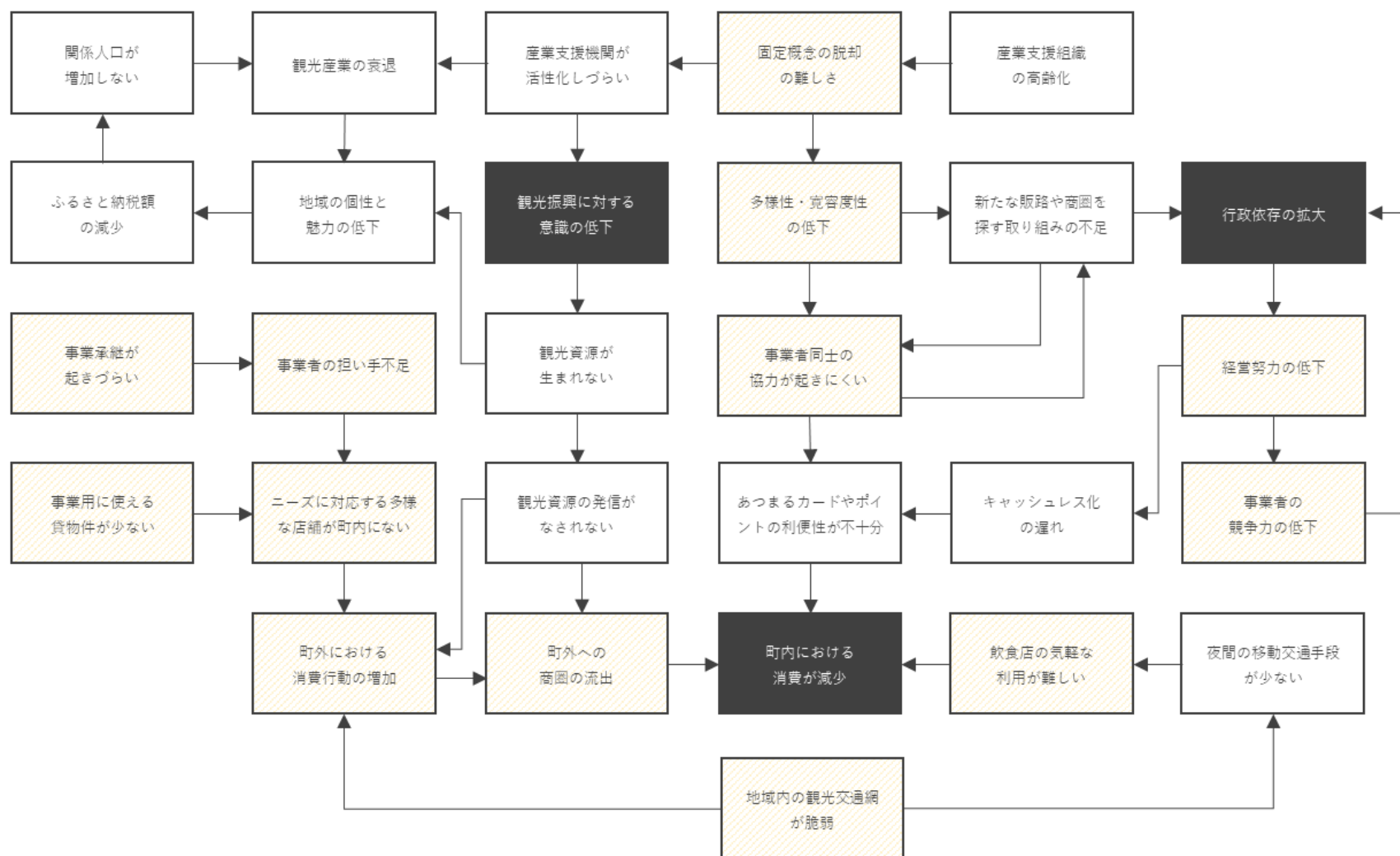
木材価格の低迷と需要不足により、森林管理の採算性が低下しています。担い手の不足や不在地主の増加が、未整備な森林を増やし、災害リスクや鳥獣被害を拡大させる要因となっています。デジタル化の遅れや労働環境の厳しさが若者の参入を阻み、森林資源を価値化して地域へ還元する循環が機能しにくい構造にあります。

3-10. 水産業の振興



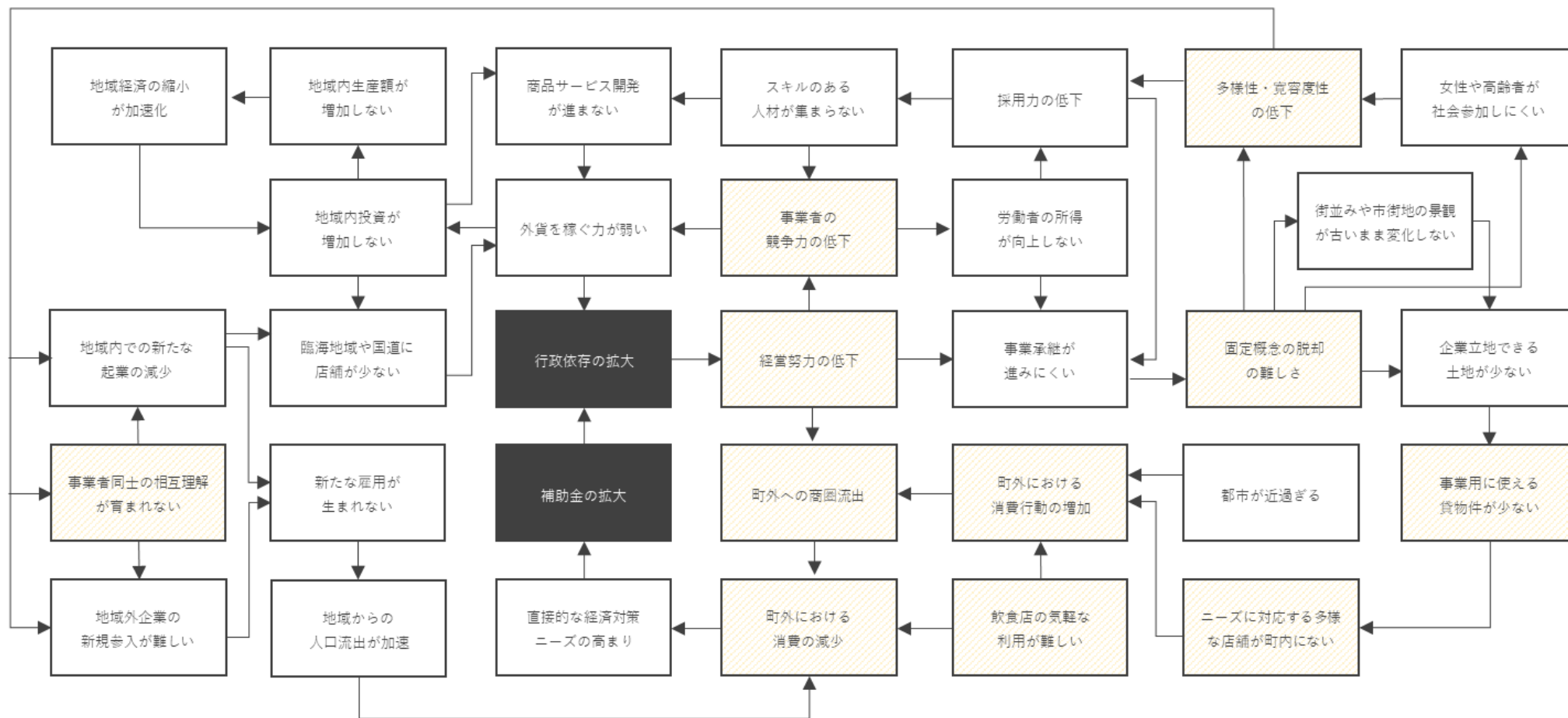
海洋環境の変化による漁獲変動と、燃料高騰等のコスト増が漁業経営を圧迫しています。初期投資の大きさや将来への不透明感が新規参入を妨げ、後継者不足と廃業の連鎖を招いています。地域ブランド化や付加価値向上の停滞に加え、町民との接点が減少していることが、産業への関心や理解の低下に繋がっている状況です。

3-11. 商工業・観光の振興



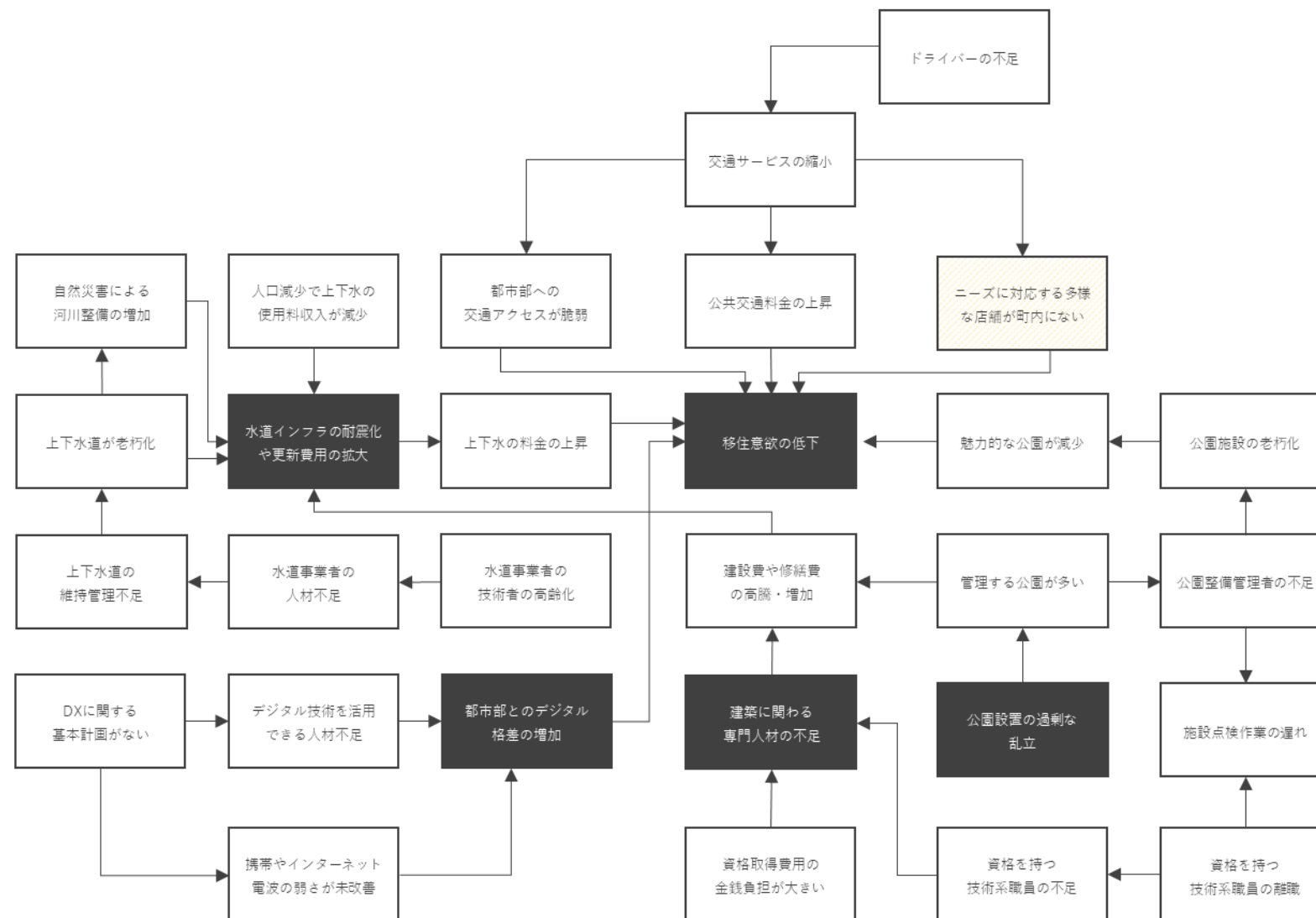
町内の魅力的な店舗や物件の不足が消費の町外流出を招き、地域経済の活力を低下させています。事業者の高齢化と、変化への慎重な姿勢が重なり、競争力の維持が困難な構造にあります。観光資源の活用や情報発信が限定的であるため、関係人口の創出や外貨獲得に繋がらず、商圏が縮小し続ける要因となっています。

3-12. 地域経済の活性化



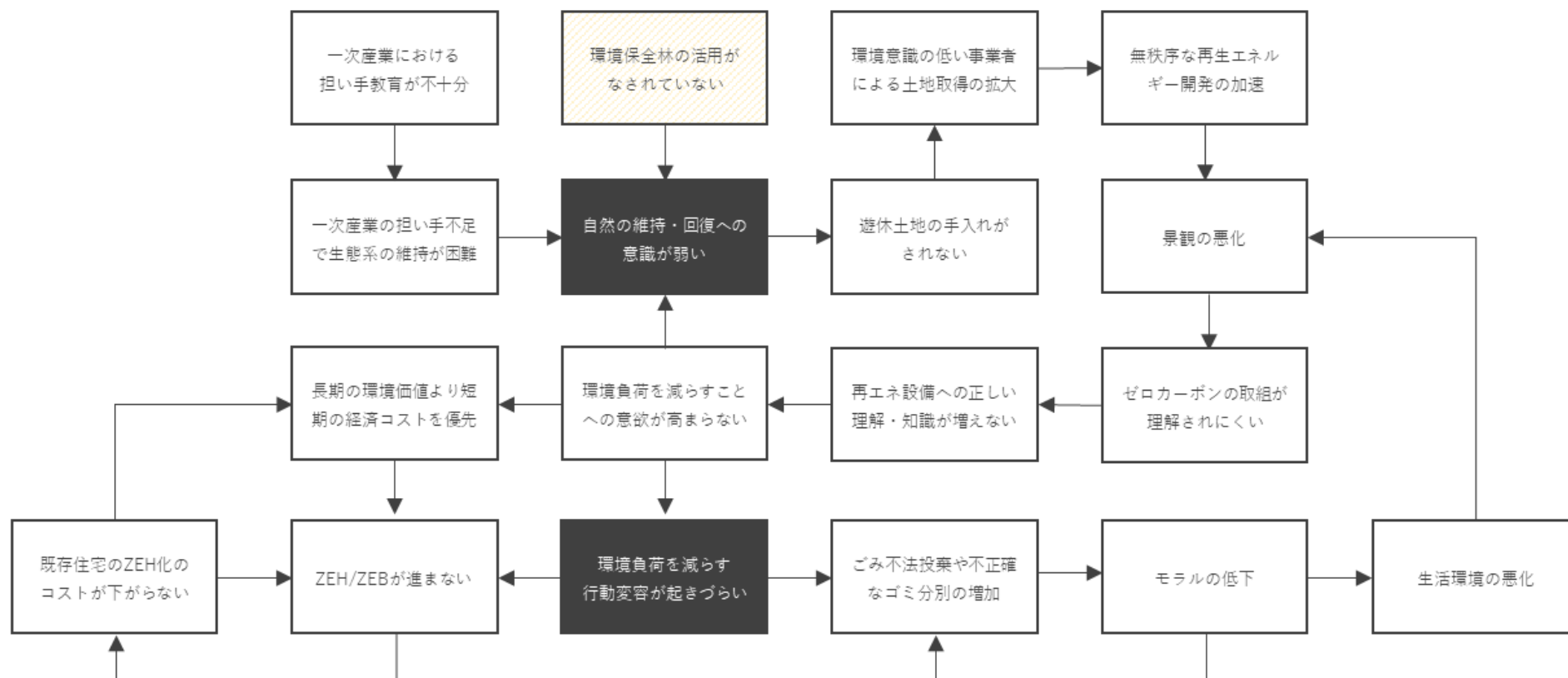
行政の支援策への期待が高まる一方で、自立的な経営基盤や事業者間の連携が育ちにくい構造にあります。町外への消費流出が常態化し、地域内で付加価値が循環しないことが、新たな雇用創出を妨げています。多様な人材や新たな発想を受け入れる土壌の不足が、経済的な再生産を阻む大きなボトルネックとなっています。

3-13. 都市機能の最適化



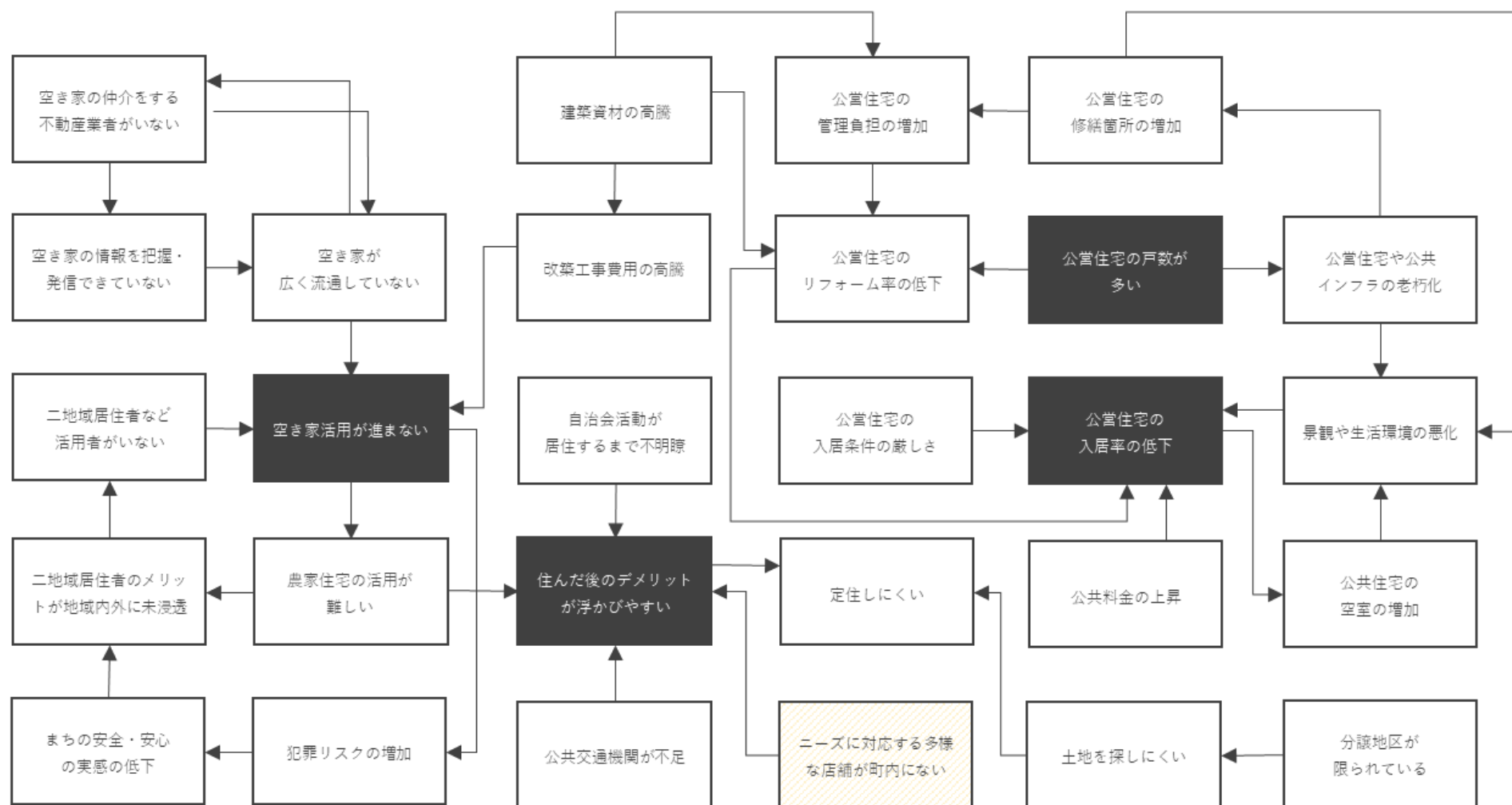
インフラの老朽化に対し、人口減少に伴う財源不足と専門技術職員の不足が維持管理を困難にしています。移動手段の制約や利便性の低下が住民の満足度や移住意欲を下げる要因となっています。デジタル化の遅れが業務効率化を阻み、限られた人員で住民ニーズに対応する行政サービスの維持が限界を迎えつつある状況です。

3-14. 人と自然にやさしい循環社会づくり



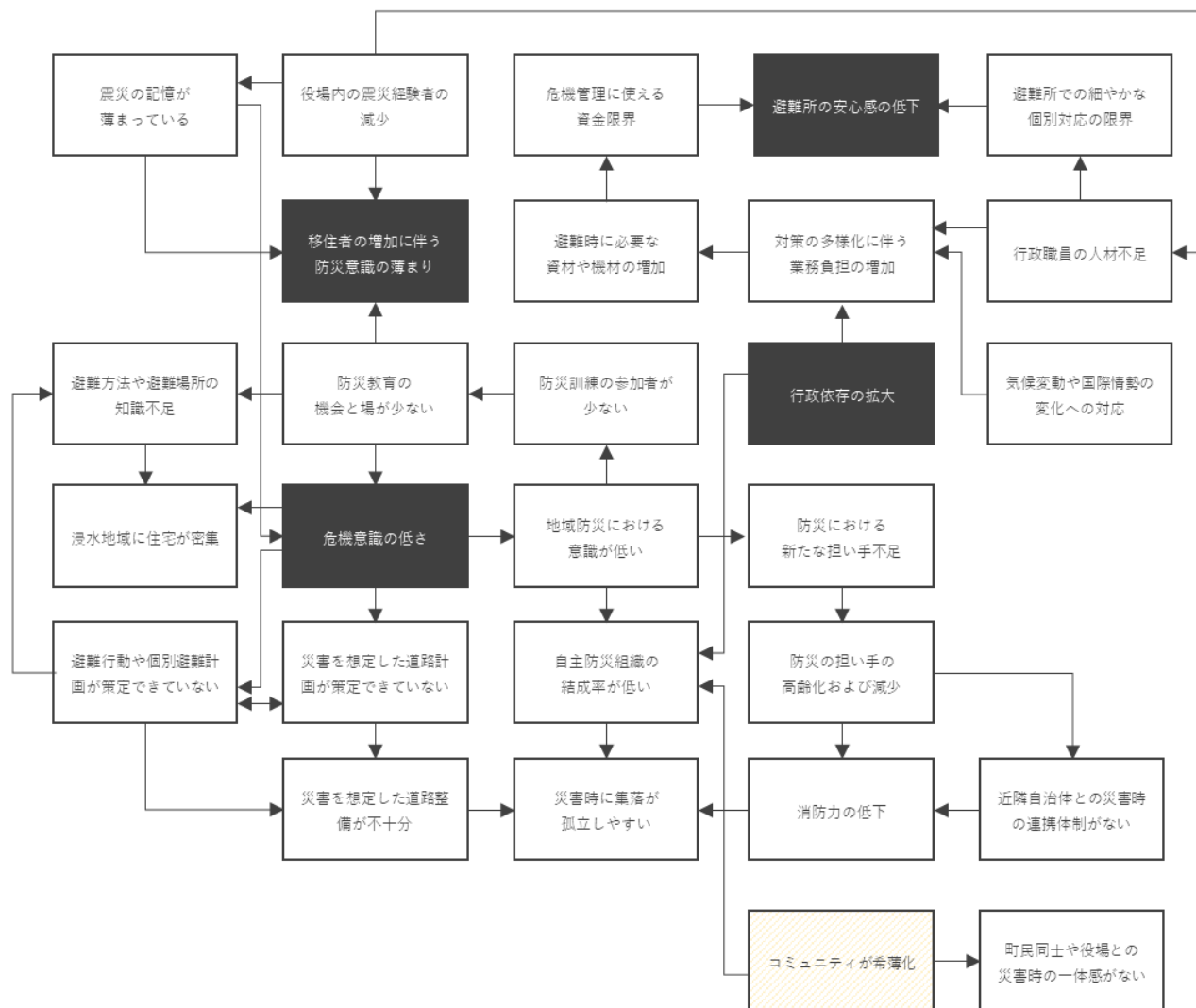
住民や事業者の環境意識の維持が難しく、景観悪化やゴミの不法投棄といった課題が発生しています。コスト優先の価値観が、環境負担を低減する新たな技術導入を遅らせる要因となっています。自然資本の維持管理を担う一次産業の衰退や不在地主の増加が、生態系のバランスや豊かな自然環境の損なう構造にあります。

3-15. 住まい方の充実・定住促進



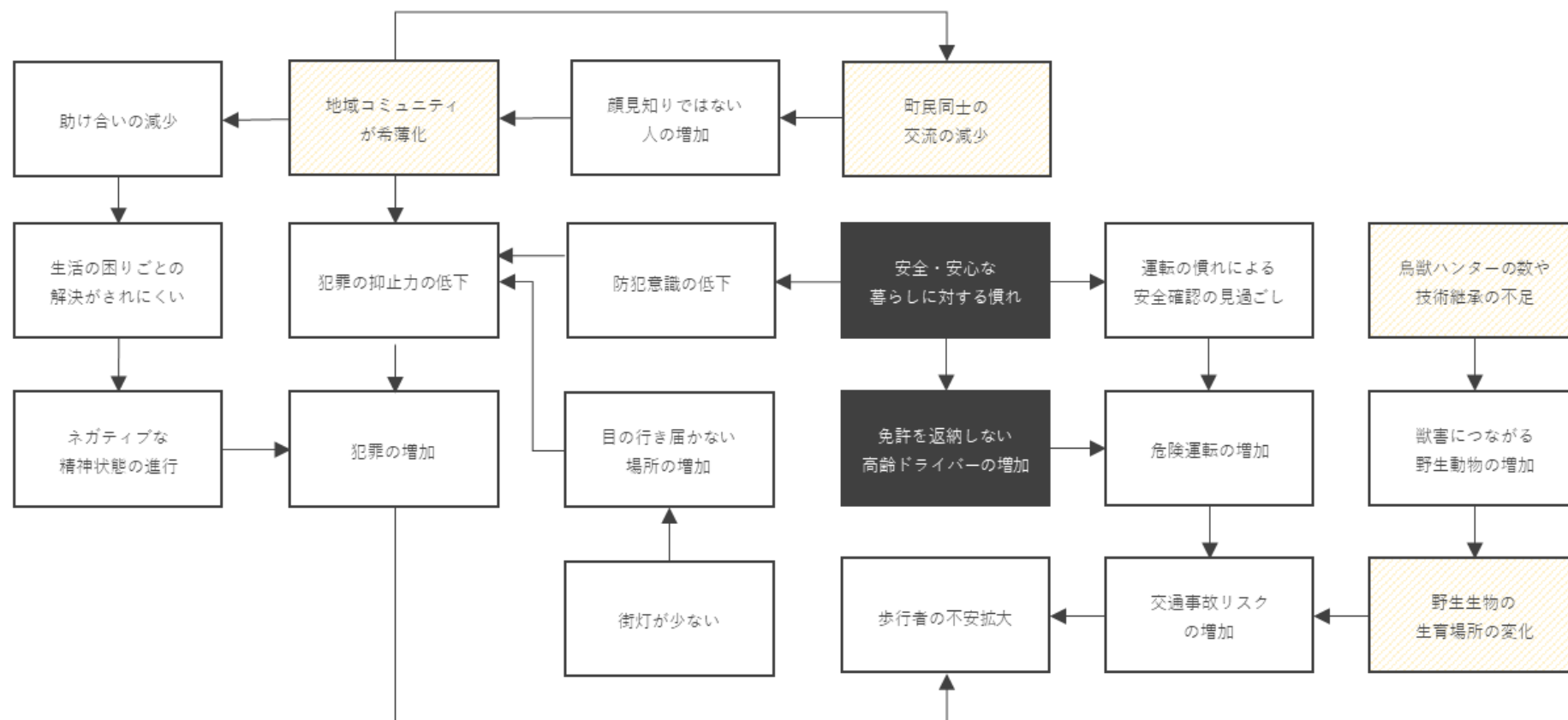
空き家の未流通や不動産業者の不在により、移住希望者や若者の住宅ニーズに応えられないミスマッチが生じています。公営住宅の老朽化や入居条件の厳しさが利用を妨げ、住環境の魅力低下を招いています。建築資材の高騰や生活利便性の課題が重なり、定住や多拠点居住を選ぶ上での構造的な障壁となっています。

3-16. 防災・危機管理能力の強化



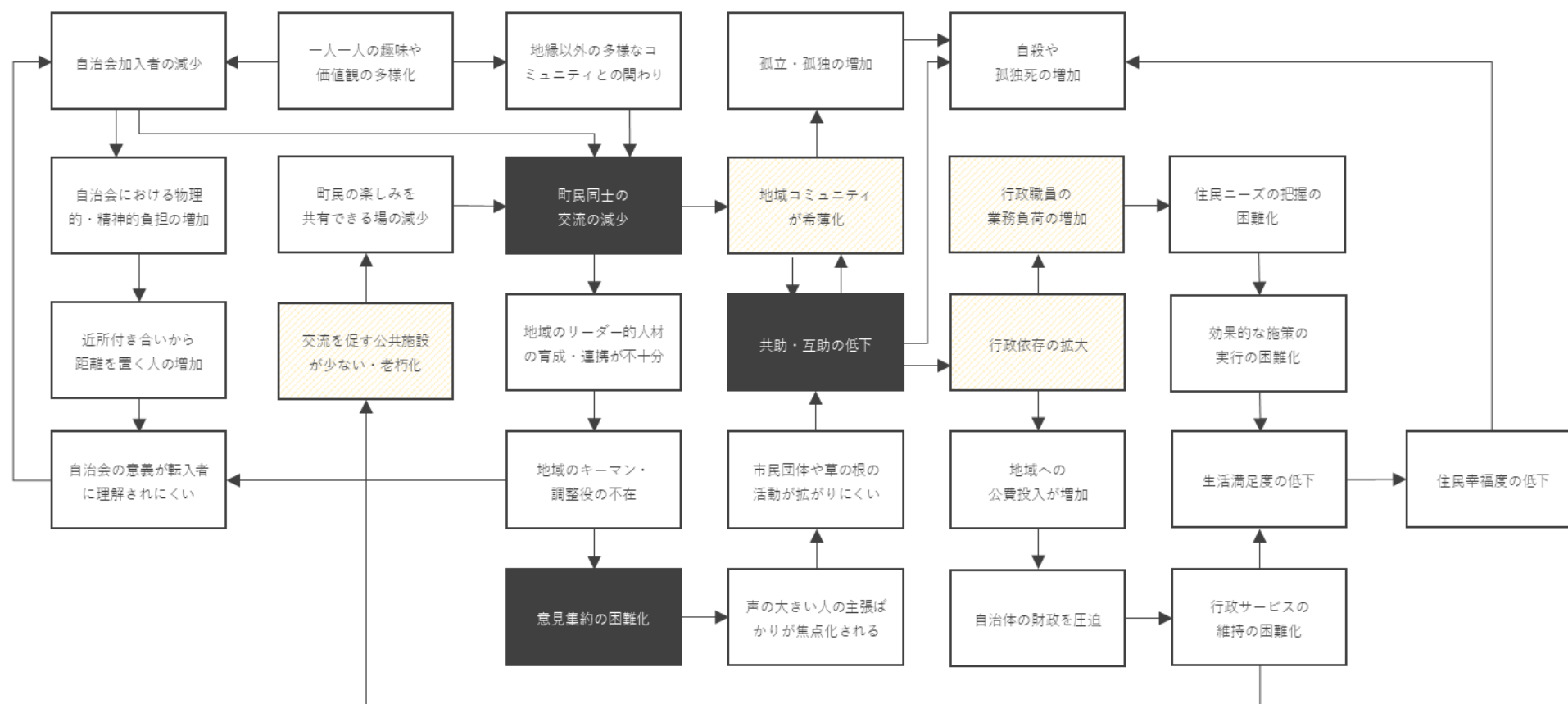
震災の記憶の風化に伴い、自助・共助の意識や地域組織の活動が減退する傾向にあります。高齢化による担い手不足が、要配慮者への対応や避難所の運営能力を低下させています。行政職員の不足や資金的制約も重なり、複雑化する災害リスクに対して、地域と行政が一体となって備える体制が脆弱化している状況です。

3-17. 安心・安全なまちづくり



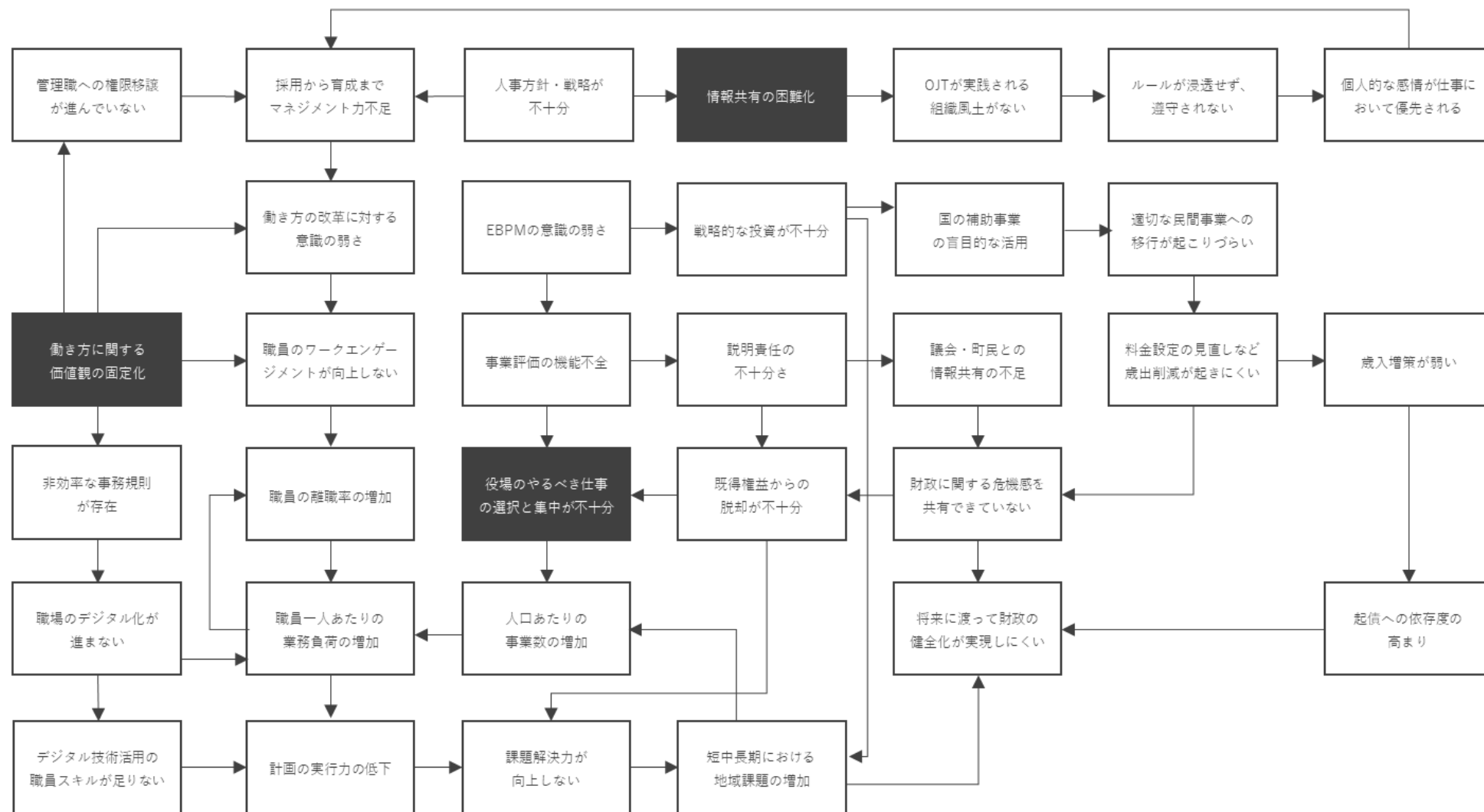
高齢ドライバーの増加や注意力の低下により、交通事故リスクが高まっています。防犯意識の低下や街灯不足に加え、地域コミュニティの希薄化が周囲の目の行き届かない場所を増やしています。鳥獣被害の深刻化も相まって、生活圏の安全が脅かされる一方で、住民同士の助け合いによる防犯・事故防止機能が弱まっています。

3-18. 住民主体のまちづくり



公的な支援への期待が定着する中で、自発的な解決を目指す共助・互助の精神が低下しています。自治会役員の負担増や意義の形骸化により加入者が減少し、地域の合意形成やリーダー育成が困難な構造にあります。個人の価値観の多様化と地縁組織の乖離が進み、孤立のリスクが高まる一方で、新たな協力体制が育ちにくい状況です。

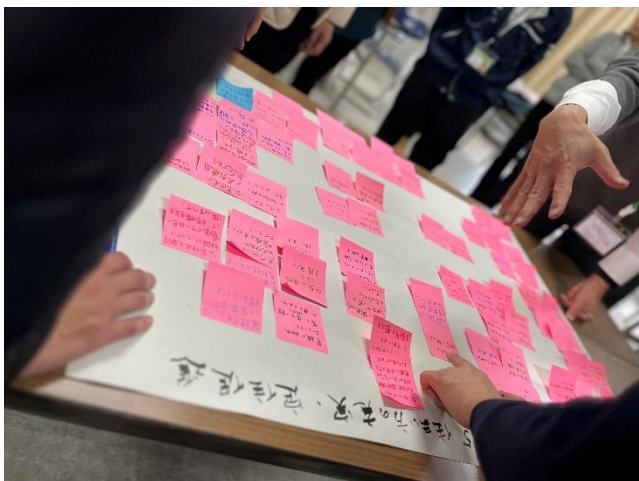
3-19. 住民主体のまちづくり



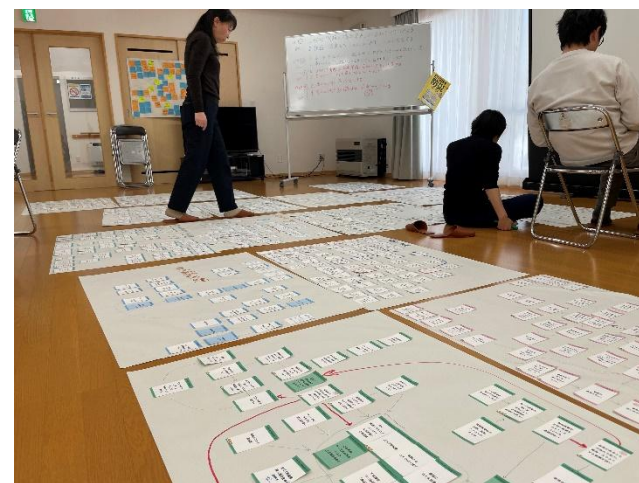
前例踏襲の重視や組織の縦割りにより、データに基づいた戦略的な投資が不十分な状況にあります。職員の多忙化とマネジメント層の不足が組織の課題解決力を低下させ、デジタル化や働き方改革の遅れを招いています。収支構造の硬直化が進む中で、将来にわたる持続可能な運営体制を確立するための余力が奪われている構造です。

Section 4 作業風景

庁内課題構造整理（令和6年1月8日～23日）



令和6年度第3回厚真町総合計画策定プロジェクトチーム会議（令和7年2月6日）



資料２ 町民ワークショップ

Section 1 あつま課題発掘会議～ 中高生が拓くまちづくり編～

1－1 概 要

第一回目に実施した「あつま課題発掘会議～ 中高生が拓くまちづくり編～」では、事前に2つのテーマで、町内の中学校・高校に通う中高生が、町内の大人に対してインタビューを実施していただきました。「高齢者福祉と介護の課題を知る」ことを目的にしたインタビューでは高齢者が集う町内イベントに参加し、お話を伺いました。また、「教育や学びの課題を知る」ことを目的としたインタビューは、「同世代」「親世代」「祖父母世代」の異なる三世代の町民から幅広い意見を集められるようにインタビューを実施していただきました。

1－2 ヒアリングシート

1－2－1 ヒアリングシート①「施策：教育・多様な学びの充実」

中学生・高校生のお名前		話を聞いた人の年代に○→	同世代	親世代	祖父母世代	教育・多様な学びの充実
① あなたは、町内には「何歳でも学びたいことを学べる機会がある」と思いますか？						その番号を選んだ理由は「なぜ」ですか？
5 4 3 2 1						
<small>非常にあってはまる→5、ある程度あってはまる→4、どちらとも言えない→3、あまりあてはまらない→2、全くあてはまらない→1</small>						
② あなたは、町内には「学校以外の学びの施設が充実している」と思いますか？						その番号を選んだ理由は「なぜ」ですか？
5 4 3 2 1						
<small>非常にあってはまる→5、ある程度あってはまる→4、どちらとも言えない→3、あまりあてはまらない→2、全くあてはまらない→1</small>						
③ あなたは、町内には「地域の文化や芸術に触れる機会が充実している」と思いますか？						その番号を選んだ理由は「なぜ」ですか？
5 4 3 2 1						
<small>非常にあってはまる→5、ある程度あってはまる→4、どちらとも言えない→3、あまりあてはまらない→2、全くあてはまらない→1</small>						
④ あなたは、町内には「こどもの放課後の学びが充実している」と思いますか？						その番号を選んだ理由は「なぜ」ですか？
5 4 3 2 1						
<small>非常にあってはまる→5、ある程度あってはまる→4、どちらとも言えない→3、あまりあてはまらない→2、全くあてはまらない→1</small>						

⑤ 現在、あなたはどの程度幸せですか？「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになりますか。いずれかの数字を1つだけお答えください。					⑧ 「自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいる」と思いますか
10 9 8 7 6 5 4 3 2 1					5 4 3 2 1
<small>とても幸せ→10～とても不幸→0</small>					<small>非常にあってはまる→5、ある程度あってはまる→4、どちらとも言えない→3、あまりあてはまらない→2、全くあてはまらない→1</small>
⑥ 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点とすると、何点くらいになりますか。いずれかの数字を1つだけお答えください。					■ どうしてそう感じているか？など、気になって聞いてみたことのメモ欄
10 9 8 7 6 5 4 3 2 1					
<small>とても幸せ→10～とても不幸→0</small>					
⑦ あなたの町内の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、いずれかの数字を1つだけお答えください。ここでは自分の同居家族は除いて考えてください。					
10 9 8 7 6 5 4 3 2 1					
<small>とても幸せ→10～とても不幸→0</small>					

1-2-1 ヒアリングシート②「施策：福祉・介護の充実」

中学生・高校生のお名前

対象を○をつける→

1人目 | 2人目 | 3人目

福祉・介護の充実

① 厚真町は「介護・福祉施設のサービスが受けやすい」と思いますか？

その番号を選んだ理由は「なぜ」ですか？

5 4 3 2 1

※常に○はまる→5、ある程度○はまる→4、どちらとも言えない→3、あまり○はまるない→2、全く○はまるない→1

② 厚真町は「医療を受けやすい環境が整っている」と思いますか？

その番号を選んだ理由は「なぜ」ですか？

5 4 3 2 1

※常に○はまる→5、ある程度○はまる→4、どちらとも言えない→3、あまり○はまるない→2、全く○はまるない→1

③ 厚真町は「生きがいにつながる機会が充実している」と思いますか？

その番号を選んだ理由は「なぜ」ですか？

5 4 3 2 1

※常に○はまる→5、ある程度○はまる→4、どちらとも言えない→3、あまり○はまるない→2、全く○はまるない→1

④ 厚真町は「健康不安の解決につながる機会が充実している」と思いますか？

その番号を選んだ理由は「なぜ」ですか？

5 4 3 2 1

※常に○はまる→5、ある程度○はまる→4、どちらとも言えない→3、あまり○はまるない→2、全く○はまるない→1

⑤ 現在、あなたはどの程度幸せですか？「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになりますか。いずれかの数字を1つだけお答えください。

10 9 8 7 6
5 4 3 2 1

とても幸せ=10→とても不幸=0

⑥ 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点とすると、何点くらいになりますか。いずれかの数字を1つだけお答えください。

10 9 8 7 6
5 4 3 2 1

とても幸せ=10→とても不幸=0

⑦ 今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになりますか。いずれかの数字を1つだけお答えください。

10 9 8 7 6
5 4 3 2 1

とても幸せ=10→とても不幸=0

⑧ あなたの町内の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、いずれかの数字を1つだけお答えください。ここでは自分の同居家族は除いて考えてください。

10 9 8 7 6
5 4 3 2 1

とても幸せ=10→とても不幸=0

⑨ 「自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいる」と思いますか

5 4 3 2 1

※常に○はまる→5、ある程度○はまる→4、どちらとも言えない→3、あまり○はまるない→2、全く○はまるない→1

■ どうしてそう感じているか？など、気になって聞いてみたことのメモ欄

上記のヒアリングシートをもとに、中高生を対象とした対面でのワークショップを開催し、「教育・多様な学びの充実」「福祉・介護の充実」の2つのテーマで町民の抱える課題や願いの可視化に取り組みました。

1-3 ワークショップ風景



Section 2 あつま課題発掘会議～ まちづくりを担う人材編～

1-1 概要

第二回目のワークショップは、「まちづくりを担う人材」について一般町民、元または現役の地域おこし協力隊、まちづくり団体や事業者、地域おこし企業人を対象に、全戸配布される広報誌にチラシを挟み込み、一般公募を実施しました。

1-2 ワークショップ風景



Section 3 あつま課題発掘ワークショップ～ 女性とキャリア編～

1-1 概要

第三回目のワークショップは、「女性とキャリア」をテーマに開催しました。起業経験のある女性、将来起業を考えている女性、キャリアアップを目指す女性を対象に、全戸配布される広報誌にチラシを挟み込み、一般公募を実施しました。

1-2 ワークショップ風景



資料3 住民アンケート

Section1 アンケート概要

■ 1-1 調査の方法

- ・調査対象区域：全町
- ・調査対象数： 1,000 人（15 才以上の町内在住者から無作為に抽出）
- ・回収方法： 返信郵便による回収、及び WEB 回答
- ・実施期間： 令和 6 年 11 月 20 日～令和 6 年 12 月 16 日

■ 1-2 回収状況

- ・返信郵便返信 243 人、WEB 回答 161 人 計 404 人（回収率 40.4%）

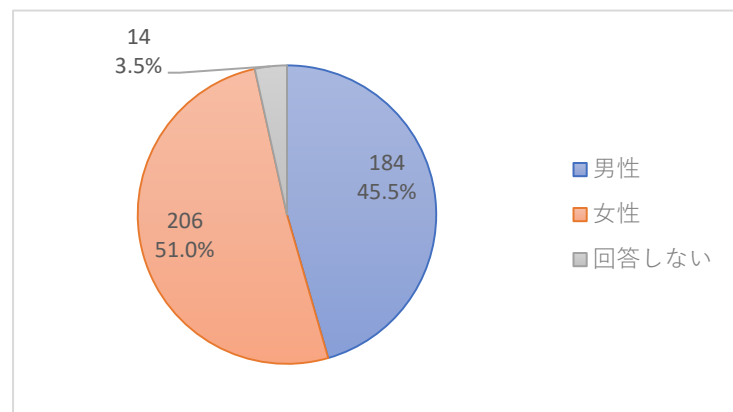
■ 1-3 地区の区分

- ・厚真地区：⁶朝日、⁷本郷、⁹京町、¹⁰表町、¹¹錦町、¹²本町、¹³新町、¹⁶豊沢（約 49%）
- ・上厚真地区：²¹上厚真（約 20%）
- ・その他：上記以外の地区（約 30%）
- ・未回答：（約 1%）※地区集計では除外

Section2 アンケート結果

■ 2-1 性別

男性が 45.5%、女性が 51.0%、その他が 3.5%となりました。

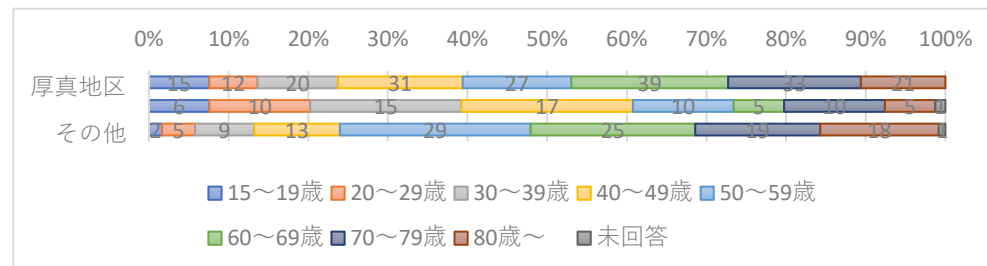
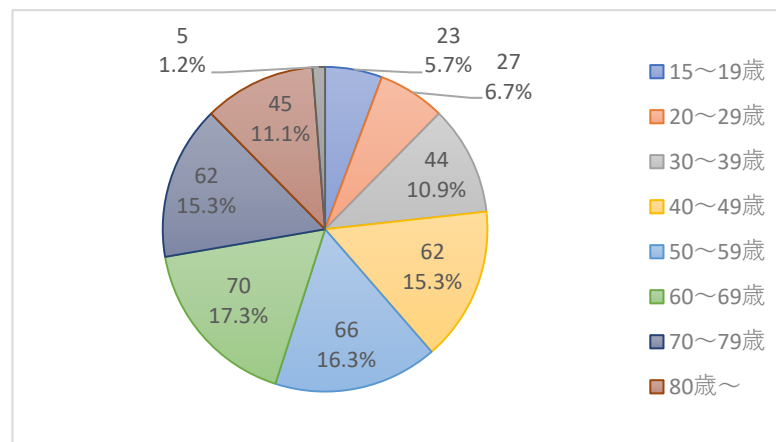


■ 2-2 年齢

60～69 歳が一番多く 17.3%であり、60 歳以上が 44.7%となりました。

15～19 歳、20～29 歳以外は 10%を超えており、各年齢別に万遍なく回答いただけています。

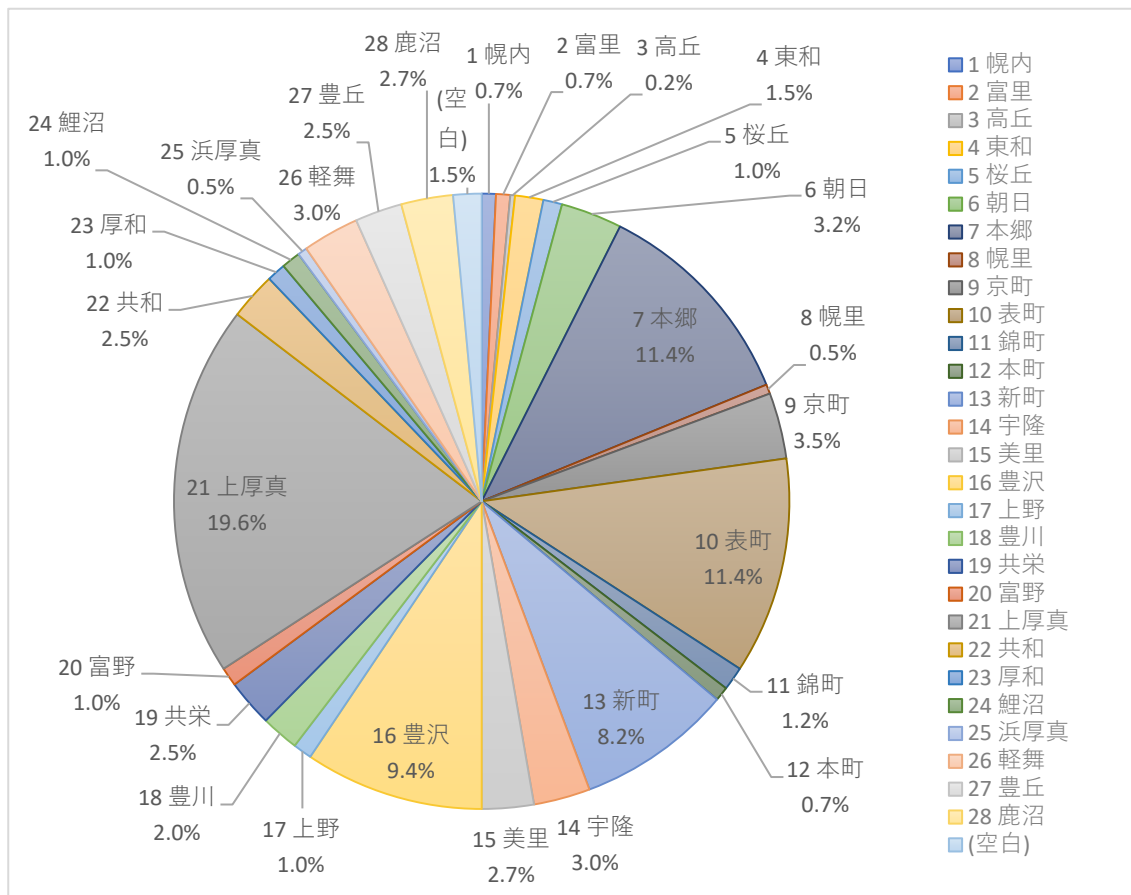
地区別では、上厚真地区の年齢比率がかなり若く、49 歳以下で約 6 割に達しています。



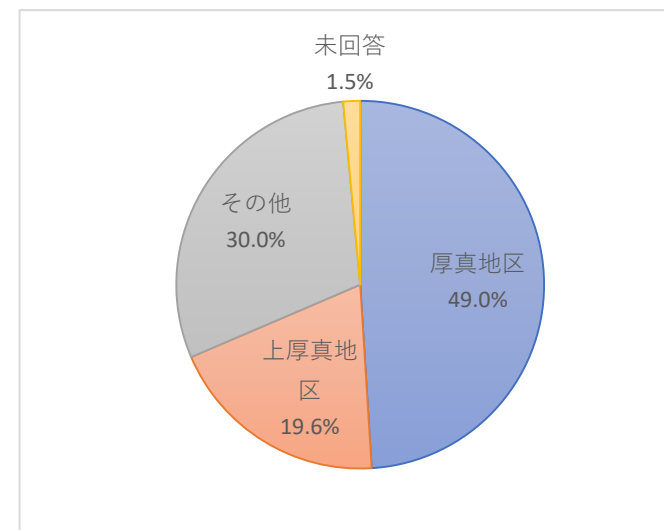
■ 居住地域

居住地域は上厚真が19.6%で最も多く、表町と本郷が11.4%、豊沢が9.4%、新町が8.2%となっています。

地区別では、厚真地区が約5割、上厚真地区が約2割、其他地区が約3割となっています。



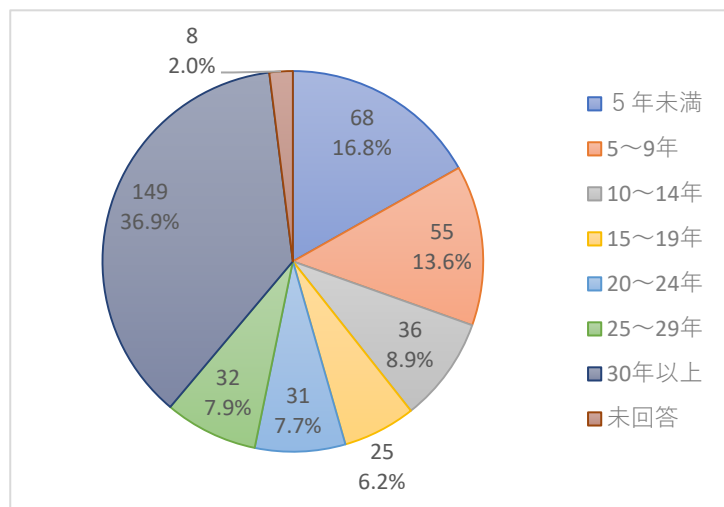
地区別の割合



厚真地区：6 朝日、7 本郷、9 京町、10 表町、
11 錦町、12 本町、13 新町、16 豊沢
上厚真地区：21 上厚真

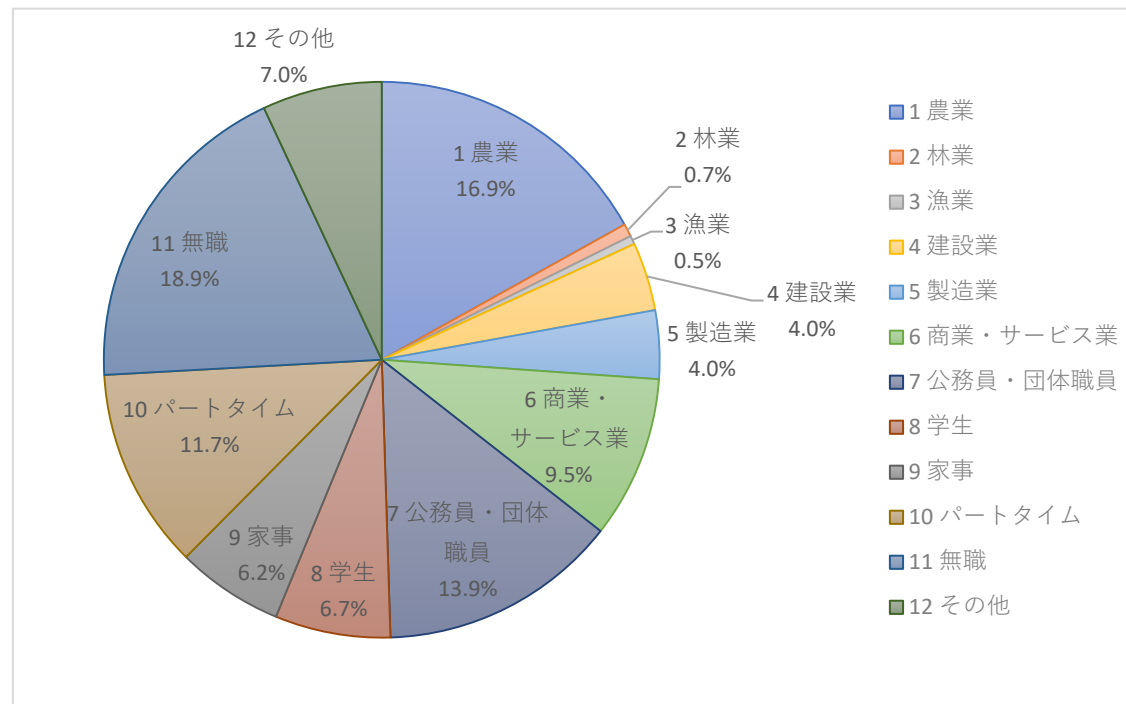
■ 居住年数

居住年数は 30 年が 36.9%で最も多く、次に 5 年未満が 16.8%、5～9 年が 13.6%となっています。



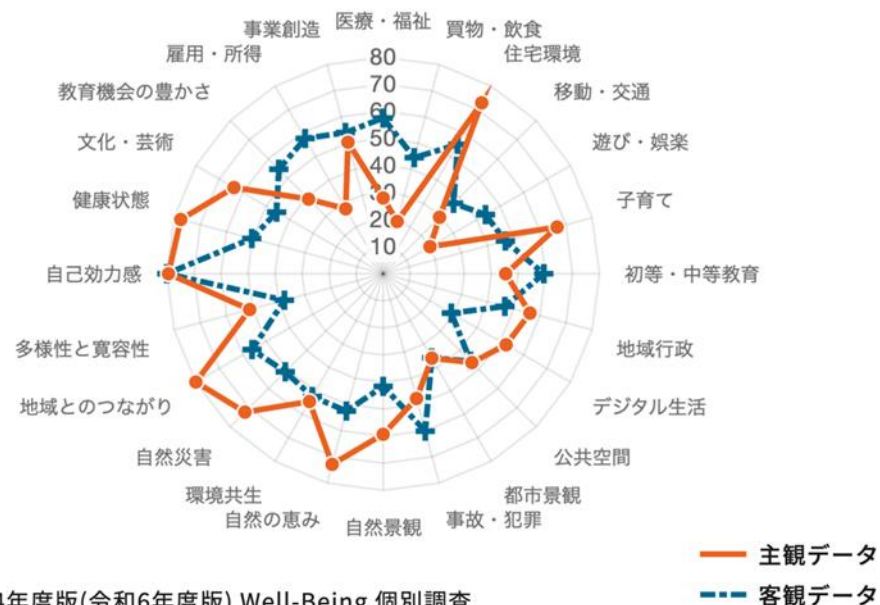
■ 職業

居住年数は 30 年が 36.9%で最も多く、次に 5 年未満が 16.8%、5～9 年が 13.6%となっています。職業別では、無職が 18.9%で最も多く、次に農業 16.9%、公務員・団体職員が 13.9%となっています。



Section 3 地域幸福度を軸とした厚真町の特徴

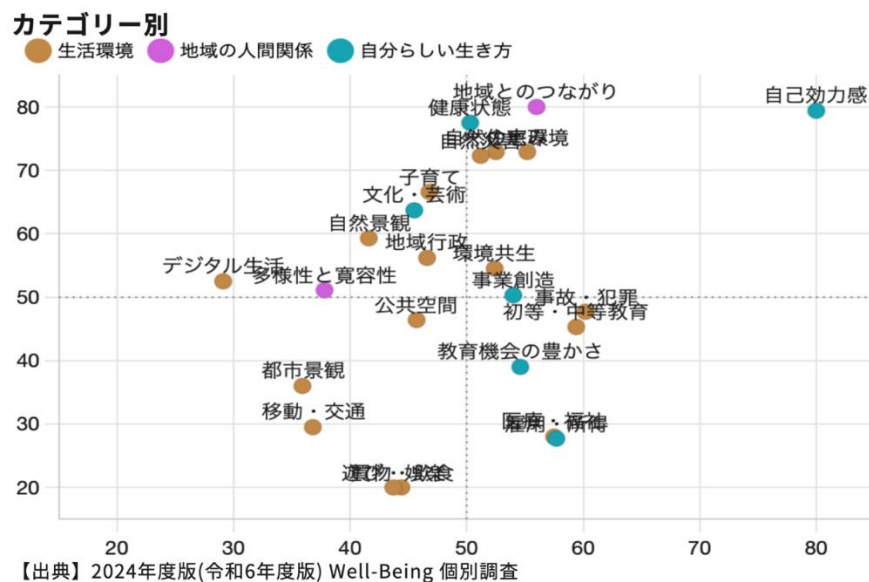
カテゴリー別



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

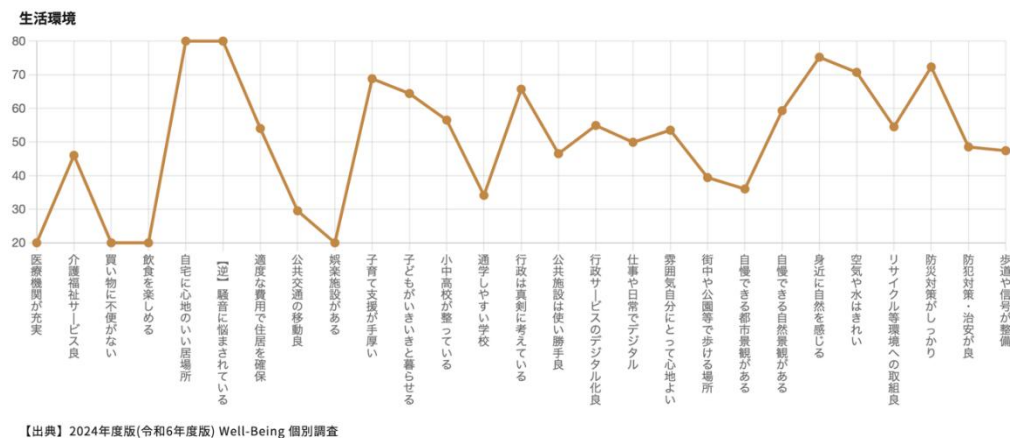
厚真町は、「医療福祉」「買物・飲食」「移動交通」「遊び・娯楽」「雇用・所得」の主観データが客観データに比べて低いことがわかります。例えば「買物・飲食」に関する客観データは、「商業施設徒歩圏人口カバー率」「商業施設徒歩圏平均人口密度」「可住地面積あたりの飲食店」「人口あたり飲食店数」について、国や地方公共団体が保有するデータをもとに算出しています。

客観データの偏差値は40を越えている一方で、主観は20であり低いことから、町民は、「日常の買物に不便があり、飲食を楽しめる場所が充実していないと感じていること」が推測できる。逆に「住宅環境」「子育て」「自然の恵み」「地域とのつながり」「健康状態」「文化・芸術」は主観データが客観データに比べて高い。



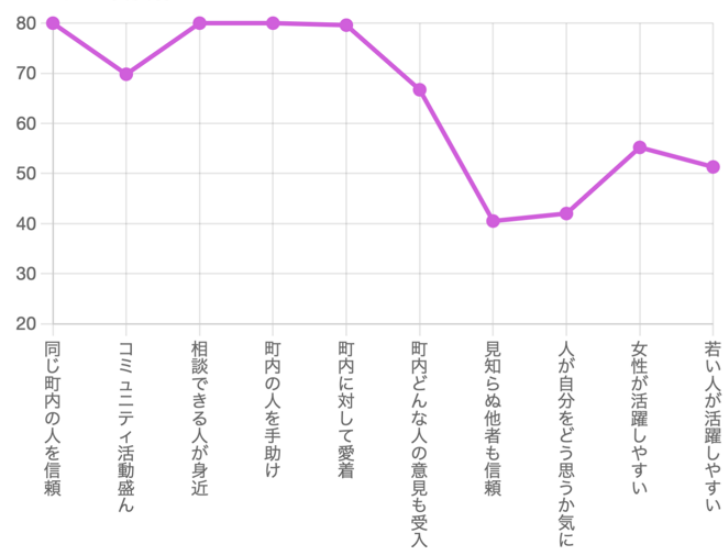
さらに因子をカテゴリー別に散布図にすると、「公共空間」「都市景観」「移動交通」「買物・飲食」「遊び・娯楽」は主観も客観もともに低く、これらは「町の弱点」とも言えることがわかります。

一方で、「地域とのつながり」をはじめ、「健康状態」「環境共生」「自然災害」「住宅環境」「自己効力感」は主観・客観ともに高く、これらは「町の強み」とも言えます。ただし、「自己効力感」の客観因子は「首長選挙投票率」と「議会選挙の投票率」のため、実際には主観データのみを見ることが望ましいです。



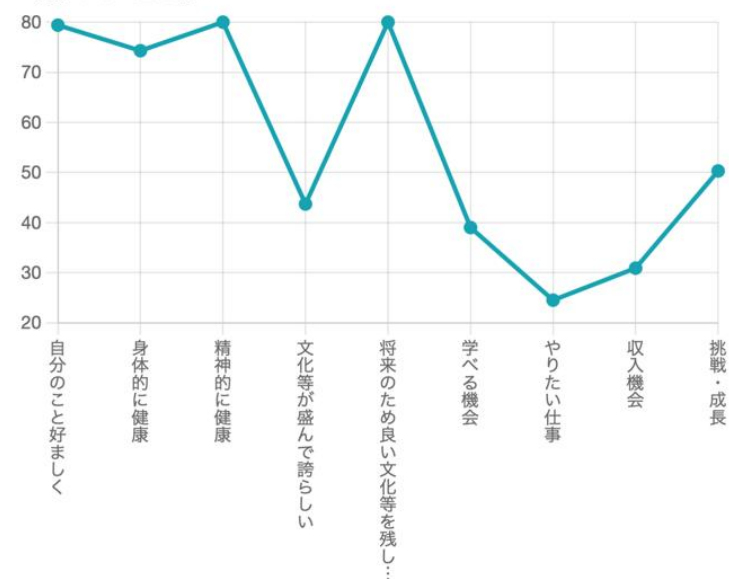
次に、各因子について、どの KPI によって因子が高くなっているか、あるいは低くなっているかの要因を分析しました。例えば、主観・客観ともに低い値であった「公共空間」を詳しくみると「街中や公園等で歩ける場所」や「公共施設の使い勝手」に関する評価が低いことがわかります。

地域の人間関係



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

自分らしい生き方



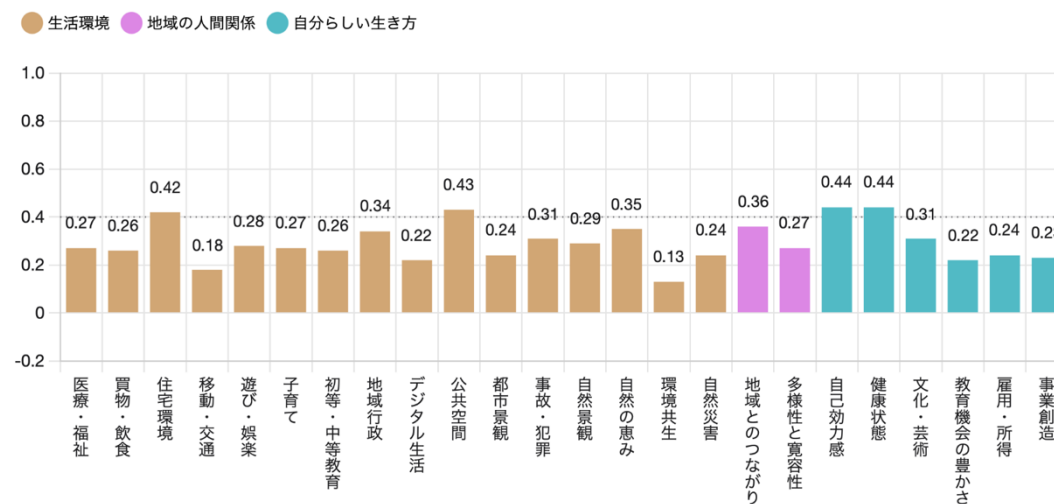
【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

同様に「地域の人間関係」についても見ていくと、「見知らぬ他者も信頼」評価が低いほか、「人が自分をどう思うか気にしない」という点も低いことがわかります。さらに「自分らしい生き方」のグラフからは、「やりたい仕事」「収入機会」「文化等が盛んで誇らしい」が低いことがわかります。

資料4 幸福度を高める因子の探求

住民アンケート結果を、幸福度と因子との相関係数で調べると、「住宅環境」「公共空間」「自己効力感」「健康状態」に一定の相関があることが見受けられます。このなかで主観・客観の両データが共に低いのは「公共空間」であるため、「街中や公園等で歩ける場所」や「公共施設の使い勝手」に関する評価を向上させていくことは、町民の幸福度を高める1つのアプローチになると考えられます。一方で、地域幸福度指標はあくまでも町の課題を俯瞰して捉えるための手法にすぎないため、現実的な生活の実感をかけあわせていくことで、より解像度高く課題を見つめていくことができると考えました。そこで、前述した「あつま課題発掘会議～ 中高生が拓くまちづくり編～」 「あつま課題発掘会議～ まちづくりを担う人材編～」 「あつま課題発掘ワークショップ～ 女性とキャリア編～」の3つの対話の場ででてきた意見ももとに、幸福度を高める因子についてさらに分析を実施しました。

幸福度と因子との相関係数



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

Section 1 「あつま課題発掘会議～ 中高生が拓くまちづくり編～」で得られた生活の実感

1－1 教育機会の豊かさに関する課題

地域幸福度（Well-being）指標に基づく、「教育機会の豊かさ」については主観データが客観データよりも低く乖離が生じています。実際にワークショップでは、「町内に塾が少なく地域外に出る必要性」や「大人が学び続ける施設や機会の少なさ」、「町主催ではない文化に関する学び場の少なさ」が挙げられています。また高齢者が車で移動できなくなることで学びの場にアクセスできないという移動交通とも関わる地域課題が挙げられていました。

1－2 医療・福祉に関する課題

地域幸福度（Well-being）指標に基づく、「医療・福祉」についても主観データが客観データより大幅に低く乖離が生じています。ワークショップを通じて集まった生活の実感に基づく声には、「車がないため自由に行動できない」という移動交通に関わる地域課題が多く寄せられていました。「健康状態」に関する主観データは非常に良い一方で、客観データが低いことから、今後、高齢化がますます進むなかで主観数値も大幅な低下が予想できるため、「医療・福祉」については、移動の課題を解決することが極めて重要です。医療・福祉に関する生活実感としては、その他にも「専門的な医療の必要性」や「認知症への不安」の声が挙げられていました。

Section 2 「あつま課題発掘会議～ まちづくりを担う人材編～」 「あつま課題発掘ワークショップ～ 女性とキャリア編～」で得られた生活の実感

1－1 買物・飲食に関する課題

地域幸福度（Well-being）指標に基づく、「買物・飲食」については主観データが客観データより大幅に低く乖離が生じています。実際にワークショップでも、札幌や苫小牧などの地域外で買物をすることがなどの声が多く挙げられました。また大きな小売店ができることで個人商店への影響もあるため、個人商店が宅配機能を持つことで移動交通の課題もあわあせて解決しつつ、地域内での買物に対する満足度をあげていくアイデアも出されていました。

1-2 多様性と寛容性に関する課題

地域幸福度（Well-being）指標に基づく、「**地域とのつながり**」についての主観データは大幅に高くなっています。一方でワークショップでも、新たな家を借りる際に、つながりがあれば借りられるものの、地域外から入ってきた際に家探しに苦労をした声もあがっており、地域とのつながりが強い一方で、見知らぬ他者に対する寛容性の課題が確認できました。

1-3 教育機会の豊かさに関する課題

地域幸福度（Well-being）指標に基づく、「**教育機会の豊かさ**」については主観データが客観データよりも低く乖離が生じていることは前述のとおりですが、「あつま課題発掘会議～まちづくりを担う人材編～」では、その質として、「スポーツに関する学びの機会が少ない」という声が寄せられました。また「移動図書などを学校のみを対象に実施するのではなく、町民にも実施をしたらどうか」という意見があり、移動交通の課題がある町のなかで、学びの機会へのアクセスの豊かさをいかに向上させるかという議論がなされました。

1-4 デジタル生活に関する課題

地域幸福度（Well-being）指表に基づく、「**デジタル生活**」については主観データが客観データよりも高いものの、「あつま課題発掘ワークショップ～女性とキャリア編～」では、子どもの送迎や祖父母の介護などを担う中心的な存在に地域の女性になっており、そのことで人生の待機時間が長くなっているという意見が寄せられました。自由にできない時間が多いことは、可処分時間が少ないことと同じであり、そのような状況のなかでは情報を自ら取りに行く時間や行動が起こしにくい状態にあることが確認できました。デジタル技術を活用した情報の積極的な広報や生活者一人一人に届くような工夫の余地があることがわかりました。

1-5 雇用・所得に関する課題

地域幸福度（Well-being）指表に基づく、「**雇用・所得**」については主観データは客観データよりも大幅に低くなっています。さらにデータを女性のみに限定すると全体で見た場合の偏差値よりもさらに低下することから、町内の女性は特に「雇用・所得」に関する課題を抱えていることが推測できます。ワークショップでも、例えば数時間だけ農作業の手伝いをするなど、短時間の雇用におけるマッチングが機能するなど、隙間時間を活かした多様な働き方の必要性に関する意見が寄せられました。